

2021年度

講義計画と内容

教育学研究科

【注意事項】

UTAS (<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>) の内容と相違がある場合には、UTASの内容を正としてください。

2021年 3月16日

2021年 5月 7日更新

2021年10月 8日更新 (シラバス項目)

目 次

I. 2021年度 大学院教育学研究科授業日程	1
II. 教育学研究科の成績評価基準について	2
III. 試験時の不正行為について	3
IV. レポート作成時の留意点について	4
V. 授業科目表	5
VI. 講義内容 (シラバス)	
総合教育科学専攻	
基礎教育学専修	
基礎教育学コース	18
教育社会科学専修	
比較教育社会学コース	46
生涯学習基盤経営コース	81
大学経営・政策コース	104
心身発達科学専修	
教育心理学コース	126
臨床心理学コース	156
身体教育学コース	190
学校教育高度化専攻	
教職開発コース	216
教育内容開発コース	241
学校開発政策コース	268
vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	291
viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧	301
ix. 地図	302

2021年度 教育学研究科授業日程

<p>入進学ガイダンス 4月 2日(金) (※大学経営・政策コースは3日(土))</p> <p>【S1S2】 授業期間 4月 5日(月) ～ 7月30日(金) S1S2修了試験 7月16日(金)、19日(月)、20日(火)、21日(水)、 22日(木)(※大学経営・政策コースは17日(土)) 補講・集中講義 7月26日(月)～30日(金) 授業休止日 4月12日(月) : 東京大学記念日 5月14日(金)午後 : 五月祭準備 休日授業実施日 7月22日(木) : 海の日 ※5月28日(金)午前、6月1日(火)～3日(木)はS1 科目の補講日のため、S1S2の授業を休止します。</p> <p>【S1】 授業期間 4月 5日(月) ～ 6月 3日(木) S1修了試験 5月21日(金)午前、25日(火)、26日(水)、 27日(木)、28日(金)午後、31日(月) (※大学経営・政策コースは29日(土)) 補講・集中講義 5月28日(金)午前、6月1日(火)～3日(木) 授業休止日 4月12日(月) : 東京大学記念日 5月14日(金)午後 : 五月祭準備</p> <p>【S2】 授業期間 6月 4日(金) ～ 7月30日(金) S2修了試験 7月16日(金)、19日(月)、20日(火)、21日(水)、 22日(木)(※大学経営・政策コースは17日(土)) 休日授業実施日 7月22日(木) : 海の日 補講・集中講義 7月26日(月)～30日(金)</p> <p>【夏季休業】 7月22日(木) ～ 9月30日(木)</p>	<p>【A1A2】 授業期間 10月 2日(土) ～ 1月31日(月) A1A2修了試験 1月19日(水)、20日(木)、21日(金)、 24日(月)、25日(火) (※大学経営・政策コースは22日(土)) 補講・集中講義 1月26日(水)～31日(月) 授業振替日 1月18日(火) 金曜日の授業 授業休止日 11月22日(月)全日 : 駒場祭 11月24日(水)午前 : 駒場祭後片付け 1月14日(金)全日 : 大学入学共通テスト準備 休日授業実施日 11月 3日(水) : 文化の日 ※11月24日(水)午後、25日(木)、26日(金)はA1 科目の補講日のため、A1A2の授業を休止します。 ※大学経営・政策コースは11月20日(土)がA1科 目の補講日のため、A1A2の授業を休止します。</p> <p>【A1】 授業期間 10月 2日(土) ～ 11月26日(金) A1修了試験 11月15日(月)、16日(火)、17日(水)、 18日(木)、19日(金) (※大学経営・政策コースは13日(土)) 補講・集中講義 11月24日(水)午後、25日(木)、26日(金) (※大学経営・政策コースは20日(土)を含む) 授業休止日 11月22日(月)全日 : 駒場祭 11月24日(水)午前 : 駒場祭後片付け 休日授業実施日 11月 3日(水) : 文化の日</p> <p>【A2】 授業期間 11月27日(土) ～ 1月31日(月) A2修了試験 1月19日(水)、20日(木)、21日(金)、 24日(月)、25日(火) (※大学経営・政策コースは22日(土)) 補講・集中講義 1月26日(水)～31日(月) (※大学経営・政策コースは29日(土)を含む) 授業振替日 1月18日(火) 金曜日の授業 授業休止日 1月14日(金)全日 : 大学入学共通テスト準備</p> <p>【冬季休業】 12月28日(火) ～ 1月 3日(月)</p> <p>【春季休業】 2月 1日(火) ～ 3月31日(木)</p>
--	---

【休業期間の集中講義日程】

8月 2日(月)～ 9月3日(金)

【2021年度 修士論文日程】

修士論文題目届提出期間	11月24日(水)	～	12月 1日(水)
修士論文提出期間	1月 4日(火)	～	1月 7日(金)16時30分締切
修士論文要旨提出期間	1月 4日(火)	～	1月11日(火)16時30分締切

【授業時間帯】

午前	第1時限	8時30分	～	10時15分
	第2時限	10時25分	～	12時10分
午後	第3時限	13時00分	～	14時45分
	第4時限	14時55分	～	16時40分
	第5時限	16時50分	～	18時35分
	第6時限	18時45分	～	20時30分

教育学研究科の成績評価基準について

本研究科の成績評価は、以下の基準に基づいて行なわれます。

評価	基準
優	授業の科目目標となっている課題を十分に満たす、優秀な学習・研究成果を示した。
良	授業の科目目標となっている課題を満たす学習・研究成果を示した。
可	授業の科目目標となっている課題に関して、ある程度の学習・研究成果を示した。
不可	授業の科目目標となっている課題に関して、評価できる学習・研究成果を示すことができなかった。

試験時の不正行為について

1. 筆記試験による場合

試験は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。

不正行為を行ったと認められた者は、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

2. 平常点による場合

授業中に不正行為を行ったと認められた者も、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

3. レポートによる場合

科目によっては学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。その際、教員から特別な指示がない限り、レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他の文章やデータ、URL を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効と判定されるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。またレポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も、同様に取り扱われる。

レポート作成時の留意点について

レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他者の文章やデータ、Web上の情報等を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効となるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点が無効とされ、学生処分の対象となる。また、レポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も同様に取り扱われる。

(2) 教育学研究科授業科目表

〔 自 2021年4月
至 2022年3月 〕

総合教育学専攻 基礎教育学専修

基礎教育学コース

【備考欄の*印は、基礎教育学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-211-01	教育哲学基本研究	教育哲学演習Ⅰ	教授	山名 淳	2	S1S2		*2
23-211-02	教育人間学基本研究	教育思想演習	教授	小玉 重夫	2	S1S2		*2
23-211-03	教育人間学基本研究	教育人間学基本演習	准教授	片山 勝茂	2	S1S2		*2
23-211-04	教育史基本研究	日本教育史演習Ⅰ	教授	小国 喜弘	2	S1S2		*2
23-211-05	教育臨床学基本研究	教育臨床学基本演習	教授	田中 智志	2	S1S2		*2
23-211-06	教育臨床学基本研究	臨床現象学Ⅰ	准教授	大塚 類	2	S1S2		
23-211-07	基礎教育学特殊研究	基礎教育学総合演習	教授 教授 教授 准教授 准教授	田中 智志 小玉 重夫 山名 淳 小国 喜弘 片山 勝茂 大塚 類	2	通年	* 隔週	*2
23-211-08	教育哲学特殊研究	教育哲学演習Ⅱ	教授	山名 淳	2	A1A2		*2
23-211-09	教育人間学特殊研究	教育政治学演習	教授	小玉 重夫	2	A1A2		*2
23-211-10	教育人間学特殊研究	教育人間学特殊研究	准教授	片山 勝茂	2	A1A2		*2
23-211-11	教育史特殊研究	日本教育史演習Ⅱ	教授	小国 喜弘	2	A1A2		*2
23-211-12	教育史特殊研究	教育思想史特殊講義Ⅳ	非常勤講師	山内 紀幸	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-211-13	教育臨床学特殊研究	教育臨床学演習	教授	田中 智志	2	A1A2		*2
23-211-14	教育臨床学特殊研究	臨床現象学Ⅱ	准教授	大塚 類	2	A1A2		
23-211-15	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-16	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-17	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	教授	小玉 重夫	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-18	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	教授	小玉 重夫	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-19	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-20	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-21	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	

23-211-22	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-23	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	教授	田中 智志	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-24	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	教授	田中 智志	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-25	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-26	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 教育社会科学専修
比較教育社会学コース

【備考欄の*印は、比較教育社会学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開 講 時 期	備 考	教職課程 認定区分
23-212-01	教育社会学基本研究	現代日本社会における教育・仕事・家族	教授	本田 由紀	2	S2		*2
23-212-02	教育社会学基本研究	市民社会・国家・教育	准教授	仁平 典宏	2	A2		*2
23-212-03	高等教育論基本研究	高等教育の社会学Ⅰ	教授	橋本 鈺市	2	S1S2		*2
23-212-04	比較教育システム論基本研究	教育社会学の諸概念	教授	中村 高康	2	S1		*2
23-212-05	比較教育システム論基本研究	教育社会学方法論研究	教授	三輪 哲	2	A1A2		*2
23-212-06	教育社会学特殊研究	教育社会学の研究課題	教授	本田 由紀	2	A1A2		*2
23-212-07	教育社会学特殊研究	教育言説の社会学	准教授	仁平 典宏	2	S1		
23-212-08	教育社会学特殊研究	障害の社会理論を読む	准教授	星加 良司	2	S1S2		
23-212-09	教育社会学特殊研究	教育社会の計量分析	教授	佐藤 香	2	S1S2		*2
23-212-10	教育社会学特殊研究	越境する子どもと若者：教育人類学の視点から	非常勤講師	徳永 智子	2	S2		
23-212-11	教育社会学特殊研究	Ethnicity, Nationalism and Education	非常勤講師	高橋 史子	2	A1A2		
23-212-12	高等教育論特殊研究	高等教育の社会学Ⅱ	教授	橋本 鈺市	2	A1A2		*2
23-212-13	比較教育システム論特殊研究	教育と選抜の諸問題	教授	中村 高康	2	A1A2		*2
23-212-14	比較教育学特殊研究	質的方法論研究	准教授	額賀 美紗子	2	A1		*2
23-212-15	比較教育学特殊研究	グローバル時代の国際移動と教育	准教授	額賀 美紗子	2	A2		
23-212-16	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-17	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-18	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	仁平 典宏	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	

23-212-19	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	仁平 典宏	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-20	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	星加 良司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-21	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	准教授	星加 良司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-22	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-23	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-24	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	三輪 哲	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-25	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	三輪 哲	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-26	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	客員教授	岡本 智周	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-27	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	客員教授	岡本 智周	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-28	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	教授	橋本 欽市	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-29	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	教授	橋本 欽市	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-30	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-31	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-32	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	額賀 美紗子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-33	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	額賀 美紗子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-34	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	客員教授	恒吉 僚子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-35	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	客員教授	恒吉 僚子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 教育社会科学専修

生涯学習基盤経営コース

【備考欄の*印は、生涯学習基盤経営コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-213-01	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅰ	教授	牧野 篤	2	S1		*2
23-213-02	図書館情報学基本研究	図書館情報学研究方法論	教授	影浦 峯	2	S1S2		*2
23-213-03	図書館情報学基本研究	図書館情報学総合研究	教授	影浦 峯	2	通年	隔週	
23-213-04	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅰ	准教授	李 正連	2	A1		*2
23-213-05	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅱ	准教授	新藤 浩伸	2	A2		*2
23-213-06	社会教育学特殊研究	プログラム評価論	非常勤講師	安田 節之	2	8-9月	集中講義(8-9月)	*2

23-213-07	社会教育学特殊研究	比較生涯学習論	非常勤講師	関 直規	2	A1		
23-213-08	図書館情報学特殊研究	情報媒体構造論	教授	影浦 峽	2	A1A2		*2
23-213-09	図書館情報学特殊研究	図書館情報学理論研究	准教授	河村 俊太郎	2	S1S2		*2
23-213-10	図書館情報学特殊研究	図書館情報学特別講義	客員准教授	池内 淳	2	A1A2		
23-213-11	図書館情報学特殊研究	デジタルドキュメント論	非常勤講師	阿辺川 武	2	S1S2		
23-213-12	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-13	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-14	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	李 正連	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-15	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	李 正連	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-16	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-17	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-18	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峽	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-19	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峽	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-20	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-21	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-22	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員准教授	池内 淳	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-23	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員准教授	池内 淳	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 教育社会科学専修

大学経営・政策コース

【備考欄の*印は、大学経営・政策コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-214-01	大学経営政策基本研究	高等教育論	教授 非常勤講師 非常勤講師	阿曾沼 明裕 山田 礼子 吉田 文	2	S2		*2
23-214-02	大学経営政策基本研究	高等教育政策論	教授	阿曾沼 明裕	2	A1A2		*2
23-214-03	大学経営政策基本研究	比較大学論	教授	福留 東土	2	A1A2		*2
23-214-04	大学経営政策基本研究	大学経営政策演習(2)	教授 准教授	福留 東土 両角 亜希子	2	通年	隔週	*2
23-214-05	大学経営政策基本研究	大学経営政策研究	教授 教授 准教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子	2	通年	* 隔週	*2
23-214-06	大学経営政策基本研究	大学経営論	准教授	両角 亜希子	2	S1		*2

23-214-07	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(1)	教授 非常勤講師 非常勤講師	福留 東土 倉元 直樹 堀 有喜衣	2	S1S2		*2
23-214-08	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(2)	准教授 客員教授 客員教授 非常勤講師 非常勤講師	両角 亜希子 小方 直幸 杉本 和弘 中井 俊樹 中島 英博	2	A1A2		*2
23-214-09	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(1)	非常勤講師	大多和 直樹	2	8-9月	* 集中講義(8-9月)	*2
23-214-10	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(2)	非常勤講師	濱中 義隆	2	A1A2		*2
23-214-11	大学経営政策特殊研究	比較大学経営論(1)	教授	福留 東土	2	A2	集中講義(A2)	*2
23-214-12	大学経営政策特殊研究	大学経営事例研究(2)	准教授	両角 亜希子	2	通年	不定期開講(詳細は掲示等参照)	*2
23-214-13	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 教授 教授 准教授 客員教授 客員教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 栗田 佳代子 両角 亜希子 小方 直幸 杉本 和弘	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-214-14	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 教授 教授 准教授 客員教授 客員教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 栗田 佳代子 両角 亜希子 小方 直幸 杉本 和弘	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

教育心理学コース

【備考欄の*印は、教育心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-215-01	教授・学習心理学基本研究	教授・学習過程の心理学 I	准教授	清河 幸子	2	S1S2		
23-215-02	発達心理学基本研究	感情と進化・文化	教授	遠藤 利彦	2	S1S2		*2
23-215-03	発達心理学基本研究	ことばと認知の発達 I	教授	針生 悦子	2	S1S2		*2
23-215-04	教育認知科学基本研究	創造的認知の心理学 I	教授	岡田 猛	2	S1S2	合併科目(学際情報学府)	*2
23-215-05	教育情報科学基本研究	心理統計学特論	准教授	岡田 謙介	2	A1A2		
23-215-06	教育情報科学基本研究	心理統計学演習	准教授	岡田 謙介	2	S1S2		
23-215-07	教授・学習心理学特殊研究	教授・学習過程の心理学 II	准教授	清河 幸子	2	A1A2		
23-215-08	発達心理学特殊研究	関係性と子どもの社会情 緒的発達	教授	遠藤 利彦	2	A1A2		*2
23-215-09	発達心理学特殊研究	ことばと認知の発達 II	教授	針生 悦子	2	A1A2		*2
23-215-10	教育認知科学特殊研究	創造的認知の心理学 II	教授	岡田 猛	2	A1A2	合併科目(学際情報学府)	*2
23-215-11	教育情報科学特殊研究	縦断データ分析	准教授	宇佐美 慧	2	S1S2		
23-215-12	教育情報科学特殊研究	心理測定のための数学 的道具	非常勤講師	前川 眞一	2	S1S2		
23-215-13	教育情報科学特殊研究	心理測定学特論	非常勤講師	加藤 健太郎	2	A1A2		

23-215-14	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	清河 幸子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-15	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	清河 幸子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-16	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-17	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-18	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-19	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-20	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-21	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-22	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-23	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-24	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-25	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-26	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-27	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-28	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-29	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-30	教育情報科学特殊研究	心理統計学の近年の展開	准教授	宇佐美 慧	2	A1A2		

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

臨床心理学コース

【備考欄の*印は、臨床心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-216-01	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅰ)	教授 講師	能智 正博 野中 舞子	1	S1S2	* 修士2年必須	*5
23-216-02	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅱ(心理実践実習Ⅱ)	教授 講師	能智 正博 野中 舞子	1	A1A2	* 修士2年必須	*5
23-216-03	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理学特論Ⅰ	講師 教授	野中 舞子 下山 晴彦	2	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-04	臨床心理システム論基本研究	臨床心理学特論Ⅱ	教授	高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-05	臨床心理システム論基本研究	臨床心理面接特論Ⅱ	教授	能智 正博	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-06	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	准教授 教授	滝沢 龍 下山 晴彦	2	S1S2	* 修士1年必須	*5

23-216-07	発達臨床心理学基本研究	臨床心理査定演習Ⅱ	准教授 教授	滝沢 龍 高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-08	臨床心理カリキュラム論基本 研究	臨床心理基礎実習Ⅰ	教授 教授 講師	高橋 美保 下山 晴彦 野中 舞子	1	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-09	発達臨床心理学基本研究	臨床心理基礎実習Ⅱ	教授 教授	高橋 美保 能智 正博	1	S1S2	* 修士1年必須	*5
23-216-10	発達臨床心理学基本研究	臨床心理面接特論Ⅰ(心 理支援に関する理論と実 践)	教授	高橋 美保	2	A1A2	* 修士1年必須	*5
23-216-11	臨床心理カリキュラム論特殊 研究	臨床心理学研究法	教授 准教授	能智 正博 滝沢 龍	2	S1S2		*2
23-216-12	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメン ト基礎(福祉分野に関する 理論と支援の展開)	教授	能智 正博	2	S1S2	隔年で開講。2022年度は開 講しない。	
23-216-13	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメン ト応用(教育分野に関する 理論と支援の展開)	講師	野中 舞子	2	A1A2	隔年で開講。2022年度は開 講しない。	
23-216-14	臨床心理システム論特殊研 究	コミュニティアプローチ特 論(家族関係・集団・地域 社会における心理支援に 関する理論と実践)	非常勤講師	久田 満	2	A1A2	隔年で開講。2022年度は開 講しない。	
23-216-15	発達臨床心理学特殊研究	精神医学特論(保健医療 分野に関する理論と支援 の展開)	准教授	滝沢 龍	2	A1A2		*2
23-216-16	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパ ービジョンⅠ	非常勤講師	田中 究	2	S1S2	*	*2
23-216-17	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパ ービジョンⅡ	非常勤講師	田中 究	2	A1A2	*	*2
23-216-18	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパ ービジョンⅢ	非常勤講師	林 潤一郎	2	S1S2	*	
23-216-19	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパ ービジョンⅣ	非常勤講師	林 潤一郎	2	A1A2	*	
23-216-20	発達臨床心理学特殊研究	障害学演習	教授	福島 智	2	A1A2		*2
23-216-21	臨床心理システム論論文指 導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-22	臨床心理システム論論文指 導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-23	臨床心理システム論論文指 導	臨床心理学論文指導	客員教授	原田 隆之	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-24	臨床心理システム論論文指 導	臨床心理学論文指導	客員教授	原田 隆之	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-25	臨床心理カリキュラム論論文 指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-26	臨床心理カリキュラム論論文 指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-27	臨床心理カリキュラム論論文 指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-28	臨床心理カリキュラム論論文 指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-29	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-30	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

23-216-31	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	教授 准教授	下山 晴彦 星加 良司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-32	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	教授 准教授	下山 晴彦 星加 良司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-33	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	教授	福島 智	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-34	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	教授	福島 智	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジ メント基礎(産業・労働分野に 関する理論と支援の展 開)	—	—	2	—	隔年で開講。2021年度は開 講しない。	*5
	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジ メント応用(心の健康教育に 関する理論と実践)	—	—	2	—	隔年で開講。2021年度は開 講しない。	*5
	臨床心理カリキュラム論特殊 研究	司法・犯罪分野に関する 理論と支援の展開	—	—	2	—	* 隔年で開講。2021年度は 開講しない。	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

身体教育学コース

【備考欄の*印は、身体教育学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-217-01	身体教育学基本研究	身体教育学の諸問題 I	教授	野崎 大地	2	S1S2		*7
23-217-02	教育生理学基本研究	身体システム論 I	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	S1S2	合併科目(新領域創成科学 研究科)	*7
23-217-03	発達脳科学基本研究	発達脳科学特論 I	教授	多賀 厳太郎	2	S1		*7
23-217-04	健康教育学基本研究	健康教育学の諸問題 I	教授 准教授	佐々木 司 東郷 史治	2	S1S2		*6
23-217-05	身体教育学特殊研究	身体教育学の諸問題 II	教授	野崎 大地	2	A1A2		*7
23-217-06	身体教育学特殊研究	スポーツ脳科学特論	客員教授	柏野 牧夫	2	8-9月	集中講義(8-9月)	
23-217-07	教育生理学特殊研究	身体システム論 II	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	A1A2	合併科目(新領域創成科学 研究科)	*7
23-217-08	教育生理学特殊研究	日常生活下調査から認 知・行動変容までの教育・ 健康科学応用	客員准教授	菊地 裕絵	2	A2		
23-217-09	発達脳科学特殊研究	発達脳科学特論 II	教授	多賀 厳太郎	2	A1		*7
23-217-10	健康教育学特殊研究	健康教育学の諸問題 II	教授 准教授	佐々木 司 東郷 史治	2	A1A2		*6

23-217-11	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-12	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-13	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-14	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-15	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	客員教授	柏野 牧夫	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-16	身体教育科学論文指導	身体教育科学論文指導	客員教授	柏野 牧夫	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-17	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-18	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-19	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	准教授	東郷 史治	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-20	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	准教授	東郷 史治	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-21	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	客員准教授	菊地 裕絵	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-22	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	客員准教授	菊地 裕絵	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-23	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-24	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-25	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-26	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

教職開発コース

【備考欄の*印は、教職開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-301-01	教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)	授業における学習研究	客員教授	秋田 喜代美	2	S1S2	隔週	*1
23-301-02	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・基礎研究)	教育実践の歴史的研究	准教授	浅井 幸子	2	S1		*3
23-301-03	教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)	保育学研究	准教授	野澤 祥子	2	A1A2	隔週	*3
23-301-04	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・発展研究)	学校教育研究と談話分析	教授	藤江 康彦	2	S1		*1
23-301-05	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	日本の学校の歴史的形 成	非常勤講師	木村 元	2	S1S2	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-06	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	学習と発達に対する社会 歴史的アプローチ	非常勤講師	石黒 広昭	2	A1A2	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-07	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	ヴァン・マーンンの教育学	非常勤講師	村井 尚子	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3

23-301-08	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-09	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-10	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	芸術教育の歴史社会学	客員教授	有本 真紀	2	S1S2	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-11	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	現代教育法の課題	非常勤講師	中川 律	2	S1S2	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-12	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教育政策の比較政治学的 分析	非常勤講師	坂部 真理	2	A1	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-13	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	授業の事例研究	教授	藤江 康彦	2	A1	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-14	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	教職の事例研究	准教授	浅井 幸子	2	S2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-15	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	言語教育の事例研究	教授	斎藤 兆史	2	S1S2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-16	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	教科教育の心理学的事例 研究	教授	藤村 宣之	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-17	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	授業の実地研究	准教授	浅井 幸子	2	A1A2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-18	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	北村 友人	2	A1A2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-19	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	客員教授	秋田 喜代美	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-20	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	客員教授	秋田 喜代美	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-21	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	教授	藤江 康彦	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-22	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	教授	藤江 康彦	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-23	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	准教授	浅井 幸子	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-24	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指 導)	カリキュラム研究論文指 導	准教授	浅井 幸子	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

教育内容開発コース

【備考欄の*印は、教育内容開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	備考	教職課程 認定区分
23-302-01	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*1
23-302-02	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-03	教育内容開発・理論研究 (芸術教育・基礎研究)	芸術教育の歴史社会学	客員教授	有本 真紀	2	S1S2	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*1
23-302-04	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)	Research Methods in Education	非常勤講師	荒木 啓史	2	A2	集中講義(A2)	
23-302-05	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・発展研 究)	数学的・科学的思考の発 達と授業過程	教授	藤村 宣之	2	S1		*1
23-302-06	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)	英語教授法	教授	斎藤 兆史	2	A1A2	合併科目(総合文化研究 科)	*1

23-302-07	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts	教授	北村 友人	2	A1	合併科目(新領域創成科学 研究科・総合文化研究科)	*3
23-302-08	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	日本の学校の歴史的形 成	非常勤講師	木村 元	2	S1S2	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-09	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	学習と発達に対する社会 歴史的アプローチ	非常勤講師	石黒 広昭	2	A1A2	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-10	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	ヴァン・マーネンの教育学	非常勤講師	村井 尚子	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-11	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	現代教育法の課題	非常勤講師	中川 律	2	S1S2	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-12	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教育政策の比較政治学 的分析	非常勤講師	坂部 真理	2	A1	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*1
23-302-13	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	言語教育の事例研究	教授	斎藤 兆史	2	S1S2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-14	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教科教育の心理学的事 例研究	教授	藤村 宣之	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-15	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	授業の事例研究	教授	藤江 康彦	2	A1	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-16	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教職の事例研究	准教授	浅井 幸子	2	S2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-17	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	北村 友人	2	A1A2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-18	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	授業の実地研究	准教授	浅井 幸子	2	A1A2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-19	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	教授	斎藤 兆史	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-20	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	教授	斎藤 兆史	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-21	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-22	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-23	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	教授	北村 友人	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-24	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	教授	北村 友人	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-25	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	客員教授	有本 真紀	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-26	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	客員教授	有本 真紀	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

学校開発政策コース		【備考欄の*印は、学校開発政策コース所属学生のみ履修可】						
時間割コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単位数	開講時期	備考	教職課程認定区分
23-303-01	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・基礎研究)	現代学校改革の諸問題	教授	勝野 正章	2	S1S2		*1
23-303-02	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	教育政策基礎論	准教授 准教授	村上 祐介 橋野 晶寛	2	S1S2		*3
23-303-03	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	現代教育法の課題	非常勤講師	中川 律	2	S1S2	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-04	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策研究方法論	准教授	橋野 晶寛	2	A1A2		*1
23-303-05	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策の比較政治学的 分析	非常勤講師	坂部 真理	2	A1	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-06	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	日本の学校の歴史的形 成	非常勤講師	木村 元	2	S1S2	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-07	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	学習と発達に対する社会 歴史的アプローチ	非常勤講師	石黒 広昭	2	A1A2	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-08	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	ヴァン・マーンンの教育学	非常勤講師	村井 尚子	2	A2	集中講義(A2) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-09	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-10	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-11	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	芸術教育の歴史社会学	客員教授	有本 真紀	2	S1S2	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-12	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)	教育行政事例研究I	准教授	村上 祐介	2	A1A2		*1
23-303-13	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・事例研究)	学校経営実践の開発I	教授	勝野 正章	2	A1		*3
23-303-14	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・実地研究)	学校経営実地研究	教授	勝野 正章	2	A1A2		*1
23-303-15	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育行政実地研究	准教授	村上 祐介	2	A1A2		
23-303-16	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育政策実地研究	准教授	橋野 晶寛	2	A1A2		
23-303-17	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-18	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-19	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	准教授	村上 祐介	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-20	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	准教授	村上 祐介	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-21	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-22	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	* 隔週 博士課程のみ	

共通科目

時間割コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単位数	開講時期	備考	教職課程認定区分
23-214-15	共通科目	大学教育開発論	教授	栗田 佳代子	2	S1S2 (木)	研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。 隔週。 本科目は同一の内容を4回実施する。 本科目は1回のみ履修とし、年度に関わらず複数回履修することはできない。	
23-214-16					2	S1S2 (金)		
23-214-17					2	A1A2 (木)		
23-214-18					2	A1A2 (金)		

教育研究創発国際卓越大学院

時間割コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単位数	開講時期	備考	教職課程認定区分
23-901-01	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修Ⅰ	-	各教員	1	その他	WINGS-CERプログラム生限定。 研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。	
23-901-02	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修Ⅱ	-	各教員	1	その他	WINGS-CERプログラム生限定。 研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。	
23-901-03	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修Ⅲ	-	各教員	1	その他	WINGS-CERプログラム生限定。 研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。	

教職課程認定区分(教科)	記号
中高専修(本学で認定されている課程の教科すべて)	*1
中専修社会・保健体育・保健、高専修地歴・公民・保健体育	*2
小専修、中専修社会、高専修地歴・公民	*3
小専修	*4
中専修社会、高専修公民	*5
中専修保健、高専修保健	*6
中専修保健体育、高専修保健体育	*7

時間割コード	23-211-01	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	山名 淳				
授業科目	教育哲学基本研究				
講義題目	教育哲学演習 I Seminar in Educational Philosophy I				

授業の目標・概要	<p>1980年代以降のいわゆる学際的な「記憶ブーム」は教育学にとっても無視できない重要性を帯びている。教育は本来的に記憶と想起に介入する営みとしての側面を有しているからだ。それにもかかわらず、教育学においてそのような新たな研究動向についてはこれまでのところ十分に検討がなされてきたとはいえない。本授業では、とりわけ人文・社会科学領域における近年の記憶論(とくに「集合的記憶」「コミュニケーション的記憶」「文化的記憶」論)に注目しつつ、メモリー・スタディーズを基盤としたメモリー・ペダゴジーの構築可能性を探る。</p> <p>本授業を通じて、受講生は(1)「集合的記憶」論の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)「集合的記憶」論との関連で、現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。</p>
授業計画	<p>前年度までの授業においては、哲学を中心として、記憶と想起に関する考察を含む重要テキストを選択して、その内容を教育学の観点も交えて検討を行ってきた。今年度は、その関心を引き継ぎつつ、より積極的に他の関連分野(心理学、社会学、メディア論、歴史学、文学、言語学、諸自然科学)をも視野に捉えた学際的な「メモリー・スタディーズ」の全体像を捉えることに重点を置く。そこでは、「メディア」、「アート」、「リプレゼンテーション(代理/表象)」、「アイデンティティ」、「他者」など、さまざまな鍵概念がメモリー・スタディーズと教育学の接点に浮かび上がるはずだ。各受講生の問題関心に基づいて議論の可能性を開いてほしい。</p>
授業の方法	<p>今回は、アストリッド・エアルの『集合的記憶と想起文化ーメモリー・スタディーズ入門』(ドイツ語版、英語版)の内容を検討することによって、メモリー・スタディーズの全体像を捉えつつ、各受講生の関心に基づいて教育学(とりわけ教育哲学)との架橋可能性について検討を行う。検討のための補助手段として、授業担当者の翻訳私案も使用する。授業担当者によるイントロダクションの後、あらかじめ指定した担当受講生が同テキストの担当箇所について報告を行う。その後、まず受講生はリアクションペーパーに各自の感想を記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者はそれを持ち帰り、次回の授業においてそれに対するコメントを行い、次の内容へと向かう。学期末には、今回のテキストの著者であるエアル氏とオンラインで繋ぎ、ストリーミングでの検討会に参加していただいて議論を行う(予定)。</p>
成績評価方法	<p>平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者50パーセント、後者50パーセント)。</p>
教科書	「参考書」欄を参照。
履修上の注意・備考	「教育哲学演習Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-211-02	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	小玉 重夫				
授業科目	教育人間学基本研究				
講義題目	教育思想演習 Seminar in Educational Thought				

授業の目標・概要	<p>教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向に留意する。本年はベンヤミン『暴力批判論』刊行から 100 年に当たる年であり、そのことも意識して、テーマを設定する。夏学期は、新型コロナウイルス感染拡大によって社会にもたらされた政治的変容、教育問題、監視社会化等の問題について、実践的、哲学的に考察を加え、今後の理論的課題につなげるために、イタリアのベンヤミン研究者であるジョルジョ・アガンベンがコロナ感染拡大の中で発表した論集『私たちはどこにいるのか？-政治としてのエピソード-』(ジョルジョ・アガンベン 著、高桑和巳 訳 青土社 2021 年)を取り上げたい。本書は、「コロナ時代において、主権的権力はいかに〈例外状態〉を継続させようとしているのか。私たちにとっての自由や、安全の意味はいかなる変容を遂げているのか——。発表されるやいなや世界中に議論を巻き起こした、アガンベンによるコロナ時代の格闘の軌跡。」(青土社ホームページより)を本にしたものであり、コロナ後の政治と教育を考える上で重要な批評の対象となり得るものであると言える。原則、オンラインでの授業を考えているが、状況を見ながら、ハイブリッド(対面とオンラインの併用)も考えている。詳細は初回の授業の時に説明をし、受講者と相談しながら進めていきたい。</p>
授業計画	<p>詳細は、初回の授業時(4月9日)に決めるが、大まかには、以下のような流れを考えている。『私たちはどこにいるのか？-政治としてのエピソード-』(ジョルジョ・アガンベン 著、高桑和巳 訳 青土社 2021 年)を以下の日程で順次検討する。1 自己紹介とガイダンス 2 前書き エピソードの発明 3 感染 説明 4 私たちはどこにいるのか？ ペストに関する省察 5 エピソードは例外状態が規則となったことを示している 社会的距離確保 6 一つの問い 剥き出しの生 7 新たな省察をいくつか 真と偽について 8 宗教としての医学 バイオセキュリティと政治 9 ポレモス・エピソード 学生たちに捧げるレクイエム 10 汚らしい二つの用語 法権利と生 11 緊急状態と例外状態 恐怖とは何か？ 12 13 まとめと討論</p>
授業の方法	報告と討論を中心とする。
成績評価方法	ゼミでの報告等による平常点。
教科書	こちらで用意をして参加者に配布の予定。
履修上の注意・備考	初回の授業時に担当の分担を決める予定。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-211-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	片山 勝茂				
授業科目	教育人間学基本研究				
講義題目	教育人間学基本演習 Basic Seminar in Educational Anthropology				

授業の目標・概要	「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。
授業の方法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。
成績評価方法	毎回提出するコメントカードとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。
教科書	Arthur, J. et al. (2014) Knightly Virtues: Enhancing Virtue Literacy Through Stories Research Report (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues).アリストテレス(2002)『ニコマコス倫理学』朴一功訳(京都大学学術出版会)。
履修上の注意・備考	正当な理由があつて欠席する人や通信環境の問題でオンライン授業に参加できなかった人は配慮するので、ITC-LMS の「課題」から欠席連絡を提出すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-211-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	小国 喜弘				
授業科目	教育史基本研究				
講義題目	日本教育史演習 I Seminar in Japanese Educational History I				

授業の目標・概要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は、1960年代高度経済成長期に焦点を当てることとし、前半において共通文献を、後半において個人発表を行うこととする。
授業計画	第一回:オリエンテーション第二回:文献購読 1 第三回:文献購読 2 第四回:文献購読 3 第五回:文献購読 4 第六回:文献購読 5 第七回:事例検討 1 第八回:事例検討 2 第九回:事例検討 3 第十回:事例検討 4 第十一回:事例検討 5 第十二回:事例検討 6 第十三回:事例検討 7
授業の方法	S1 については基本的にハイブリッドで行う。なお、対面については、二つの教室を確保し、そこでのグループワークなどを可能にするものとする。ただし感染状況に注意し、感染拡大の場合はオンラインのみに変更する可能性もある。
成績評価方法	個別の発表によって評価する。3分の2以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。
教科書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-211-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学基本研究				
講 義 題 目	教育臨床学基本演習 Basic Seminar in Clinical Approach to Education				

授業の目標・概要	この授業の到達目標は、現代教育を規定している諸概念について、臨床哲学的な考察を行うことである。教育の臨床哲学は、人間一人ひとりのかけがえない「一つの命」に応答することを教育の基本様態と位置づけつつ、存在論的な深みから、ひとがよりよく生きる方途としての教育を構想する試みである。教育臨床学の基礎概念を思想史的知見を踏まえつつ確認することで、よりよく生きるための教育の基礎づくりを試みる。
授 業 計 画	第1回 授業の概要(教育臨床学とは)第2回 教育の臨床哲学について第3回 人間的であるとはどういうことか第4回 音楽の力を考える 1 第5回 音楽の力を考える 2 第6回 映画の力を考える 1 第7回 映画の力を考える 2 第8回 文学の力を考える 1 第9回 文学の力を考える 2 第10回 芸術の力を考える 1 第11回 芸術の力を考える 2 第12回 現代の教育論について 1 第13回 現代の教育論について 2 第14回 哲学するという営み第15回 授業のまとめと最終レポート
授 業 の 方 法	教育臨床学の基本的な方法は、私たちがよりよく生きるために、そしてよりよい教育を構想するために、私たち自身の思考様式を批判的に考察することである。そのために、現代社会における主要な教育概念を取りあげ、その前提命題を問い直しつつ、その機能・逆機能を把握する。授業は基本的に演習形態である。
成績評価方法	評価は平常点、小レポート点、最終レポート点の合計によって決定する。 1 毎回、出席状況を確認する。 2 毎回、小レポートを課す。評価の 40%に相当する。 3 学期末の授業最終日に最終レポートを課す。評価の 60%に相当する。
教 科 書	授業の初回に指示する。
履修上の注意・備考	履修者は、教科書や参考書を適宜読み込み、報告・議論の準備をしてください。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-211-06	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	大塚 類				
授業科目	教育臨床学基本研究				
講義題目	臨床現象学 I Seminar in Clinical Phenomenology I				

授業の目標・概要	<p>【授業の目標】本ゼミのタイトルも「臨床現象学」であるが、現在日本では、●●現象学、現象学的△△、といった研究領域が多数展開している。しかし、何をもって●●現象学、現象学的△△と称しうるのは明確ではない。狭義には、現象学者の知見を理論的背景にすることが現象学的な研究であるが、広義には、ものごとを捉えるスタンスを現象学に依拠することも現象学的な研究に含まれる、と講義者は考えている。本ゼミでは、スタンスとしての現象学を共通理解にもたすために、現象学の創始者であるフッサールの主要概念を概観したのち、具体的な人間の在りようについて考察している現象学的研究を読んでいく。こうした歩みのなかで、1年間を通じて、「現象学的」とは何なのかという問いや、具体事例に基づく（現象学的な）倫理について触れることになる。【授業の概略】授業の概略は以下のとおりである。まず、斎藤慶典『フッサール：起源への哲学』を教科書として、「現象」「還元」「意味」「身体」「世界」「時間」といったフッサール現象学の根本概念を押さえる。現象学のスタンスについて理解する。そのうえで、受講者の興味関心とも関連させながら、臨床（教育）現象学、ケアの現象学、フェミニスト現象学、現象学的倫理学のなかで具体的な人間の在りようを扱っている文献を講読する。シラバスを書いている時点では、文学作品や映像作品に基づく研究や、現象学的スタンスから文学作品等（小説・エッセイ・漫画等）をどのように読み込めるのかというテーマは後期に扱う予定にしているが、受講者の状況次第で前期に持ってくる可能性もある。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション：スタンスとしての現象学 第2回 文献講読①：第2章「事象そのものへ：『現象』への還元」第3回 文献講読②：第3章「記号と意味：『現象』の内実」第4回 文献講読③：第4章「身体と私：『現象』の媒体」第5回 文献講読④：第5章「世界：『現象』の場所」第6回 文献講読⑤：第6章「時間と他なる者：『現象』の外部へ」第7回 中間相談タイム第8回 文献講読⑦ 第9回 文献講読⑧ 第10回 文献講読⑨ 第11回 文献講読⑩ 第12回 文献講読⑪ 第13回 文献講読⑫ 第14回 閑話休題後半の文献講読の題材として考えているもの①村上靖彦 2018『在宅無限大：訪問看護師が見た生と死』より第7章「若くして死ぬ人と向き合う—Dさん②」第8章「人生をやりきった子ども—Fさん」補章「私は看護師から何を学んだのか」②稲原美苗他編 2020『フェミニスト現象学入門：経験から「普通」を問い直す』より第4章「なぜ月経を隠さなくてはいけないのだろうか？：月経のフェミニスト現象学」第11章「男だってつらい？：男らしさと男性身体のフェミニスト現象学」第12章「人種は存在するのか？：差別に対するフェミニスト現象学的アプローチ」など③西村ユミ・榊原哲也 2017『ケアの実践とは何か：現象学からの質的研究アプローチ』より第10章「看護実践の構造：フッサールの志向性概念との対話」④吉川孝他編 2019『映画で考える生命環境倫理学』より終章「なぜ映画で倫理学なのか」第6章「『手』が創設する倫理：『この世界の片隅に』から考える人間と環境の関わり」第9章「食えること、人間であること、生き残ること：『ソイレント・グリーン』を手がかりに」など授業計画は受講者との相談により変更される場合があります。</p>
授業の方法	<p>演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になると思われる。研究科の方針によるが、おそらくオンライン授業になると思われる</p>
成績評価方法	<p>【評価方法】発表者は平常点、未発表者はレポート【評価基準】(1)授業への参加状況 ①事前に文献を読み、授業中の議論に積極的に加わって、理解を深めている。②文献に関する固有の解釈にもとづいて、自分なりの見解を発言している。③他者の発言に耳を傾け、自分の見解と関連させて、議論を発展させている。(2)レポート ①本授業で扱う題材について自分なりの関心にもとづいて要点を捉えている。②授業中の議論にもとづいて自分なりの論点を明らかにして議論している。③独創性のある論点が提示されており、説得力のある議論が展開されている。</p>
教科書	<p>斎藤慶典 2002『フッサール：起源への哲学』講談社 Kindle 版はありますが、書籍はすでに絶版のようなので、データでお渡しする予定です。</p>

履修上の注意・備考	おそらくオンライン形式になります。当事者性をもった積極的な参加を期待します。できれば通年での受講が望ましいです。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-211-07	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	田中 智志、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、片山 勝茂、大塚 類				
授業科目	基礎教育学特殊研究				
講義題目	基礎教育学総合演習 Colloquium in Basic Theories of Education				

授業の目標・概要	基礎教育学における研究は、教育諸学・教育実践を基礎づけ方向づける社会的・倫理的な志しをもつ内容でなければならない。この授業は、そうした基礎教育学研究者の社会的・倫理的な志しを鼓舞し、ともに高めあう協同的な研究教育の場である。具体的には、基礎教育学コースに属する教員スタッフ及び大学院生が各自、研究発表を行い、その内容について、検討する。とりわけ学位論文の執筆予定者は、この場で研究構想を発表し、各研究領域から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受けることが望ましい。日程等については、事前にコース内に掲示する。
授業計画	それぞれの回の担当者は早めに決めて、十分な準備をしてもらう。そして当日、それぞれのコース内容に従った特定の研究対象について、系統的なプレゼンテーションをしてもらう。その後、教官全員、ならびに当日の参加者との間で質疑応答をする一年を通して、取り上げるのが特定のコースに集中しないように、適宜バランスをとる事に配慮する
授業の方法	研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	適宜配布する
履修上の注意・備考	基礎教育学コースの院生は必ず履修すること
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-08	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	山名 淳				
授業科目	教育哲学特殊研究				
講義題目	教育哲学演習 II Seminar in Educational Philosophy II				

授業の目標・概要	「アーキテクチャ」と「メディア」を鍵概念として教育および「形成」(自己形成と文化形成との共起的現象)について論じるためことはいかにして可能だろうか。本授業では、このことに関するテキストを選定し、受講生とともにその内容を検討する。なお、S セメスターにおいて検討する「メモリー・スタディーズ」も念頭に置きつつ、それと(教育のアーキテクチャ/メディア論)との架橋可能性についても議論を行う。本授業を通じて、受講生は(1)教育哲学・思想史の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)「アーキテクチャ」および「メディア」を鍵として現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。
授業計画	教科書として指定した文献の各章ごとに担当受講生を決めて報告を行っていただく。その内容をもとにしてディスカッションを行う。また、教科書以外の関連文献を授業担当者もしくは受講生自身が選定し、その内容を検討することによって、議論のさらなる展開について考える。「授業の目標・概要」でも述べたように、S セメスターにおいて検討する「メモリー・スタディーズ」も念頭に置きつつ、それと(教育のアーキテクチャ/メディア論)との架橋可能性についても議論を行う。この点が、本授業の重要なポイントとなる。したがって、「アーキテクチャ」および「メディア」の他にも、たとえば「アート」、「リプレゼンテーション(代理/表象)」、「表現」、「暴力」、「権力」、「教育的保護」など S タームで重要となる諸概念にも注目していく。
授業の方法	授業担当者によるイントロダクションの後、各章担当受講生による報告(あるいは授業担当者もしくはゲスト・スピーカーによるレクチャー)を行う。その後、まず受講生はリアクションペーパーに各自の感想を記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。ディスカッションの形式(グループ討議か全体討議か)については受講生数によりあらためて判断する。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者はそれを持ち帰り、次回の授業においてそれに対するコメントを行い、次の内容へと向かう。
成績評価方法	平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50 パーセント、後者 50 パーセント)。
教科書	山名淳(2015)『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房
履修上の注意・備考	「教育哲学演習 I」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-211-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小玉 重夫				
授 業 科 目	教育人間学特殊研究				
講 義 題 目	教育政治学演習 Seminar in Politics of Education				

授業の目標・概要	教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向に留意する。本年はベンヤミン『暴力批判論』刊行から 100 年に当たる年であり、そのことも意識して、テーマを設定する。冬学期は、コロナ後の政治、社会と教育の関係を根本から問い直す課題に取り組むために、人新世(アントロポセン)の時代のポストヒューマンの思想を検討する。まず、映画『天気の子』(新海誠)とそれをめぐる批評を取り上げ、検討する。その後、『ポストヒューマン—新しい人文学に向けて』(ロージ・ブライドツィ著、門林岳史=監訳、2019 年、フィルムアート社)を取り上げる。同書は、人新世の時代において、人間たちはかつてと同じ「人間性」を保持しているとみなしうるのかについて、アレントやベンヤミンらの議論をふまえてつづつあつたもので、著者は、ニュー・マテリアリズムの代表的論者のひとりであり、ジュディス・バトラー以降のフェミニズム理論を牽引する研究者である。原則、オンラインでの授業を考えているが、状況を見ながら、ハイブリッド(対面とオンラインの併用)も考えている。詳細は初回の授業の時に説明をし、受講者と相談しながら進めていきたい。
授 業 計 画	詳細は、初回の授業時(10月8日)に決めるが、大まかには、以下のような流れを考えている。1 自己紹介とガイダンス 2 映画『天気の子』とその批評 13 映画『天気の子』とその批評 24、5 『ポストヒューマン—新しい人文学に向けて』序 第一章 ポスト人文主義——自己を超える生 6、7 同書 第二章 ポスト人間中心主義——種を超える生 8、9 同書 第三章 非人間的なもの——死を超える生 10、11 同書 第四章 ポストヒューマン人文学——理論を超える生 12、13 同書 結論 全体のまとめ
授 業 の 方 法	報告と討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	ゼミでの報告等による平常点。
教 科 書	こちらで用意をして参加者に配布の予定。
履修上の注意・備考	初回の授業時に担当の分担を決める予定。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-211-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	片山 勝茂				
授業科目	教育人間学特殊研究				
講義題目	教育人間学特殊研究 Seminar in Educational Anthropology				

授業の目標・概要	「教育人間学基本演習」に引き続き、「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。
授業の方法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。
成績評価方法	毎回提出するコメントカードとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。
教科書	Arthur, J. et al. (2014) Knightly Virtues: Enhancing Virtue Literacy Through Stories Research Report (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues).アリストテレス(2002)『ニコマコス倫理学』朴一功訳(京都大学学術出版会)。
履修上の注意・備考	S1S2 タームの「教育人間学基本演習」を受講していない人でも、受講を歓迎する。また、正当な理由があって欠席する人は配慮する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-211-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	小国 喜弘				
授業科目	教育史特殊研究				
講義題目	日本教育史演習Ⅱ Seminar in Japanese Educational History Ⅱ				

授業の目標・概要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は、前期に引き続き、1960年代高度経済成長期に焦点を当てることとし、前半において共通文献を、後半において個人発表を行うこととする。
授業計画	第一回:オリエンテーション第二回:文献購読1 第三回:文献購読2 第四回:文献購読3 第五回:文献購読4 第六回:文献購読5 第七回:事例検討1 第八回:事例検討2 第九回:事例検討3 第十回:事例検討4 第十一回:事例検討5 第十二回:事例検討6 第十三回:事例検討7
授業の方法	基本的にハイブリッドで行う。なお、対面については、二つの教室を確保し、そこでのグループワークなどを可能にするものとする。ただし感染状況に注意し、感染拡大の場合はオンラインのみに変更する可能性もある。
成績評価方法	個別の発表によって評価する。3分の2以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。
教科書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-211-12	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	山内 紀幸				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	教育思想史特殊講義Ⅳ History of Educational Thought Ⅳ				

授業の目標・概要	<p>一般に教育現象を捉えるとき、心理学や認知科学を通じて、そのエビデンスが明らかにされる。しかし、そうした科学は「教育とは何か」の一端を顕にすることはできても、「教育はどうあるべきか」という決定には寄与しない。教育における意思決定を支えるものは「教育思想」である(今井 2009)。エビデンスに対して、「教育思想」は優位性を有している。学校教育システムにしても、現代の子育てにしても、そこには「教育思想」が介在し、日々の意思決定を支えている。この「教育思想」はどのように探究できるだろうか。「教育思想」は現代社会において突如として現れるものでなく、制度、経済、民族、科学の様々なベクトルが交差する中で、歴史の中で生成されてくるものである。教育思想の歴史を問題にするということは、現代の「教育思想」を歴史的な産物とみなし、それを絶えず相対化していくことを要請する。かつては、自分たちが当たり前と思っているものとは全く違った教育思想も存在してきた。それを知ることで、自分たちの「教育思想」がすべてないことに気付くだろう。また、教育思想の展開を追うことで、自分たちの教育思想が歴史的産物であり、今後も変化していくことを理解するだろう。本講義は、「教育思想史特殊講義Ⅲ」に引き続き、古典といわれる教育思想家から現代の教育思想家までを探究し、その教育思想の時代性に迫っていく。</p>
授 業 計 画	<p>1. イントロダクション 2. プラトン: イデアと教育の理想 3. コメニウス: すべての人にすべてを教えるとは 4. ルソー: 教育論に秘めた社会改革の野望 5. フレーベル: 「恩物」に隠された秘密を探れ 6. ヘルバルト: 「教育的タクト」はいかにして養成できるのか 7. モンテッソーリ: 「規律は自由を通じて生まれる」のか 8. キルパトリック: 「プロジェクト」の源流を辿る 9. 倉橋惣三: 保育とは何か 10. フーコー: 国民に仕立て上げる方法 11. ルーマン: 人を教えることはできるのか 12. ハンナア-レント: 子どもによる世界の刷新とは 13. まとめ</p>
授 業 の 方 法	<p>演習形式。アクティブラーニング型の授業をめざし、受講者がトピックを抽選で選び、内容をプレゼンテーションする。最後に雑誌としてまとめていく。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>発表内容(80%)と討議参加状況(20%)による。</p>
教 科 書	<p>なし。以下の参考書を参照</p>
履修上の注意・備考	<p>※8-9月集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
そ の 他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-211-13	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	田中 智志				
授業科目	教育臨床学特殊研究				
講義題目	教育臨床学演習 Seminar in Clinical Approach to Education				

授業の目標・概要	この演習では、「教育臨床学概説」を踏まえつつ、水と油のように違うと考えられてきた、ハイデガーの存在論と、デューイの経験論の重なりを確かめ、そこに、現代教育学の基礎を見いだす、という試みである。自律性、関係性、固有性(かけがえのなさ)、弱さの力、交感、共鳴共振などの教育臨床学の基本概念は、この存在論と経験論の方なりのなかで、より確かなものとして再構成される。
授業計画	第1回 教育臨床学の目的第2回 教育臨床学の方法第3回 教育臨床学の概念第4回 臨床哲学の主題1——ハイデガーの存在論 1 第5回 臨床哲学の主題2——ハイデガーの存在論 2 第6回 臨床哲学の主題3——ハイデガーの存在論 3 第7回 臨床哲学の主題4——存在と共存在 第8回 臨床哲学の主題5——存在論の可能性第9回 臨床哲学の主題6——デューイの経験論 1 第10回 臨床哲学の主題7——デューイの経験論 2 第11回 臨床哲学の主題8——デューイの経験論 3 第12回 教育の関係性1——経験と自然第13回 教育の関係性2——経験論の可能性第14回 教育の関係性3——教育学の基礎概念第15回 演習のまとめと最終レポート
授業の方法	授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発話分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成績評価方法	毎回の各人の発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教科書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
履修上の注意・備考	出席を重視する。
その他	オンライン zoom でやります。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-211-14	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	大塚 類				
授業科目	教育臨床学特殊研究				
講義題目	臨床現象学Ⅱ Seminar in Clinical Phenomenology II				

授業の目標・概要	<p>【授業の目標】本ゼミのタイトルも「臨床現象学」であるが、現在日本では、●●現象学、現象学的△△、といった研究領域が多数展開している。しかし、何をもち●●現象学、現象学的△△と称しうるのかは明確ではない。狭義には、現象学者の知見を理論的背景にすることが現象学的な研究であるが、広義には、ものごとを捉えるスタンスを現象学に依拠することも現象学的な研究に含まれる、と講義者は考えている。本ゼミでは、前期でスタンスとしての現象学が共通理解にもたらされたという前提のもと、現象学のスタンスから具体的な人間の在りようについて考えていく。その手がかりとするのは、文学作品(映像作品)、現象学的質的研究などである。特に、文学作品について考察している研究動向をふまえ、人間の在りようを描いている作品と、実際の人間の在りようを研究することの相違についても考えてみたい。こうした歩みのなかで、1年間を通じて、「現象学的」とは何なのかという問いや、具体事例に基づく(現象学的な)倫理について触れることになる。【授業の概略】受講者の興味関心とも関連させながら、映像作品や文学作品を手がかりにしている哲学・倫理学研究、「純粹贈与」に関して文学作品を手がかりに考察している矢野智志の論考、文学作品そのもの(小説・エッセイ・漫画等)を講読する。何を読むかは受講者と相談の上決定する。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション:スタンスとしての現象学 第2回 文献講読①第3回 文献講読②第4回 文献講読③第5回 文献講読④第6回 文献講読⑤第7回 中間相談タイム第8回 文献講読⑦ 第9回 文献講読⑧ 第10回 文献講読⑨第11回 文献講読⑩第12回 文献講読⑪第13回 文献講読⑫第14回 本ゼミのまとめ文献講読の題材として考えているもの(一部前期と重複)①矢野智司 2008『贈与と交換の教育学:漱石・賢治と純粹贈与のレッスン』より第1章 贈与する先生の誕生とその死:教育の起源をめぐるもうひとつの物語第2章 先生と弟子の問題としての『こころ』:死と贈与のレッスン第4章 贈与・死・エロスにおける先生と弟子:第1部のまとめに代えて第6章 現実が子どもを引き寄せるとき:生の技法としての賢治の逆擬人法第7章 交換の物語と交換の輪を破壊する贈与:賢治の語りえぬ贈与の語り方第8章 生命の倫理としての贈与と心象スケッチ:第2部のまとめに代えて②吉川孝他編 2019『映画で考える生命環境倫理学』より受講者の興味に基づき選択←文献講読の前に該当する映画を授業内に見る可能性もあります。開講形式に依存。③永井均 2009『マンガは哲学する』より相対主義の原理と限界:藤子・F・不二雄「気楽に殺ろうよ」「流血鬼」死んだのは誰か:萩尾望都「半身」など④榎岡かずお「戦闘」『おろち』第3巻⑤萩尾望都「イグアナの娘」⑥村上靖彦の一連のインタビュー研究より受講者の興味に基づき選択⑦稲原美苗他編 2020『フェミニスト現象学入門:経験から「普通」を問い直す』より受講者の興味に基づき選択授業計画は受講者との相談により変更される場合があります。</p>
授業の方法	<p>演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になると思われる。授業形態は研究科の方針による。映像作品を観る可能性があるため、可能な限り対面授業の可能性を模索したい。</p>
成績評価方法	<p>【評価方法】発表者は平常点、未発表者はレポート【評価基準】(1)授業への参加状況 ①事前に文献を読み、授業中の議論に積極的に加わって、理解を深めている。②文献に関する固有の解釈にもとづいて、自分なりの見解を発言している。③他者の発言に耳を傾け、自分の見解と関連させて、議論を発展させている。(2)レポート ①本授業で扱う題材について自分なりの関心にもとづいて要点を捉えている。②授業中の議論にもとづいて自分なりの論点を明らかにして議論している。③独創性のある論点が提示されており、説得力のある議論が展開されている。</p>
教科書	<p>特になし。授業中使用する文献は基本的にデータでお渡しします。</p>
履修上の注意・備考	<p>当事者性をもった積極的な参加を期待します。前期受講していること(つまり通年での受講)が望ましいです。</p>
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-211-15	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	山名 淳				
授業科目	教育哲学論文指導				
講義題目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授業の目標・概要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授業計画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 1 2. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-16	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	山名 淳				
授業科目	教育哲学論文指導				
講義題目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授業の目標・概要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授業計画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 12. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-17	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	小玉 重夫				
授業科目	教育人間学論文指導				
講義題目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授業計画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履修上の注意・備考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-18	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	小玉 重夫				
授業科目	教育人間学論文指導				
講義題目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授業計画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履修上の注意・備考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-19	単位数	2	学 期	通年
担当教員	片山 勝茂				
授業科目	教育人間学論文指導				
講義題目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授業計画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて履修すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-20	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	片山 勝茂				
授業科目	教育人間学論文指導				
講義題目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授業計画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-21	単	位	数	2	学	期	通	年
担当教員	小国 喜弘								
授業科目	教育史論文指導								
講義題目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History								

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授業計画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授業の方法	原則として、週に一回の集団指導を浅井幸子准教授と合同で行う。そのほか、適宜、必要に応じて個別指導をする。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	適宜配布する
履修上の注意・備考	研究室に所属する院生は必ず履修すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-22	単	位	数	2	学	期	通年
担当教員	小国 喜弘							
授業科目	教育史論文指導							
講義題目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History							

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授業計画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授業の方法	原則として、週に一回の集団指導を浅井幸子准教授と合同で行う。そのほか、適宜、必要に応じて個別指導をする。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	適宜指示する
履修上の注意・備考	研究室に所属する博士課程院生は履修すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-23	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	田中 智志				
授業科目	教育臨床学論文指導				
講義題目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授業の目標・概要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-24	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	田中 智志				
授業科目	教育臨床学論文指導				
講義題目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授業の目標・概要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-25	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	大塚 類				
授業科目	教育臨床学論文指導				
講義題目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授業計画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-211-26	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	大塚 類				
授業科目	教育臨床学論文指導				
講義題目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授業の目標・概要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授業計画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-01	単位数	2	学 期	S2
担当教員	本田 由紀				
授業科目	教育社会学基本研究				
講義題目	現代日本社会における教育・仕事・家族 Education, Work and Family in the Present Japanese Society				

授業の目標・概要	日本社会における家族・教育・仕事の関係性の特徴とその変化について、様々な文献やデータを読み取り議論することを通じて、現在の日本社会が抱える諸課題とそれらへの対策について認識を深めるとともに、多様な研究手法について知り適用可能性を考察する。一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。
授業計画	授業計画第1回:オリエンテーションおよび概論第2回:教育①第3回:教育②第4回:能力第5回:教育機会第6回:アクティベーション第7回:生活の困難第8回:家族第9回:少子化第10回:保育第11回:労働第12回:社会意識第13回:期末レポート構想発表
授業の方法	各回の購読文献をふまえ、受講者が購読文献を補足する他の文献・統計・事例・報道などを紹介しあいつつ議論を行うことにより、現代日本社会の現実と、目下進行中の様々な変革の動きや取り組みについて知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるか、いかなる研究が可能かについての認識を形成する。授業では出席者全員が購読文献について講読票を記載した上で持参する。授業で得た知識をふまえ、期末レポートでは現代日本の家族・教育・仕事に関わるミニ研究を課す。
成績評価方法	授業時に提出する講読票と、期末レポートを7:3の比率で評価する。
教科書	購読文献は初回の授業で指示する。
履修上の注意・備考	現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-212-02	単 位 数	2	学 期	A2
担当教員	仁平 典宏				
授業科目	教育社会学基本研究				
講義題目	市民社会・国家・教育 Civil Society, State, and Education				

授業の目標・概要	教育社会学ではこれまで選抜・配分を中心的なテーマとしてきたが、近年では、シティズンシップ教育や政治的公共性にも注目するようになりつつある。しかし、社会学の観点からシティズンシップ教育を捉える上で重要なことは、思弁的な議論に耽溺したり一部の事例を称揚することではなく、経験的にその存立構造や機能を明らかにすることである。実際に後期近代社会では、多くの場合、政治的公共圏が無前提に成立することも、「市民主体なるもの」が素朴に成立することもなく、政治的コミュニケーションは多様な形で阻害・忌避・抑制されている。この点を踏まえた上で、本授業では、市民的コミュニケーションの成立／不全のメカニズムについて、相互行為のシステムや制度的環境との連関の中で、適切に捉えていくための枠組を検討していく。
授業計画	第1回 ``イントロダクション第2回～第13回 ``テキスト購読に基づくディスカッション第14回 ``総括討論とまとめ
授業の方法	毎回指定された文献や論文を購読し、レジュメで内容を確認した上で、ディスカッションを行う。
成績評価方法	授業への出席・議論への参加を重視する。具体的には、担当回のレジュメ作成、議論への参加を3:7の比率で評価する。
教科書	各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。
履修上の注意・備考	テーマに関心があれば専門領域は問わない。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-212-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	橋本 鉦市				
授業科目	高等教育論基本研究				
講義題目	高等教育の社会学 I Sociology of Higher Education I				

授業の目標・概要	近代大学の誕生から産業化・知識社会化に伴う発展、さらに今後の変容と展望までを視野に入れつつ、高等教育の制度・政策・組織・歴史・科学・言説などの変容と課題を中心に(特に制度論・組織論)、基本的な国内外の社会学的な理論・分析アプローチを学修する。
授業計画	第1回:イントロダクション:高等教育研究の概要 第2回:知識と組織第3回:権威と調整第4回:制度と信念第5回:統合と分化第6回:高等教育の組織アイデンティティ1 第7回:高等教育の組織アイデンティティ2 第8回:高等教育の組織文化1 第9回:高等教育の組織文化2 第10回:高等教育の制度(化)1 第11回:高等教育の制度(化)2 第12回:高等教育の制度(化)3 第13回:総括討論
授業の方法	毎回、様々な重要論文を取り上げ、その内容紹介とレビューを各一人ずつ担当・発表するという形で、基本的に演習方式で進める。
成績評価方法	テキストレポート(40%)、討論への参加度(30%)、期末レポート(30%)
教科書	リーディングスはコピーを用意する。随時指定。バートン・クラーク 1994(有本訳)『高等教育システム:大学組織の比較社会学』東信堂佐藤郁哉・山田真茂留 2004『制度と文化』日経新聞社藤村正司 1995『マイヤー教育社会学の研究』風間書房佐藤秀典 2018『組織アイデンティティの機能』有斐閣
履修上の注意・備考	A1・A2の「高等教育の社会学 II」を継続して履修することが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-212-04	単 位 数	2	学 期	S1
担当教員	中村 高康				
授業科目	比較教育システム論基本研究				
講義題目	教育社会学の諸概念 Concepts in Sociology of Education				

授業の目標・概要	教育社会学において頻繁に用いられる重要概念は多数あるが、そのなかには必ずしも十分な理解がなされずに使用されたり、あるいは原典とは異なる意味で用いられるようになったりした用語もある。この授業では、そうした諸概念を毎週テーマとして取り上げ、原典の講読とその応用事例の講読を対比的に進める中で、当該概念のもつ意味を深く理解することにより、教育社会学的研究の基礎力を高めることを目指す。
授業計画	第1回 イン트로ダクション第2回 ミニ原典講読+ミニ応用事例検討第3回 教育社会学の概念①原典講読第4回 教育社会学の概念①応用事例検討第5回 教育社会学の概念②原典講読第6回 教育社会学の概念②応用事例検討第7回 教育社会学の概念③原典講読第8回 教育社会学の概念③応用事例検討第9回 教育社会学の概念④原典講読第10回 教育社会学の概念④応用事例検討第11回 教育社会学の概念⑤原典講読第12回 教育社会学の概念⑤応用事例検討第13回 教育社会学の概念⑥原典講読第14回 教育社会学の概念⑥応用事例検討
授業の方法	指定された文献について、毎回報告者を決めて内容を報告してもらう。そのうえで、内容理解のためのディスカッションを行なう。応用事例の検討についても同様に行ない、同時に原典との対比において何がわかるのかという観点からのディスカッションも行ないたい。
成績評価方法	平常点(報告を含む)と最終レポートによる。
教科書	初回に説明する。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-212-05	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	三輪 哲				
授業科目	比較教育システム論基本研究				
講義題目	教育社会学方法論研究 Research Methods in Sociology of Education				

授業の目標・概要	この授業では、教育社会学研究において重要性の高い中級レベルの多変量解析の技法について、理論的基礎と統計ソフトウェアを用いた実践的技能を学ぶ。さらには得られた結果から教育社会学的解釈を引き出す考察能力を涵養する。扱う題材は、マクロレベルでは教育政策の効果や地域と学校教育の関係など、ミクロレベルでは学生/生徒の意識・行動・事故リスクとその変化など、多岐にわたる。授業においては、各自が機器を操作しつつ、受講者によるテキスト講読発表、補足的講義、分析実習を併用しながら進行する。
授業計画	今年度は、「回帰モデルとその拡張」に焦点をあてる。1: 多変量解析の基本 2: 多変量解析の応用1(モデルの診断と選択)3: 多変量解析の応用2(媒介効果の検討)4: 多変量解析の応用3(交互作用効果の検討)5: データ特性への対処1(潜在変数の利活用)6: データ特性への対処2(センシングへの対処)7: データ特性への対処3(ネスト構造への対処)8: 回帰モデルとその拡張1(操作変数法)9: 回帰モデルとその拡張2(トービットモデル)10: 回帰モデルとその拡張3(サンプルセレクションモデル)11: 回帰モデルとその拡張4(固定効果モデル)12: 回帰モデルとその拡張5(ランダム効果モデルとハウスマンテイラーモデル)13: 実証論文事例の検討なお、内容については受講者の状況に応じて柔軟に対応する予定である。
授業の方法	Zoomでの文献講読、クラウドで配布する課題、Zoomでの分析報告ただし、covid19感染状況次第では対面も併用する※9月26日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡することオンライン授業 URL は、事前メールでの受講登録者のみに連絡する
成績評価方法	平常点,課題,最終報告
教科書	北村行伸、2009、『ミクロ計量経済学入門』日本評論社。
履修上の注意・備考	ほぼ毎回、課題が課されることになる。分析法の教育社会学研究への応用に主眼を置くため、推定・検定など詳細な統計学的知識に関心がある者は参考書等により別途自学されたい。※9月28日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること オンライン授業 URL は、事前メールでの受講登録者のみに連絡する
その他	本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「専門社会調査士のための必修科目」のうち、「I. 多変量解析に関する演習(実習)科目」として認定される授業科目である(予定)。社会調査士資格については、 http://jasr.or.jp/ を参照のこと。

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-212-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育社会学の研究課題 Research Issues in the Sociology of Education				

授業の目標・概要	教育を対象とする社会学的研究は、これまで理論的・実証的な知見を蓄積してきた。しかし、社会経済構造の変化の中で、従来の理論枠組みや概念、研究方法では把握しきれない新たな研究課題が出現してきていると考えられる。これまでの教育社会学にとって盲点となってきたそれらの新たな研究課題を探り出し、実証研究に結び付けてゆく方途を検討することをこの授業では目標とする。
授 業 計 画	第1回:オリエンテーション第2回:教育とガバナリティ第3回:教育と自己アイデンティティ第4回:教育とエビデンス、アカウンタビリティ第5回:教育とネオリベリズム第6回:「能力」の社会的構成第7回:メリトクラシーとインドクトリネーション第8回:グローバル化と資本主義の多様性第9回:ナショナリズムと排外主義第10回:第4次産業革命とソサエティ 5.0 第11回:スキル偏向的技術変化と教育第12回:ストリート官僚制と過剰包摂第13回:圧縮された近代・半圧縮近代・ポスト近代第14回:ダイバーシティ・権利・自由第15回:期末レポート構想発表
授 業 の 方 法	各回の授業までに、指定された文献を読み、講読票に概要とコメントを記入してきてもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせる形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	毎回の授業において出欠確認を兼ねて学生は講読票を提出する。また、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は講読票:期末レポート=7:3の比で評価する。
教 科 書	各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。
履修上の注意・備考	学部において「教育社会学概論」および「教育社会学理論演習」を事前に履修していることが望ましいが、他大学からの大学院進学者でも受講できる。欧米を中心とした教育社会学の先端的イシューと研究方法を知ることができる授業であるため、教育社会学分野で研究を進めようとする者はもちろん、教育学および社会科学全般に従事する者および教育現場・教育行政に関わる者にとって有益な知識を得ることができる。
そ の 他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-212-07	単位数	2	学 期	S1
担当教員	仁平 典宏				
授業科目	教育社会学特殊研究				
講義題目	教育言説の社会学 Sociology of Discourse on Education				

授業の目標・概要	教育社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的には KH コーダー等を用いたワークも活用しながら理解を深めていきたい。なお受講者は言説研究の経験者である必要はない。むしろ、初めて言説を用いて修士論文、卒業論文、その他論文等を書く人も含め、本方法論に関する基本的な議論の布置を理解できるようになることが主な目的である。
授業計画	第1回:イントロダクション第2回～第14回:テキスト購読に基づくディスカッション
授業の方法	毎回指定された文献や論文を購読し、ディスカッションを行う。担当者は議論喚起的なレジュメを作成する。一部のテーマについては、自分で分析を試行するワークを併用する。
成績評価方法	授業への出席・議論への参加を重視する。具体的には、担当回のレジュメ作成、議論への参加を3:7の比率で評価する。
教科書	授業内で指示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する論文は事前にしっかり読むこと。言説を用いる予定のある人、すでに研究を進めている人は、疑問点などを整理しておくこと。
その他	原則 Zoom での参加となります。https://zoom.us/j/547153027 インターネット環境の問題などで、オンライン参加が難しい場合は、仁平(nihenori@gmail.com)までご連絡ください。※出欠確認上、特段の事情がないときは、カメラをオンにして参加をお願いします

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-212-08	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	星加 良司				
授業科目	教育社会学特殊研究				
講義題目	障害の社会理論を読む Social Theories of Disability				

授業の目標・概要	<p><目的・目標>「障害(disability)」という現象は、「できなさ(disability)」を生み出し、意味づけ、価値づける社会の営みの合わせ鏡である。このように考えるとき、「障害」を解消しようとする試みは、社会変革を志向する企てとなり、その社会の中で既得権を持つ人々からの抵抗を呼び起こすものとなる。この授業では、ここに生じるコンフリクトを解きほぐすための手がかりを探究したい。 <授業概要> 1980年代に英米で学問分野として成立したディスアビリティ・スタディーズ(障害学)において、従来障害者個人への介入を志向する、医学を中核とした実践科学によって担われてきた障害研究は、ディスアビリティの構築に関与している現行の社会のありようを問うという、すぐれて社会学的なテーマと接続することになった。本授業ではこのパラダイムシフトの持つ意味を確認した上で、障害平等に向けた実践の基礎理論についての検討を行う。</p>
授業計画	<p>1. ガイダンス 2. 障害概念の探究 1 3. 障害概念の探究 2 4. 障害概念の探究 3 5. 障害概念の探究 4 6. 「障害平等」をめぐる理念と課題 1 7. 「障害平等」をめぐる理念と課題 2 8. 「障害平等」をめぐる理念と課題 3 9. 「障害平等」をめぐる理念と課題 4 10. 自由報告 1 11. 自由報告 2 12. 自由報告 3 13. 自由報告 4 ※受講者の人数や関心等により内容を変更することがある。</p>
授業の方法	受講生による文献報告をはじめ、ディスカッションを中心に授業を展開する。
成績評価方法	授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して総合的に評価する。
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	<p>障害問題についての予備的な知識は特に必要としない。受講者は、指定文献を予め熟読する等、授業でのディスカッションのための十分な準備を行うことが期待される。 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/93535105986?pwd=MIA4Wk54bFJlZnpRanpvcUVVMzRCUT09 ミーティング ID: 935 3510 5986 パスワード: 388710</p>
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-212-09	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	佐藤 香				
授業科目	教育社会学特殊研究				
講義題目	教育社会の計量分析 Quantitative Analyses of Educational Society				

授業の目標・概要	既存の社会調査データを比較検討したうえで、実際に調査を企画・設計して実施し、データ分析をおこなうことを通じて、社会調査に関する実践的な知識・技術を習得することを目的とする。講義では、各自の興味・関心にもとづいて調査テーマを決め、それと関連した既存調査データを検討して、調査票の設計、母集団やサンプリング、面接調査か郵送調査かといった調査法など、適切な方法を選んで調査を企画する。調査実施後、調査票の点検・ナンバリング等のエディティング、入力・クリーニングをおこない、さらにデータ分析にもとづく論文を執筆することで、知識・技術を身につけていく。
授業計画	1 社会調査の方法: 入手可能な既存の社会調査データを紹介し、そのうちの典型的な調査について、どのような調査方法をもちているかを確認することで、社会調査方法論について実践的に学習する 2 社会調査データの特徴: 社会調査データの構造と変数既存調査の調査票とデータセットを検討し、質問項目の背後にある仮説および変数の種類(名義・順序・間隔・比率)について学習し、属性項目の度数分布からサンプリングの偏りなどを検討する 3 調査の企画(1): 各自の問題関心に合わせて調査テーマを決定し、それにもとづく調査計画を企画する。母集団の選定、サンプリング、調査方法を選定する 4 調査の企画(2): 調査仮説にもとづいて、目的変数・説明変数・統制変数を決定し、それぞれの尺度を選択する 5 調査票の設計: 既存調査の質問項目を参考にしながら、調査仮説を踏まえた質問項目を設計し、質問紙全体の構造化をおこない、ワーディングについて学習し、調査票を確定する 6 調査実施の準備: 調査スケジュールを確定し、関係機関へのサンプリング依頼状、サンプリング方法の検討、調査対象者本人への調査依頼状などを、調査倫理をふまえて作成する 7 調査の実施: 調査の実施各自の分担を決め、調査を実施する 8 回収調査票とエディティング: 回収した調査票の点検・ナンバリング、アフターコーディングをおこない、データ入力の準備をする。9 データ入力とクリーニング: 入力とクリーニング各自で分担して入力をおこない、クリーニングを完了させ、単純集計票およびコードブックを作成する 10 基礎的分析と検定: 単純集計およびクロス集計表による分析と解釈、 χ^2 乗検定について学習し、検定概念を理解する 11 回帰分析のバリエーション: 相関係数から単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析について学習し、回帰分析の概念と方法を理解する 12 グラフ作成と論文執筆: 分析結果の効果的な図表化、ときにグラフ作成について学習し、それをふまえた論文執筆をおこなう 13 中間発表と講評および最終レポートに向けての指導: 分析にもとづく論文作成の中間発表をおこない、より適切な論文構成や図表の表示、論旨の明確化などを指導する
授業の方法	講義・演習形式。各回、講義に続いて演習問題に解答する。また、中間発表でのプレゼンテーションをおこなう。
成績評価方法	プレゼンテーションおよび論文
教科書	配布資料をもちいる。
履修上の注意・備考	かなりの作業量になるので、この点をふまえて履修すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-212-10	単位数	2	学 期	S2
担当教員	徳永 智子				
授業科目	教育社会学特殊研究				
講義題目	越境する子どもと若者:教育人類学の視点から Children, Youth, and Migration				

授業の目標・概要	本授業では、カルチュラル・スタディーズやポストコロニアリズムなどの視座から、グローバル化・多文化化が進展する社会において、越境する子どもと若者の複層的なアイデンティティや経験の理解を深めることを目的とする。また、後半では、伝統的な研究方法への認識論的な挑戦である参加型アクションリサーチ(participatory action research: PAR)に着目し、越境する子どもや若者の経験や「知」を基盤とし、当事者のエンパワメントを目指した新しい研究方法の可能性や課題について考えていく。受講生が文献に基づく報告をし、全員で討論する。
授業計画	1. イントロダクション 2. 越境する子ども・若者を理解する視座:はざま 3. 越境する子ども・若者を理解する視座:交差性 4. 家族、文化と言語の仲介者 5. 仲間集団と居場所 6. メディアとディアスポラ空間 7. NPO とユースエンパワメント 8. 研究方法の脱植民地化:権力性、ポジショナリティ 9. 参加型アクションリサーチ(PAR)の理念 10. 移民の子どもと参加型アクションリサーチ 11. 若者参加型アクションリサーチ(YPAR)の理念 12. エンパワメントと若者参加型アクションリサーチ(YPAR) 13. アクションリサーチの課題 14. まとめ
授業の方法	発表、質疑応答、ディスカッション
成績評価方法	授業への貢献・積極性、発表、最終レポートなどを総合的に判断し、評価する。
教科書	各回のリーディングはオンライン上にアップロードする予定である。
履修上の注意・備考	発表、質疑応答、ディスカッションを中心とした双方向型の授業を行うため、積極的な参加が求められる。また、毎回リーディング(英語論文が中心の予定)を課すので、十分な予習の時間が求められる。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-212-11	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	高橋 史子				
授業科目	教育社会学特殊研究				
講義題目	Ethnicity, Nationalism and Education				
	Ethnicity, Nationalism and Education				

授業の目標・概要	<p><Course Objectives>- The aim of this course is to learn the basic concepts and theories relevant to ethnicity, nationalism and education and discuss them in class to improve understanding.- To critically read the classical and current literature on the topics mentioned above and to consider how it relates to the student's own research.<Expected Outcomes of This Course>The students will be able to</p> <ul style="list-style-type: none"> • explain the basic concepts and theories of ethnicity, nationalism and education. • critically discuss and evaluate the recent studies of the topics mentioned above, and • consider and explain the contributions of their own research to the international discussions of the field. <p>If a student is conducting research or has a research proposal on the relevant topics, he/she is expected to present it, including an explanation of how it is related to what we learned in this course.</p>
授業計画	(1)Guidance(2)Ethnicity(3)Nationalism(4)National Identity and Citizenship(5)Immigrant Integration and Education(6)Returned Assimilation and Civic Integration(7)Multiculturalism: Current Discussion(8)Interculturalism(9)Critical Race Theory and Whiteness in Education(10) Intersectionality(11) Students' Presentations(12) Students' Presentations (cont.)(13) Students' Presentations (cont.)
授業の方法	To better understand the literature, it is important for all the students to finish the reading assignments before each class and contribute to the class discussions.
成績評価方法	<p>①Weekly Reading Assignments (20%)To better understand the literature, it is important for all the students to finish the reading assignments before each class and contribute to the class discussions. Please send the questions that you would like to discuss in class to the class chair via slack by Wednesday.②Lead the Class Discussion at least once (30%)-Prepare a summary of the assigned literature, including the main argument, data, methods, strengths, and limitations, and prepare at least three questions/comments to help us discuss and reflect on the literature. -Please prepare well so that it will be a good opportunity for you to practice chairing an academic conference and teaching in the future.③Presentations (50%)-From the 10th to 13th week, the students will present their own ongoing research/research proposals or critical analysis of the readings. -Your presentation will be evaluated by the course lecturer (40%), TA (40%), and the other students (20%) according to the rubric that will be distributed in Week 1. When you evaluate the other students' presentations, please add your questions and feedbacks so that the students can improve their research.</p>
教科書	Please find the selected reading list for reference. The complete reading list will be uploaded on the website and distributed in class.
履修上の注意・備考	If you are thinking of taking this course, please attend the class meeting on the first week.If you cannot make it, please contact me via email.
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-212-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	橋本 鉦市				
授業科目	高等教育論特殊研究				
講義題目	高等教育の社会学Ⅱ Sociology of Higher Education Ⅱ				

授業の目標・概要	高等教育研究の分析対象とその分析手法を広く概観しかつ深く洞察することで、研究のフロンティアを開拓し、またそれらの実証的な分析を試みる際の論点・ 이슈の発掘を手助けする。この授業では、特に大学の制度的・組織的研究に関する方法論と課題を学修する。国内外の制度論・組織論に関する古典的な論文・著作ならびに近年の研究などを中心として取り上げ、社会科学的な理論・分析アプローチを学修し、調査研究・論文執筆の技法を習得する。また、その研究内容のプレゼンテーションなどにおいても、説得的な方法を学ぶ。
授業計画	第1回:イントロダクション:高等教育研究の概要 第2~4回:制度・組織としての高等教育第5~7回:高等教育界の政治・政策 第8~10回:高等教育組織における意思決定第11~13回:事例研究ならびに総括討論
授業の方法	毎回、様々な重要論文を取り上げ、その内容紹介とレビューを各一人ずつ担当・発表するという形で、基本的に演習方式で進める。
成績評価方法	テキストレポート(40%)、討論への参加度(30%)、期末レポート(30%)
教科書	リーディングスはコピーを用意する。随時指定。サイモン, H.A.,1997=2009『経営行動』(第4板)、ダイヤモンド社 ワイク, K.E., 1995=2001『センスメーカー イン オーガニゼーションズ』文真堂バーンバウム, R., 1988=1992『大学経営とリーダーシップ』玉川大学出版部桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳編 2015『制度的企業家』ナカニシヤ出版佐藤郁哉・芳賀学・山田真茂留 2011『本を生みだす力 学術出版の組織アイデンティティ』新曜社
履修上の注意・備考	S1・S2の「高等教育の社会学I」を履修していることが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-212-13	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	中村 高康				
授業科目	比較教育システム論特殊研究				
講義題目	教育と選抜の諸問題 Issues in Education and Selection				

授業の目標・概要	教育と選抜に関わる諸問題を理解するうえで重要な文献を読み進めていくなかで、現代における教育現象をいかに理解していくかを様々な視点から考察してゆく。特に今年度は、いくつかの和文献を数冊読み進めていくことを計画している。
授業計画	この授業は1回につき1つの文献または一つの社会の選抜システムについての研究を読み進めていく。
授業の方法	毎回担当者を決めて報告してもらい、それをもとにディスカッションする演習方式。文献については初回授業時に示すが、進め方については、参加人数にもよるので初回に協議をして決定したい。
成績評価方法	授業参加度+最終レポートで評価する。
教科書	適宜授業内において指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-212-14	単位数	2	学 期	A1
担当教員	額賀 美紗子				
授業科目	比較教育学特殊研究				
講義題目	質的方法論研究 Qualitative Research Methods				

授業の目標・概要	この授業では、質的方法論の特長と多様なアプローチについて学び、質的方法を使って研究論文を執筆するための知識とスキル獲得をめざす。具体的には文献購読とデータを使った演習を組み合わせながら以下の3点を扱う。1) 質的方法論の基本的知識に関する文献購読 2) 質的方法論を使った文献の批判的考察 3) 学校参与観察の実践およびデータ分析授業では特にリフレキシビティ(再帰性)に自覚的である近年の質的研究法における展開に注目する。調査者と被調査者の関係性や、調査者の属性、立場や権力性がデータ収集や解釈に及ぼす影響について議論しながら、質的研究法がどのように理論生成へとつながり、人々の意味世界の理解に役立つかという点を考える。
授業計画	第1週 1) 質的研究法とはなにか: 特長・リサーチデザイン・発展の経緯、主要系譜(エスノグラフィー、事例研究、ライフヒストリー、ライフストーリー、グラウンデッド・セオリー) 2) 質的研究を読む第2週 1) 参与観察のプロセス: データ収集からエスノグラフィー執筆まで 2) 現場で生起する問題: ポジショナリティ、リフレキシビティ、ラポール、倫理的問題第3週 1) エスノグラフィーの意義と有効性 2) フィールドワークの技法第4週 1) インタビューの手法: 半構造化インタビュー、ライフ・ストーリー、生活史研究 2) インタビューを使った研究デザイン第5週 1) 質的研究における理論とデータの関係 2) 質的研究の「質」と評価第6週 1) コーディングから仮説生成へ: インタビューデータの分析実践 2) 質的研究のプレゼンテーション第7週 グループプロジェクトの発表
授業の方法	演習形式
成績評価方法	毎回の課題提出 40%、プロジェクト発表 20%、最終レポート 40%
教科書	フリック, U. 2011 『新版 質的研究入門—人間の科学のための方法論』春秋社. エマーソン, R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社
履修上の注意・備考	積極的に議論に参加し、グループプロジェクトを実施することを求める。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-15	単位数	2	学 期	A2
担当教員	額賀 美紗子				
授業科目	比較教育学特殊研究				
講義題目	グローバル時代の国際移動と教育 International Migration and Education in the Era of Globalization				

授業の目標・概要	21世紀は「移民の時代」といわれる。グローバル化の進展によって人・モノ・情報の国境を越えた移動が加速化し、一国内の多民族化・多文化化が進む中、これまでの国民国家を前提とした教育はさまざまな挑戦をつきつけられている。本講義ではグローバリゼーションやトランスナショナリズムを背景とした移民の増加が、どのように日本の学校教育、家族、地域社会に影響を及ぼしているかという問題について、国際比較の視点から理解を深める。特に、移民の若者や子どもたちがホスト社会において直面する文化的・構造的障壁について、階層、ジェンダー、人種、エスニシティの視点を交えて考察を行う。多文化主義や批判的多文化教育の展開について学び、マイノリティのエンパワーメントと教育の関係性について具体的な事例をもとに検討する機会を提供する。
授業計画	第一週 インTRODクッション: 日本における移民受入れの背景・状況・教育的課題第二週 移民の子どものホスト社会への適応過程第三週 移民の子どもとエスニック・アイデンティティ第四週 移民の子どもと家族第五週 移民の子どもと学力第六週 批判的多文化教育とマイノリティのエンパワメント第七週 個人プロジェクト発表
授業の方法	演習形式 1回の授業につき、課題文献(英語、日本語 1本づつ)を読み、事前にコメントを作成して授業に参加すること。文献の内容にもとづくディスカッションを中心に授業を進める。
成績評価方法	出席 10%、授業内課題 40%、最終レポート 50%
教科書	額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子 2019 『移民から教育を考えるー子どもたちを取り巻くグローバル時代の課題』ナカニシヤ出版.
履修上の注意・備考	毎回の出席と積極的な議論への参加を求める
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-16	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	本田 由紀				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授業の目標・概要	修士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授業計画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授業の方法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を15分程度で発表し、45分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したメンターからのコメントも行う。
成績評価方法	平常点
教科書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-17	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	本田 由紀				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授業の目標・概要	博士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授業計画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授業の方法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を15分程度で発表し、45分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したメンターからのコメントも行う。
成績評価方法	平常点
教科書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-18	単位数	2	学 期	通年
担当教員	仁平 典宏				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授業の目標・概要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授業計画	初回: イントロダクション各回: 参加者の研究・構想発表と議論
授業の方法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成績評価方法	参加者の研究の進捗状況に基づいて評価を行う。
教科書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	特になし。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-19	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	仁平 典宏				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授業の目標・概要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授業計画	初回：イントロダクション各回：参加者の研究・構想発表と議論
授業の方法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成績評価方法	参加者の研究の進捗状況に基づいて評価を行う。
教科書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	特になし。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-20	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	星加 良司				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授業の目標・概要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授業計画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授業の方法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成績評価方法	受講者それぞれの研究の進捗を総合的に判断して評価する。
教科書	特に無し。
履修上の注意・備考	特に無し。
その他	初回ガイダンス：4/8（木） 17時 -18時 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/92321427134?pwd=aINhSnc4ai8vTTBEK01UY2NtSTV6UT09 ミーティング ID: 923 2142 7134 パスコード: 643103

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-21	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	星加 良司				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授業の目標・概要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授業計画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授業の方法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成績評価方法	受講者それぞれの研究の進捗を総合的に判断して評価する。
教科書	特に無し。
履修上の注意・備考	特に無し。
その他	初回ガイダンス：4/8（木） 17時 -18時 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/92321427134?pwd=aINhSnc4ai8vTTBEK01UY2NtSTV6UT09 ミーティング ID: 923 2142 7134 パスコード: 643103

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-22	単位数	2	学 期	通年
担当教員	佐藤 香				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授業の目標・概要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授業計画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授業の方法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成績評価方法	出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。
教科書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履修上の注意・備考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-23	単位数	2	学 期	通年
担当教員	佐藤 香				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授業の目標・概要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授業計画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授業の方法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成績評価方法	出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。
教科書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履修上の注意・備考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-24	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	三輪 哲				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授業の目標・概要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授業計画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授業の方法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成績評価方法	発表の質、議論への貢献、目標達成の度合いを総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
履修上の注意・備考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員まで連絡をすること。※4月10日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること オンライン授業 URL は、事前メールでの受講登録者のみに連絡する
その他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-25	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	三輪 哲				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授業の目標・概要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授業計画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授業の方法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成績評価方法	発表の質、議論への貢献、目標達成の度合いを総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
履修上の注意・備考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員まで連絡をすること。※4月10日までに miwa@iss.u-tokyo.ac.jp まで受講希望の旨をメールで連絡すること オンライン授業 URL は、事前メールでの受講登録者のみに連絡する
その他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-26	単位数	2	学 期	通年
担当教員	岡本 智周				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授業の目標・概要	教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。また 2021 年度には、2020 年度に早稲田大学共生教育社会学研究室が実施した「コロナ禍のなかの社会意識」調査から得られたデータを用いて、受講者各人の社会に向けた問いを分析・考察する活動も行いたい。
授業計画	第 1 回: オリエンテーション、研究発表と討議第 2 回: 研究発表と討議第 3 回: 研究発表と討議第 4 回: 研究発表と討議第 5 回: 研究発表と討議第 6 回: 研究発表と討議第 7 回: 総括と補遺
授業の方法	受講者の研究発表と討論によって学修を深める。
成績評価方法	出席状況、毎回の授業での研究発表、課題への取り組み方およびその達成度を評価対象とし、総合的に判断する。
教科書	飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』ミネルヴァ書房、2018 年。岡本智周・丹治恭子編『共生の社会学——ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』太郎次郎社エディタス、2016 年。岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 年。
履修上の注意・備考	授業の中で論じられた現象や概念については、自ら調べることが必要となる。
その他	授業計画は、受講者の人数や関心によって適宜変更を行う場合がある。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-27	単位数	2	学 期	通年
担当教員	岡本 智周				
授業科目	教育社会学論文指導				
講義題目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授業の目標・概要	教育社会学・共生社会学・歴史社会学・ナショナリズム研究・社会意識研究の領域の議論を履修者間で共有し、その基本的な構図を把握する。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。また 2021 年度には、2020 年度に早稲田大学共生教育社会学研究室が実施した「コロナ禍のなかの社会意識」調査から得られたデータを用いて、受講者各人の社会に向けた問いを分析・考察する活動も行いたい。
授業計画	第 1 回: オリエンテーション、研究発表と討議第 2 回: 研究発表と討議第 3 回: 研究発表と討議第 4 回: 研究発表と討議第 5 回: 研究発表と討議第 6 回: 研究発表と討議第 7 回: 総括と補遺
授業の方法	受講者の研究発表と討論によって学修を深める。
成績評価方法	出席状況、毎回の授業での研究発表、課題への取り組み方およびその達成度を評価対象とし、総合的に判断する。
教科書	飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』ミネルヴァ書房、2018 年。岡本智周・丹治恭子編『共生の社会学——ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』太郎次郎社エディタス、2016 年。岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 年。
履修上の注意・備考	授業の中で論じられた現象や概念については、自ら調べることが必要となる。
その他	授業計画は、受講者の人数や関心によって適宜変更を行う場合がある。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-28	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	橋本 鉦市				
授業科目	高等教育論論文指導				
講義題目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授業の目標・概要	(歴史)社会的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授業計画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、修士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授業の方法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成績評価方法	受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-29	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	橋本 鉦市				
授業科目	高等教育論論文指導				
講義題目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授業の目標・概要	(歴史)社会的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授業計画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、博士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授業の方法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成績評価方法	受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-30	単位数	2	学 期	通年
担当教員	中村 高康				
授業科目	比較教育システム論論文指導				
講義題目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授業の目標・概要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授業計画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授業の方法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成績評価方法	平常点
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-31	単位数	2	学 期	通年
担当教員	中村 高康				
授業科目	比較教育システム論論文指導				
講義題目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授業の目標・概要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授業計画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授業の方法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成績評価方法	平常点
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-32	単位数	2	学 期	通年
担当教員	額賀 美紗子				
授業科目	比較教育学論文指導				
講義題目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授業の目標・概要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している修士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授業計画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授業の方法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成績評価方法	各自の研究の進捗状況に応じてゼミ出席、個人発表、論文執筆などから総合的に評価する。
教科書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席を求める
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-33	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	額賀 美紗子				
授業科目	比較教育学論文指導				
講義題目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授業の目標・概要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している博士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授業計画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授業の方法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成績評価方法	各自の研究の進捗状況に応じてゼミ出席、個人発表、論文執筆などから総合的に評価する。
教科書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席を求める
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-34	単位数	2	学 期	通年
担当教員	恒吉 僚子				
授業科目	比較教育学論文指導				
講義題目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授業の目標・概要	比較教育学論文指導。リサーチ・クエスチョン、研究計画、論文執筆、既存研究の把握、オリジナリティ等について、各自の研究に沿って指導をする。個別指導と集団指導を組み合わせる。
授業計画	初回に説明する。
授業の方法	発表、討論形式、個別指導を組み合わせる。
成績評価方法	研究内容による。
教科書	なし。
履修上の注意・備考	レジメは発表二日前までに出す。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-212-35	単位数	2	学 期	通年
担当教員	恒吉 僚子				
授業科目	比較教育学論文指導				
講義題目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授業の目標・概要	比較教育学論文指導。リサーチ・クエスチョン、研究計画、論文執筆、既存研究の把握、オリジナリティ等について、各自の研究に沿って指導をする。個別指導と集団指導を組み合わせる。
授業計画	初回ゼミで説明する。
授業の方法	発表、討論形式、個別指導を組み合わせる。
成績評価方法	研究の内容による。
教科書	なし
履修上の注意・備考	発表前にレジメを出す。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-01	単位数	2	学 期	S1
担当教員	牧野 篤				
授業科目	生涯学習論基本研究				
講義題目	生涯学習論基本研究 I Theory of Lifelong Learning I				

授業の目標・概要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。ただし、コロナの影響もあり、フィールド長ができない可能性も高いため、基本的には文献講読とする。今年度は「社会基盤としての社会教育再考」を大きなテーマにとりあげる。文献研究の中心的なテーマは「社会教育のとらえ返し」とし、戦後に構想され、急速に社会に普及した社会教育・生涯学習の理念や機能に対して、どのような議論がなされ、それがどのような社会的な要請を背景にしていたのか、その結果、社会教育や生涯学習の概念はどのように変容したのか、そしてそれはどう実践されてきていて、それを今度どう実践していくべきなのかをとらえ、社会教育・生涯学習の実践のあり方への理解を通して、教育・学習という営みと社会とのかかわりを理解する。臨時教育審議会の資料なども活用する。
授業計画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論とくに公民館に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。フィールド調査などを行いたいが、コロナ禍の状況下でもあるので、基本的に文献講読を中心に進める。
授業の方法	基本的に演習形式をとり、グループ討議を通して、各自の研究の視点と枠組みを発展させる。また、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果の地域社会への還元のあるあり方を体得する。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	テーマにより、適宜紹介する。
履修上の注意・備考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-213-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	影浦 峯				
授業科目	図書館情報学基本研究				
講義題目	図書館情報学研究方法論 Research Methods of Library and Information Science				

授業の目標・概要	図書館情報学研究に関連する具体的な方法論を身につける。対人調査方法論、文献研究方法論、計量研究方法論等、方法論の観点から、および、翻訳研究、図書館研究、知識基盤研究といったテーマの観点から、学生の関心を考慮し、参加者の状況に応じて重点的な学習対象を決める。
授業計画	第1回：概要紹介と参加者のグループ化第2回：研究テーマ提案・議論・研究テーマのとりまとめと分担者配分第3回～第12回：課題に対応した方法論の検討と議論第13回：課題の取りまとめと研究方法論の総合的なまとめ
授業の方法	授業初回に参加者を3つのグループにわけ、研究テーマを提出する。それぞれに対して、重要性、実現可能性、アプローチ、スケジュールなどを議論しながら、取り上げるテーマを確定し、そのテーマにそって毎週持ち帰りの課題を実行し、実行した課題に基づいて理論的枠組み、方法論、解釈、論文執筆法の各層にわたる議論を行なう。
成績評価方法	授業への参加度と貢献度に基づき評価する。
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	グループ単位で持ち帰り課題を課すので、個人的な準備だけでなく、グループでのディスカッション力も重要となる。また、データ処理や統計の基礎を知らない学生は、学部の授業夏学期の情報・資料分析論演習を履修しておくことが望ましい。ただし、履修学生の関心等に応じて、内容は大幅に変更するかもしれない。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-213-03	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	影浦 峯				
授業科目	図書館情報学基本研究				
講義題目	図書館情報学総合研究 Topics in Library and Information Science				

授業の目標・概要	大学院生の修士論文・博士論文のテーマを中心に、図書館情報学の重要課題について、全員で議論し、研究方法や内容について相互理解を深める。
授業計画	第1回 全体の調整とスケジュールリング第2回 研究計画・テーマ発表(2名)第3回 研究計画・テーマ発表(2名)第4回 研究計画・テーマ発表(2名)第5回 研究計画・テーマ発表(2名)第6回 研究計画・テーマ発表(2名)第7回 研究計画・テーマ発表(2名)第8回 研究計画・テーマ発表(2名)第9回 研究計画・テーマ発表(2名)第10回 研究計画・テーマ発表(2名)第11回 研究計画・テーマ発表(2名)第12回 修士論文検討会第13回 研究計画・テーマ発表(2名)第14回 研究計画・テーマ発表(2名)
授業の方法	参加者の発表と討論を中心とする。
成績評価方法	平常点。
教科書	使わない。
履修上の注意・備考	図書館情報学研究室の大学院生は全員必修とする。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-213-04	単 位 数	2	学 期	A1
担当教員	李 正 連				
授業科目	生涯学習論特殊研究				
講義題目	生涯学習論特殊研究 I Seminar in Lifelong Learning I				

授業の目標・概要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。
授業計画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。
授業の方法	基本的に演習形式をとる。各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	各テーマに応じて指定する。
履修上の注意・備考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-213-05	単 位 数	2	学 期	A2
担当教員	新藤 浩伸				
授業科目	生涯学習論特殊研究				
講義題目	生涯学習論特殊研究Ⅱ Seminar in Lifelong LearningⅡ				

授業の目標・概要	生涯学習・社会教育研究の蓄積について学び、各人の研究の基盤とすることをめざす。
授業計画	文献講読を中心に進める。
授業の方法	演習形式による。初回オリエンテーションに参加すること。対面とするかオンラインとするかは感染症の動向により判断する。
成績評価方法	出席、報告、討議への参加から総合的に判断する。
教科書	授業開始時に示す。
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-213-06	単位数	2	学 期	集中
担当教員	安田 節之				
授業科目	社会教育学特殊研究				
講義題目	プログラム評価論 Theory and Methods of Evaluating Programs				

授業の目標・概要	教育機関や企業組織そして地域コミュニティには、対人援助・人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在する。これらの実践・介入活動に対して説明責任や科学的根拠(エビデンス)が求められる時代となっている。本授業では、様々な実践・介入活動をプログラムとして客観的に捉え、その結果や効果を評価し、活動の質向上につなげるための方法論を学ぶ。プログラムの価値は、経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的効果として現れることが多いため、社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高い。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学ぶ。
授業計画	1. イントロダクション2. プログラム評価の目的と評価者・ステークホルダー3. プログラムニーズの種類とアセスメントの方法4. ゴールの明確化5. インパクト理論6. ロジックモデル7. 個人・グループ発表8. 評価可能性アセスメントと評価クエスチョン9. アウトカム評価の概要と評価指標の作成10. 実験・準実験デザインによるアウトカム評価11. プログラムの導入(インプリメンテーション)評価とプロセス評価12. 評価アプローチ①(社会科学・理論主導、他)13. 評価アプローチ②(実用重視・エンパワメント、他)14. 評価報告書・技術報告書(テクニカルレポート)の内容と作成方法 15. 総 括
授業の方法	講義、ディスカッション、演習(個人・グループワーク)を中心に行う。
成績評価方法	レポート30%、評価計画書(グループまたは個人)40%、授業参加状況(発言・発表)30%
教科書	安田節之『プログラム評価:対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』新曜社, 2011年
履修上の注意・備考	■授業は夏季休業中の集中講義期間に実施します。■すでに携わっている実践・介入活動やプログラムがあることが望ましいです。■教科書『プログラム評価:対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』(安田節之, 新曜社, 2011年)は事前の一読しておいてください。授業時に本の内容を踏まえたディスカッションを行います。※新型コロナウィルスの状況に応じて授業方法(オンライン/対面)の調整をします。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-213-07	単位数	2	学 期	A1
担当教員	関直規				
授業科目	社会教育学特殊研究				
講義題目	比較生涯学習論 Comparative Studies in Lifelong Learning				

授業の目標・概要	今日、グローバル化や格差拡大等を背景に、地域再生に向けた生涯学習への国際的関心が高まっている。本講義では、まず、富と貧困が隣接する英国の大都市における生涯学習の格差是正と支援方策を検証する。制度化され、世界的に共通理解を得やすい学校教育と比べて、生涯学習は、特定の地域や生活に根ざし、発展形態がより多様である。それゆえ、比較とともに、歴史的把握が求められる。本講義は、学校卒業後の地域の学びの場の成立を中心に、日英比較史的アプローチから、生涯学習の基盤を作り上げた社会の一側面を考察する。特に、英国の成人教育におけるコミュニティ教育と日本の社会教育の共通性や相違点を、両大戦間期の東京とロンドンの具体的活動に即しつつ、探究することにより、社会教育学・生涯学習論の基礎的・理論的研究を行うためのグローバルな視野の獲得と複眼的思考の深まりを目指す。
授業計画	第1回:ガイダンス 第2回:大都市貧困地域における生涯学習の格差是正と支援方策 —英国タワー・ハムレッツ区の改革動向の検証— 第3回:日英大都市の社会教育・成人教育分野の開拓 —組織・制度と担い手の思想— 第4回:東京市の社会教育活動の展開 —デモクラシーと欧米成人教育の受容— 第5回:ロンドン・カウンティ・カウンシルの成人教育活動の展開 —イブニング・インスティテュートの専門化と体系化— 第6回:日英大都市の共通性と相違点 —社会教育・成人教育の構造的変動— 第7回:授業のまとめ
授業の方法	授業は2コマ連続(計7回)で行い、講義、発表及び討議を併用する。参加者は、授業中に、世界の主要な成人教育活動の事例、比較生涯学習に関する特定のテーマ又は国際的視野から見た社会教育活動の事例について、問題意識、仮説、論点や疑問点等を自由に発表する。そして、その内容を期末レポートにまとめる。
成績評価方法	発表、授業・討議への参加(70%)及び期末レポート(30%)による。
教科書	講義資料を配布する。また、授業で用いる論文等は、適宜指示する。
履修上の注意・備考	新型コロナウイルス感染症に関連する対応により、対面の授業ができない場合、オンラインで実施する。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-213-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	影浦 峯				
授業科目	図書館情報学特殊研究				
講義題目	情報媒体構造論 Study of the Structure of Information Media				

授業の目標・概要	知識媒体の構造について、言語表現から図書の構成までのいずれかのレベルに着目し、知識の展開・記録・伝達・流通を可能にしてきた基盤をめぐる問いの領域を理解するとともに、それに対する研究の広がり理解する。
授業計画	初回に全体の領域を概説する。第2回以降は、参加者に課題を割り当て、順次発表及びディスカッションを繰り返す。テーマは、大きく3つのブロックに分けて順に扱う。第一は記号と媒体、第二は言語、第三は図書資料。
授業の方法	講義1割、発表4、ディスカッション5で行う。
成績評価方法	授業への参加度、作業の達成度と、小テストを考慮した総合評価。
教科書	教科書及び参照資料は授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	特にありませんが、日英両言語での議論を当たり前とみなせること(技術的な問題は別)
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-213-09	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	河村 俊太郎				
授業科目	図書館情報学特殊研究				
講義題目	図書館情報学理論研究 Theory of Library and Information Studies				

授業の目標・概要	図書館、図書館情報学に関わる英語文献を輪読する。輪読を通じて、文献の読み方、そして基本的な概念や歴史などについても学んで行く。
授業計画	1 オリエンテーション2-12 テクストの輪読13 まとめ
授業の方法	テキストの訳読担当者を毎回事前に指定し、輪読を行う。担当者が担当部分を発表した後、参加者による討議や講評を行う。
成績評価方法	発表内容及び授業への参加の度合いによって評価する。
教科書	Alex Csiszar "The Scientific Journal -Authorship and the Politics of Knowledge in the Nineteenth Century-"(The University of Chicago Press, 2018)Geoffrey C. Bowker "Memory Practices in the Science"(MIT Press, 2005)デービス・ベアード『物のかたちをした知識 -実験機器の哲学-』(青土社, 20
履修上の注意・備考	とくになし。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-213-10	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	池内 淳				
授業科目	図書館情報学特殊研究				
講義題目	図書館情報学特別講義 Library and information Science Special Lecture				

授業の目標・概要	現代の図書館に関する諸問題を取り上げディスカッションを行う。
授業計画	第1回:ガイダンス第2回:現代における図書館の諸問題(1)第3回:現代における図書館の諸問題(2)第4回:現代における図書館の諸問題(3)第5回:現代における図書館の諸問題(4)第6回:現代における図書館の諸問題(5)第7回:プレゼンテーションとディスカッション(1)第8回:プレゼンテーションとディスカッション(2)第9回:プレゼンテーションとディスカッション(3)第10回:プレゼンテーションとディスカッション(4)第11回:プレゼンテーションとディスカッション(5)第12回:プレゼンテーションとディスカッション(6)第13回:プレゼンテーションとディスカッション(7)第14回:プレゼンテーションとディスカッション(8)第15回:まとめ
授業の方法	担当教員による講義のほか、受講生によるプレゼンテーションとディスカッションを行う。
成績評価方法	プレゼンテーションと課題によって評価する。
教科書	教科書はとくに用いない。
履修上の注意・備考	とくになし。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-213-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	阿辺川 武				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	デジタルドキュメント論 Studies of Digital Documents				

授業の目標・概要	デジタルドキュメントは、従来の紙による文書を電子機器による表示に置き換えたものであるが、情報処理技術の発達により、文書間のリンク関係、複製の容易さ、情報の速達性、共同編集など、紙では実現不可能な概念を備えるようになった。本講義では、情報伝達的手段として欠かすことのできないデジタルドキュメントを研究資料として利用する学生を対象とし、デジタルドキュメントからのテキスト抽出や加工、分析など、研究のデータ作成に必要な技術について学ぶ。講義においてデジタルドキュメントに関する知識を獲得するとともに、演習を重視しデータ処理の実践的な力を身につけることを目的とする。
授 業 計 画	1. ガイダンス 2. 学術論文 PDF 解析 3. 小説のテキストマイニング 4. 書誌データの集計と可視化 5. ニューステキストのクラスタリング 6. 学術論文の引用分析とネットワーク 7. 小説のテキストマイニング 8. Wikipedia からの情報抽出 9. 文字・ユニコード 10. オフィス文書の解析 11. 紙からのデジタル化 12. デジタルアーカイブ・IIIF 13. 要約・旧字新字変換 14. 種々のデータ処理 15. 種々のデータ処理 2※内容や順番は変更されることがあります
授 業 の 方 法	毎コマ、前半に講義をおこない、後半に関連する演習をおこなう。
成 績 評 価 方 法	講義中の課題、および期末のレポートによる評価
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	本講義は演習を行いません。講義中にパソコン内でコマンドラインツールや Python プログラムを動作させます。パソコンの OS は各種ライブラリの動作検証に手間がかかることから、最新版 Windows10 もしくは macOS を指定します(コンピュータに精通している人はその限りではありません)。Python プログラムはこちらで用意するものを動作させますので、Python プログラムを書いたことがない人でも演習がこなせるようにします。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-213-12	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	牧野 篤				
授業科目	生涯学習論論文指導				
講義題目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授業の目標・概要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授業計画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授業の方法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせる。必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	大学院生としての自覚を持って、積極的に参加すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-13	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	牧野 篤				
授業科目	生涯学習論論文指導				
講義題目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授業の目標・概要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授業計画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授業の方法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	博士院生として、自らの研究課題を大事にしながら、自分の研究の方向性をつくるよう、努力して欲しい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-14	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	李 正 連				
授業科目	生涯学習論論文指導				
講義題目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授業の目標・概要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授業計画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授業の方法	個別指導と集団での議論・討議を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-15	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	李 正 連				
授業科目	生涯学習論論文指導				
講義題目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授業の目標・概要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授業計画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授業の方法	個別指導と集団での議論・討議を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-16	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	新藤 浩伸				
授業科目	生涯学習論論文指導				
講義題目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授業の目標・概要	修士論文、博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授業計画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授業の方法	オンラインでの開講を基本とする。授業アドレスは別途履修者に伝える。個別指導と集団での議論・討議を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	年度内の発表機会、執筆論文を個別に設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-17	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	新藤 浩伸				
授業科目	生涯学習論論文指導				
講義題目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授業の目標・概要	修士論文、博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授業計画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授業の方法	オンラインでの開講を基本とする。授業アドレスは別途履修者に伝える。個別指導と集団での議論・討議を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成績評価方法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	年度内の発表機会、執筆論文を個別に設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-18	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	影浦 峯				
授業科目	図書館情報学論文指導				
講義題目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授業の目標・概要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授業計画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授業の方法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成績評価方法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教科書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-19	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	影浦 峯				
授業科目	図書館情報学論文指導				
講義題目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授業の目標・概要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授業計画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授業の方法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成績評価方法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教科書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-20	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	河村 俊太郎				
授業科目	図書館情報学論文指導				
講義題目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授業の目標・概要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授業計画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授業の方法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成績評価方法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教科書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-21	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	河村 俊太郎				
授業科目	図書館情報学論文指導				
講義題目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授業の目標・概要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授業計画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授業の方法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成績評価方法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教科書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-22	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	池内 淳				
授業科目	図書館情報学論文指導				
講義題目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授業の目標・概要	図書館情報学・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授業計画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授業の方法	第1回:研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回-第4回:個別指導第5回:グループ指導および相互の情報交換第6回-第9回:個別指導第10回:グループ指導および相互の情報交換第11回-第14回:個別指導第15回:グループ指導および相互の情報交換
成績評価方法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教科書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-213-23	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	池内 淳				
授業科目	図書館情報学論文指導				
講義題目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授業の目標・概要	図書館情報学・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授業計画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授業の方法	第1回:研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回-第4回:個別指導第5回:グループ指導および相互の情報交換第6回-第9回:個別指導第10回:グループ指導および相互の情報交換第11回-第14回:個別指導第15回:グループ指導および相互の情報交換
成績評価方法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教科書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-214-01	単位数	2	学 期	S2
担当教員	阿曾沼 明裕、山田 礼子、吉田 文				
授業科目	大学経営政策基本研究				
講義題目	高等教育論 Introduction to Higher Education				

授業の目標・概要	この授業は、大学・高等教育機関の基本的な機能である教育機能に焦点を当て、その構造と機能について学び、このコースで学ぶための基礎的な知識を得ることを目標とする。大学経営・政策コースの導入的な授業でもある。今年度においてはとくに、お二人の講師(吉田文早稲田大学教授、山田礼子同志社大学教授)をお招きし、大学教育の重要な部分である教養教育とカリキュラム、そして大学教育が学生に及ぼす影響や学習成果、リカレント教育について、お話しいただく。加えて、大学教育や大学制度の歴史についても取り上げ、日本の高等教育の構造的な特徴についても理解を深める。
授業計画	まず最初に、大学の誕生から現代までの大学の歴史を概観する。次に、教養教育とカリキュラムについて吉田教授にお話しいただき、次にカレッジインパクトや学習成果、リカレント教育について山田教授にお話しいただく。最後に、日本の大学の特徴について議論する。授業で取り上げる文献や内容は、受講者の理解や関心状況に応じて、途中で変更や改訂、追加や削除が行われることがある。①イントロ 大学の歴史(1)②大学の歴史(2)③教養教育(1)④教養教育(2)⑤カリキュラム(1)⑥カリキュラム(2)⑦カレッジ・インパクト、学習成果(1)⑧カレッジ・インパクト、学習成果(2)⑨リカレント教育(1)⑩リカレント教育(2)⑪日本の大学(1)⑫日本の大学(2)⑬予備および総括
授業の方法	基本的には講義形式で行うが、テキストや資料の提示がある場合は文献の読み込みや予習をおこなうこと。この授業は S2 ターム、2 限連続の授業で行う予定にしている。授業時間が長くなるため、講義形式ではあるが、受講者間のディスカッションなどを行う場合もある。
成績評価方法	課題に対するレポートに基づく。授業の中でのディスカッションへの参加度合や議論の内容なども考慮する。
教科書	授業時に適宜紹介する予定。予習教材は授業の前に提示・配布する予定
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-214-02	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	阿曾沼 明裕				
授業科目	大学経営政策基本研究				
講義題目	高等教育政策論 Higher Education Policy				

授業の目標・概要	この授業の目標は、高等教育政策を理解するのに必要な捉え方(枠組み)や基礎的な知識を学ぶことである。大学はアカデミックな独自の教育・研究活動を行う場であるが、他方で社会にその資源を依存し、人材養成や知識生産で社会からの要請に応えねばならない。大学制度や大学政策はこの二つの異なる要求を調整する機能を有する。この授業では、こうした観点から高等教育政策を理解することを学ぶ。そのために必要な日本の大学制度の成り立ちの基本構造や、政策形成過程のメカニズムについても学ぶ。
授業計画	この授業では、まず第一に、高等教育政策を考えるための基礎的な枠組みや理屈について学ぶ。第二に、日本の高等教育政策を概観し、個別の領域の政策についても可能な限り取り上げる。第三に、政策形成過程について取り上げる。①イントロ②基礎編(1) ③基礎編(2) ④基礎編(3) ⑤日本の高等教育政策(1) ⑥日本の高等教育政策(2)⑦日本の高等教育政策(3)⑧日本の高等教育政策(4)⑨日本の高等教育政策(5) ⑩政策形成過程(1) ⑪政策形成過程(2) ⑫政策形成過程(3) ⑬21世紀の高等教育政策形成
授業の方法	授業時に提示するテキストや資料の解説など講義形式が中心となるが、文献についての報告やそれに基づくディスカッションを行う場合もある。
成績評価方法	レポートや試験によるが、授業時のディスカッションへの参加度合や議論の内容なども参考にする。
教科書	授業時に提示・配布する。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-214-03	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	福留 東土				
授業科目	大学経営政策基本研究				
講義題目	比較大学論 Comparative Study in Universities				

授業の目標・概要	この授業では、大学を比較と歴史の視点から探究することにより、大学に関する複眼的かつ幅広い視野を獲得することを目標とする。主にアメリカの大学を対象に講義を行うが、アメリカの大学に関する知識を習得すること自体が目的ではなく、比較史的考察を通して、各人が「大学とは何か」に関する思考を深めることを重視する。アメリカの大学システムは高度な多様性を備えており、その多様性の検討を通して、大学・高等教育のあり方を多角的に検討し、我々の持つ大学像を拡張することが本授業の主な目的となる。さらには、教育や学術、社会との連携など、多方面でこれまで様々な取組が行われてきた歴史を振り返る中で、現代の問題にも通じる、大学・高等教育の本質的な使命や課題にアプローチする視座を、本授業を通して培ってほしい。
授業計画	1.大学の比較・歴史研究とは何か 2.大学教育とガバナンスを巡る討論 3.アメリカの大学システム 4.アメリカの多様な大学 5.カレッジの成立—植民地カレッジ 6.大学の公と私—ダートマスカレッジ・ケース 7.カレッジの教育—イェール・レポートを巡って 8.実務的教育と大学—ランドグラント・カレッジの成立と展開 9.宗教と科学—進化論の受容と反発 10.研究大学の成立—学術研究と大学院教育 11.拡大と多様化・競争・協調・標準化—19世紀末から 20世紀前半の大学 12.20世紀の大学とリベラル・エデュケーション 13.大衆化・民主化・統制—戦後の大学
授業の方法	講義形式と討論とを併用する。授業中にできるだけ議論の時間を確保するため、事前講義を配信するので、必ず聴いた上で授業に参加すること。また、受講生は期末レポートの中間発表を各自一回授業中に行う。期末レポートは以下のいずれかにより作成すること。(1)海外の個別大学をひとつ取り上げ、その歴史や現状について論じる。(2)特定のテーマを立てて、比較または歴史の観点からそのテーマについて論じる。
成績評価方法	期末レポート、および授業へのリフレクションによる。毎回の授業でリフレクションシートを配布するので、授業を通して考えたこと、質問などを記入して授業の最後に提出すること。
教科書	主に講師作成の資料による。以下は授業前半で用いる論文の一部。詳細は開講時に指示する。Roger Geiger, "Ten Generations of American Higher Education." Robert Birnbaum, "Governance and Management: US Experiences and Implication for Japan's Higher Education." William Tierney, "Globalization, International
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-214-04	単位数	2	学 期	通年
担当教員	福留 東土、両角 亜希子				
授業科目	大学経営政策基本研究				
講義題目	大学経営政策演習(2) Seminar on Higher Education Policy and Management (2)				

授業の目標・概要	高等教育研究に関わる課題設定, 方法論, 論文執筆に関わる基礎的な作法や考え方を修得することを目的とする. 受講者による論文の協同執筆による投稿論文の執筆を主とした取組を考えている.
授業計画	予め授業のテーマ設定は行わず, 受講者の関心と高等教育研究の動向を踏まえて, 年間の取り組み課題を決定する. 個々の受講者の課題関心も考慮するが, 高等教育研究に対する視野を拡げるため, 例えば他の受講者が設定した課題であっても, その共有や取り組みを前提とする. アプローチ方法も, 量的, 質的, そして資料分析など, 設定された課題に応じて選択する. なお, 受講者数によって, 取り上げる課題の数等が変更となる場合がある. ①導入②第 1 クール: テーマの設定③第 1 クール: 課題設定・先行研究の検討・枠組の決定④第 1 クール: 論文執筆(導入と方法)⑤第 1 クール: 論文執筆(考察Ⅰ)⑥第 1 クール: 論文執筆(考察Ⅱ)⑦第 1 クール: 論文執筆(結論と全体の見直し)⑧第 2 クール: テーマの設定⑨第 2 クール: 課題考察・先行研究の検討・枠組の決定⑩第 2 クール: 論文執筆(導入と方法)⑪第 2 クール: 論文執筆(考察Ⅰ)⑫第 2 クール: 論文執筆(考察Ⅱ)⑬第 2 クール: 論文執筆(結論と全体の見直し)
授業の方法	受講者は毎回の授業の狙いと成果を理解し, 担当箇所について予め準備・執筆を行い, 授業時に持ちよって, 改善・改訂を行う.
成績評価方法	授業時と授業前後の実質的な取組状況によって判断する.
教科書	どのテーマ・方法論を採用するかは, 授業時に受講者の関心も踏まえながら, 受講者間での調整を含めて決定する.
履修上の注意・備考	この授業は通年で隔週に実施される予定. 博士課程の学生を対象とした授業.
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-214-05	単位数	2	学 期	通年
担当教員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土				
授業科目	大学経営政策基本研究				
講義題目	大学経営政策研究 Research Methods for Higher Education Policy and Management				

授業の目標・概要	論文作成に必要な知識、技能、考え方を講義・演習形式を組み合わせで修得する
授業計画	1:導入(高等教育研究とは)2:論文講読(大学経営①)3:論文講読(大学経営②)4:論文講読(比較大学①)5:論文講読(比較大学②)6:論文講読(大学政策①)7:論文講読(大学政策②)8:協同学習①9:協同学習②10:個人発表前半(関心と課題)11:個人発表後半(関心と課題)12:個人発表前半(先行研究と方法)13:個人発表後半(先行研究と方法)
授業の方法	受講者全員に同様に取り組んでもらうものと、個々の学生の関心に応じて取り組んでもらうものを組合せ、共同で学び発表するスタイルと、個人で学び発表するスタイルの双方を用いる。
成績評価方法	授業への出席と発表。
教科書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-214-06	単 位 数	2	学 期	S1
担当教員	両角 亜希子				
授業科目	大学経営政策基本研究				
講義題目	大学経営論 Management of University				

授業の目標・概要	大学の経営について、基礎的な知識を身につけるとともに、その現代的な問題点について各自の問題意識を発展させる。
授業計画	下記の内容を扱う予定だが、受講生の関心を見つつ修正する可能性はある。主に日本の大学を念頭に進めるが、適宜、国際比較をしながら理解を深めてもらう。(1)ガイダンス、日本の大学の制度的特徴(2)大学のガバナンス①(国公立)(3)大学のガバナンス②(私立)(4)大学の組織モデル(5)大学の組織文化とリーダーシップ(6)大学の組織編制原理(7)大学の施設マネジメント①(国公立)(8)大学の施設マネジメント②(私立)(9)大学の人事マネジメント①(教職員)(10)大学の人事マネジメント②(管理職・経営者)(11)大学の財務①(制度的特徴、財務構造、補助金制度)(12)大学の財務マネジメント②(財務指標による分析)(13)大学の戦略・計画・IR、合併と連携
授業の方法	講義のほかに、グループ学習や履修者による発表、ケースメソッドを用いた授業などを行う予定。特に今回は、3・4限の連続授業となるため、1日に1つのテーマを扱い、それに関する事前学習、グループ・クラス討議(あるいはゲスト講師による講演と質疑)、そのうえでの講義といった組み合わせで理解を深める予定である。積極的に参加してもらいたい。
成績評価方法	試験、課題、授業への参加状況などを総合的に評価する。
教科書	特に用いない。授業中に必要に応じて参考資料を配布する予定。
履修上の注意・備考	履修予定で初回の授業に出られない場合は、前日までにメールにて連絡すること。履修を考えている方(大学経営・政策コースの学生以外)は、前日までに両角までメールしてください。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-214-07	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	福留 東土、倉元 直樹、堀 有喜衣				
授業科目	大学経営政策特殊研究				
講義題目	大学経営政策各論(1) Topics in Higher Education Policy and Management(1)				

授業の目標・概要	本授業では、(1)大学入学者選抜と高校から大学への移行、(2)学士課程カリキュラムと準正課・課外活動、(3)キャリア展望と卒業後の進路、という3つの軸を設定し、それによって入学から卒業に至る大学生の経験のプロセスについて考察する。専門家による講義を通して上記3つの領域に関する専門的知識を習得し、各領域について深く考察する視野を獲得する。合わせて、学生の視点に立って思考できるようになることを目指し、各領域に関わる大学経営・政策に対する視野の醸成を目指す。
授業計画	(大学入学者選抜と高校から大学への移行)1. 大学入試の諸原則から見た高大接続改革の方向転換 2. アドミッションセンター構想と大学入試研究 3. 大学進学に向けた高校教育の現状 4. 大学入試の設計(学士課程カリキュラムと準正課・課外活動)5. 学士課程カリキュラムの設計理念 6. 教養、専門、学際、統合について考える 7. 教育内容と教育手法 8. 準正課・課外活動と学士課程教育(キャリア展望と卒業後の進路)9. 大卒労働市場 10. 企業の大卒採用 11. 学生の就職活動 12. 学生へのキャリア支援
授業の方法	主に講義と質疑応答による。一部、グループディスカッションをはじめとする学生間の学び合いの手法を取り入れる。
成績評価方法	授業への参加・貢献、各担当教員による課題レポートによる。
教科書	配布資料による。
履修上の注意・備考	授業には毎回出席すること。やむを得ない事情により欠席する場合は事前に TA まで連絡すること。
その他	Google Classroom を使って課題・資料などの配信を行う。詳細は開講時に伝える。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-214-08	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	両角 亜希子、中島 英博、中井 俊樹、小方 直幸、杉本 和弘				
授業科目	大学経営政策特殊研究				
講義題目	大学経営政策各論(2) Topics in Higher Education Policy and Management(2)				

授業の目標・概要	大学等の高等教育機関が教育目標を達成するために、教学マネジメントを確立させ、これまで以上に組織的に取り組むことが求められています。本講義では、4名の講師が様々な観点から講義を行い、教学マネジメントについての理解を深めることを目的とします。
授業計画	この授業では、4名の先生が講義を順番に担当します。小方直幸(客員教授、香川大学 教育学部)／大学以外の高等教育機関(専門職大学、専門学校等)における教育と教学マネジメントの課題杉本和弘(客員教授、東北大学 高度教養教育・学生支援機構)／教学マネジメントにおけるミドルリーダーの役割中井俊樹(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室)／教学マネジメントを支える大学職員の役割中島英博(名古屋大学 教育基盤連携本部／高等教育研究センター／大学院教育発達科学研究科)／大学組織論からみた特性両角亜希子(大学経営・政策コース、本授業のコーディネーター役)日程は以下の通り。10/2、10/9、10/16・・・小方 10/23、10/30、11/6・・・中井 11/13、12/4、12/11・・・中島 12/18、12/25・・・杉本 11/27、1/8・・・ゲスト講師を交渉中内容は以下の通り。(小方担当分)大学経営の分野では相対的に取り上げられることが少ない短期高等教育(専門学校や短期大学制度)の歴史・現状や、新たに制度化された専門職大学・専門職短期大学の特徴に触れつつ、教育マネジメントを考える上で基礎ともなる教育・学習の実態について、各種の資料や調査結果に基づいて紹介し、受講生の視野を拡げつつ各制度の教育のあり様を考える。(中井担当分)担当講義の目標:大学のカリキュラムの特徴を理解し、その編成と運営の方法と課題を理解する。1)大学のカリキュラムの特徴2)カリキュラムの編成3)カリキュラムの運営(事前課題)下記の文献をあらかじめ読んでおくこと。文献は、 https://www.jaedweb.org/blank-23 において公開されています。・中井俊樹(2020)「カリキュラムの構成要素を理解する 上」『教育学術新聞』令和2年5月27日号・中井俊樹(2020)「カリキュラムの構成要素を理解する 下」『教育学術新聞』令和2年6月10日号(中井担当分)担当講義の目標:教学マネジメントに取り組む基盤としての組織を理解し、大学組織運営の方法と課題を理解する。担当講義の構成:(1)大学組織の構造と意思決定(2)大学組織における人間関係と動機づけ(3)大学の組織文化と組織変革授業では事前に配布する事例を読み、論点に対する意見を用意してください。(杉本担当分)アカデミック・ガバナンスをめぐる国内外の議論や実態を整理しつつ、高等教育における質文化の醸成の必要性と、教育現場で具体的に教育活動の充実を図り、学習成果の向上へと導くアカデミック・リーダーの役割と育成について考え、議論する。1)アカデミック・ガバナンスとは2)大学教育の質保証と質文化3)アカデミック・リーダーの役割と育成4)日本における教学マネジメントの課題
授業の方法	主に講義形式で行うが、部分的にグループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。それぞれの担当講師の指示に従うこと。オンラインか対面を併用するかは状況を見つつ、授業開始前に判断する。
成績評価方法	平常点とレポートによる。各講師がそれぞれ成績を付けて、それらを合わせて総合的な成績とする。それぞれの担当講師が初回に成績評価方法を説明する。
教科書	とくに指定しない。授業で資料を配布する。
履修上の注意・備考	授業日程をよく確認の上、毎回の講義に出席し、課題をすべて提出すること。Google classroom への登録を行ってもらうので、大学経営・政策コースの学生(科目等履修生を含む)以外の学生は、必ず授業開始前に両角までメールすること。morozumi@p.u-tokyo.ac.jp
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-214-09	単 位 数	2	学 期	集中
担当教員	大多和 直樹				
授業科目	大学経営政策特殊研究				
講義題目	高等教育調査の方法と解析(1) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (1)				

授業の目標・概要	・高等教育を対象とした社会調査の基礎を身につけることを目標とする。修士論文等の際に自ら調査を企画・実施し、データ分析まで行えるよう、一通り調査の各プロセスについて把握する。調査を身につけるにあたっては、技術的、知識的な側面にとどまらず、思考のあり方や調査に臨む際の態度などの側面もまた重要となる。授業では、実際に既存数量的データの二次分析(エクセル統計等を利用)を演習的に行う中で、そうした部分をも体得することを目指す。
授業計画	1. ガイダンス～社会調査:知的創造のためのデータ収集法2. 問いの重要性:研究は問いから始まる3. 問いから仮説へ4. 仮説検証を行う:クロス分析とは5. 検定の考え方:カイニ乗検定6. アウトプット=論文に触れる7. 質問紙の作成法:ワーディングと構成8. サンプリング9. 質的方法に触れる 10. 統計の基礎 11. 回帰分析の考え方<ミニ演習>12.ミニ演習 1 13.ミニ演習 2 14.ミニ演習 3 15.まとめ
授業の方法	社会調査・統計分析の基礎を理論的に学んだ後、ミニ演習(既存調査データの二次分析)を行う。
成績評価方法	平常点: ミニ演習など 40%レポート: 60%
教科書	篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳 『社会調査の基礎』弘文堂 2010
履修上の注意・備考	最初から最後まで通して参加できる学生に限る。
その他	授業では統計解析を実際に行うが、その際、各自解析ソフトを用意することが求められる(SPSS が好ましい)。これについては最初の授業の際に説明する(まだ持っていない受講生は、それまでは購入等はしないほうが望ましい)。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-214-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	濱中 義隆				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	高等教育調査の方法と解析(2) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (2)				

授業の目標・概要	高等教育政策のみならず様々な社会的事象を分析する際の基礎となるデータ解析の手法について、統計学的な理論的知識を修得するとともに、実際に既存のデータを分析してみることを通して、幅広く自らの研究や実務に応用することができるようになることを目標とする。最も基本的な手法から順に多変量解析の初歩的な手法まで対象とするが、データ分析に用いるソフトウェア(表計算ソフトや統計パッケージ)の使い方については講義時間中に十分説明することは困難なため、各自で別途学習することが求められる。
授 業 計 画	1 イントロダクション 調査統計の思想と技法(量的調査と質的調査) 2 量的調査の基礎(操作化、測定、変数) 3 度数分布表と記述統計量 4 2つの変数間の関係の記述(クロス集計表、散布図、相関係数) 5 推測統計学の基礎(確率、期待値、確率分布) 6 統計的推測と統計的仮説検定の考え方 7 課題発表(1) 8 分散分析と回帰分析 9 多変量解析の考え方(擬似関係、媒介関係、交互作用とは) 10 三重クロス表の分析 11 重回帰分析とパス解析 12 ロジスティック回帰とカテゴリカルデータ分析 13 課題発表(2) 14 試験
授 業 の 方 法	講義と演習(課題発表)(上記授業計画参照)
成 績 評 価 方 法	課題レポート2回(50%), 発表(20%), 試験(30%)とする。
教 科 書	指定しない
履修上の注意・備考	受講生は夏学期の「高等教育調査と解析(1)」を受講している者に限る。統計学や社会調査法の基礎を学習していることが望ましい。
そ の 他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-214-11	単位数	2	学 期	A2
担当教員	福留 東土				
授業科目	大学経営政策特殊研究				
講義題目	比較大学経営論(1) Comparative Study in University Management (1)				

授業の目標・概要	本授業は、大学の比較研究に対する視野を醸成することを目的とする。米国の大学を訪問して現地で講義を受け、米国の大学人とディスカッションすることを通して、米国の研究大学の制度と実態を学ぶ。それを通して、大学に関する比較考察の視点を獲得し、日本の大学のあり方について考察する上での示唆を得る。アメリカの大学は世界の大学改革のモデルと位置付けられているが、その実態は実は十分に理解されていない。まずは予断を入れずにアメリカの大学の実態を理解しようとするのが重要である。すべての受講生が関心あるテーマを見出せるよう、幅広いテーマで講師を依頼するので、各自の関心のあるテーマや研究テーマに関する理解を深める機会としてもらいたい。また、受講生各自の関心に即して事前調査やレポート執筆を行うことを通して、比較の視点から日本の大学像を相対化し、大学に対する幅広い知見を獲得することを目指す。受講に当たって英語力は問わない。英語力そのものよりも、言語は異なっても積極的に対話し、学ぼうとする姿勢を持って参加することが重要である。
授業計画	現地での講義は5日間(月～金)行う。その他、渡航前に事前学習会、渡航後に事後報告会を行う。詳細なスケジュールは決まり次第連絡する。9月下旬に授業ガイダンスを行う(日程は決まり次第通知する)。受講を考えている学生は必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に連絡すること。
授業の方法	海外で5日間の集中講義を行う。また、事前学習会、現地での検討会、事後報告会を行う。事前学習として、講師による講義を配信するので、指定の期日までに必ず視聴しておくこと。
成績評価方法	授業への参加・貢献度、および最終レポートによる。
教科書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	・詳細なスケジュールは決まり次第、連絡する。履修希望者は授業ガイダンスに必ず参加すること。・原則としてすべての事前学習会、講義に参加すること。・事前に期末レポートの執筆テーマを決め、事前学習会での報告と期末レポートの提出を期日を守って行うこと。・十分な準備を行った上で講義に臨み、現地のセッションでは講義を聴くだけでなく、積極的に質問・コメントをすること。・集中講義が全受講生にとって有意義な経験となるよう、受講生間で情報交換を図り、十分に協力し合うこと。
その他	受講を考えている学生は4月の授業ガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に連絡すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時間割コード	23-214-12	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	両角 亜希子				
授業科目	大学経営政策特殊研究				
講義題目	大学経営事例研究(2) Case Study in University Management(2)				

授業の目標・概要	特定の大学やトピックスを選んで、ケーススタディを行う。大学経営に関する特定のテーマについての理解を深めるとともに、ケーススタディの方法を学び、実践することで身につけることを目指す。参加者は対象大学についての概要、問題点、その克服などについてレポートを作成する。
授業計画	今年度は特定の大学を取り上げて、大学のウェブサイト、各種資料の分析、事例大学の関係者へのインタビューなどを通じて、様々な観点から深く掘り下げることを検討している。詳細は、第1回の授業で説明するので、履修を希望する者は必ず出席のこと。
授業の方法	発表、討議形式で行う。
成績評価方法	授業への出席と討論等への貢献、研究内容(レポート課題等)によって総合的に評価を行う。
教科書	なし
履修上の注意・備考	日程は現時点では下記を考えているが、変更もありうる。変更の場合は学内掲示で知らせるため、履修を希望する者は掲示を確認すること。7月19日(月、祝)、24日(土)、8月7日(土)、9月4日(土)の2-5限。第1回の授業に出られない場合は、必ず、担当講師に事前にメールで連絡すること。履修登録したものに事前ガイダンス(第1回授業までの課題等)について連絡する。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-214-13	単位数	2	学 期	通年
担当教員	阿曾沼 明裕、栗田 佳代子、両角 亜希子、福留 東土、小方 直幸、杉本 和弘				
授業科目	大学経営政策論文指導				
講義題目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授業の目標・概要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授業計画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは4月に決定する。
授業の方法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成績評価方法	授業への出席と発表。
教科書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-214-14	単位数	2	学 期	通年
担当教員	阿曾沼 明裕、栗田 佳代子、両角 亜希子、福留 東土、小方 直幸、杉本 和弘				
授業科目	大学経営政策論文指導				
講義題目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授業の目標・概要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授業計画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは4月に決定する。
授業の方法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成績評価方法	授業への出席と発表。
教科書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-214-15	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	栗田 佳代子				
授業科目	共通科目				
講義題目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授業の目標・概要	<p>授業の概要 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本授業は、東京大学フューチャーファカルティプログラムとして、学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し、模擬授業の実践も行います。多様な研究領域から集う受講者相互の学び合いは、新しい視点の獲得につながり、また、プログラムの修了後も継続するネットワークを培います。本授業で学んだことは「目的・目標を明確にし、達成するためのデザイン」や「伝えたいことが確かに相手に伝わるコミュニケーション」を学ぶという点で研究活動の向上にも活かせることでしょう。また、新型コロナウイルス感染症への対応のためオンラインでの開催となりますが、オンライン授業の特性を生かした授業を体験し、自らも実施できることを目指します。目的と目標（目的）本授業では、未来の大学教員として、責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに実際に体験し、互いに学び合いながら獲得し、さらに、研究だけでなく教育についても探究し続ける姿勢を身につけます。（目標）-高等教育の現状の概要について説明できる-効果的なデリバリースキルの観点を知り、自分のスキルの向上につなげる-グループワークに積極的に参加し、当事者およびファシリテーターとしてのコミュニケーション力をつける-学生が主体的に学べる授業のデザインができる-基礎知識をふまえた評価をデザインできる-学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる-キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる</p>
授業計画	<p>授業は原則下記の日程です。変更がある場合には予めお知らせします。S セメスターにおいて授業時間に変更がある場合、授業時間確保のため開始・終了時間の変更をすることがあります。この授業は金曜日の「大学教育開発論」(23-214-16)および A セメスターの「大学教育開発論」と同じ内容です。DAY1 4/15 研究紹介演習・高等教育の現在、東大 FFP の概要と意義 「教員としての 1 分間研究紹介」の実践を行います。また、その参観と相互評価を通して、受講者相互の連携を高め、学ぶ環境を整えます。 高等教育の変化について学び大学のおかれている状況を理解し、東京大学フューチャーファカルティプログラムの概要と意義を確認します。演習:1 分間研究紹介と相互評価 DAY2 4/22 クラスデザイン 授業設計の基礎を学びつつ、構成の指針や観点も踏まえて、自身が設定した授業科目の1コマを設計について学びます。学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについて理解します。学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブラーニングの複数の手法について体験を通して学びます。演習:アクティブラーニングの方法体験、6 分間クラスデザインシートの作成 DAY3 5/6 評価 授業における評価の方法や意義について理解します。学生の学びを促し、レポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します。演習:ルーブリックによる採点とルーブリックの作成 DAY4 5/20 コースデザイン (シラバス) シラバスの基本的構成を知り、作成の目的と役割の重要性について理解します。自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します。また、特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます。演習:シラバス改善、グラフィックシラバス作成 DAY5 6/10 授業改善とふりかえり 模擬授業の事例の授業改善を中心にしつつ学生参加をうながすようなファシリテーションについて学びます。 これまでの授業全体を通じた振り返りを行い、学んだこと等についてポスターツアーを経験しながら共有します。演習:模擬授業検討会、ポスターツアー-DAY6 6/17 模擬授業 ～実施(1)と改善～ 4 グループにわかれ、模擬授業の演習を行います。メンバー同士で議論を重ねつつ、授業デザインや教授方法について学びを深めながら、模擬授業の改善をはかります。演習:模擬授業実施と相互評価 DAY7 7/1 模擬授業 ～実施(2)～ 2 グループにわかれ、2回めの模擬授業を実施し相互評価を行います。演習:模擬授業実施と相互評価 DAY8 7/15 SAP チャート作成によるキャリアパス展望 自分の教育・研究、その他の活動についてふりかえって俯瞰し、その活動の核を見出します。大学教員としてのキャリアパスを展望します。演習:SAP チャート作成</p>

授業の方法	今期は全てオンラインで実施します。本授業では、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、積極的な授業参加が求められる授業です。これらは、全てオンライン形式で実施します。携帯電話のみでは受講できません。PCでの受講が必須となります。また、実践を重視するため、実際に授業のデザインやシラバス作成、模擬授業の設計・実施などの課題への取り組みを通して学びます。
成績評価方法	授業への参加状況 25%課題の提出状況および質的評価 75%(内訳)100点満点とした場合の各配点授業の参加状況 25 個人ワークへの取り組み 10 グループワークへの貢献 15 * 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真摯に取り組むグループワークや全体に貢献する姿勢を評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。*ただし、模擬授業の回については、原則出席してください。2回(DAY6, DAY7)とも欠席の場合は、修了条件である「欠席回数が2回以下」を満たしていても、修了とは認められません。課題の提出状況および質的評価 75 研究紹介の実施 6 シラバス・グラフィックシラバス 15 クラスデザイン 10 模擬授業 20 各回の振り返り 24(3*8回)
教科書	教科書は特に定めません。配布資料によって授業を進めますので、2穴のバインダ(厚み3cm程度)を用意して下さい。
履修上の注意・備考	https://www.utokyofd.com/ffp/attend.html へエントリーをしてください。定員(25名)がありますので選考を行います。単なる授業登録のみでは受講は認められません。エントリー締切は4/11 23:59です。前知識は特に必要としません。本学の正規大学院生は「大学教育開発論」として2単位が認められます。単位取得を希望する者は、各研究科にて受講登録を行ってください(単位取得を希望しない場合には受講登録は不要です)。
その他	(受講ルール) -本授業は一日で2コマ連続の実施です。基本的に全ての回に出席してください。授業における学習者間の学びが重要と考えますので、4コマ分(2日間)を越えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とし、修了とはみなしませんが(原則登録曜日の受講としますが、やむを得ない場合異なる曜日開講の授業の振替受講が可能です)。なお、この例外として、DAY6, DAY7 いずれも欠席となる場合には、4コマ分以内であっても修了とはみなしませんが(模擬授業の実施が大変重要であるためです)。-欠席の場合には授業日午前10時までに欠席

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-214-16	単位数	2	学期	S1S2
担当教員	栗田 佳代子				
授業科目	共通科目				
講義題目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授業の目標・概要	<p>授業の概要 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本授業は、東京大学フューチャーファカルティプログラムとして、学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し、模擬授業の実践も行います。多様な研究領域から集う受講者相互の学び合いは、新しい視点の獲得につながり、また、プログラムの修了後も継続するネットワークを培います。本授業で学んだことは「目的・目標を明確にし、達成するためのデザイン」や「伝えたいことが確かに相手に伝わるコミュニケーション」を学ぶという点で研究活動の向上にも活かせることでしょう。また、新型コロナウイルス感染症への対応のためオンラインでの開催となりますが、オンライン授業の特性を生かした授業を体験し、自らも実施できることを目指します。目的と目標（目的）本授業では、未来の大学教員として、責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに実際に体験し、互いに学び合いながら獲得し、さらに、研究だけでなく教育についても探究し続ける姿勢を身につけます。（目標）-高等教育の現状の概要について説明できる-効果的なデリバリースキルの観点を知り、自分のスキルの向上につなげる-グループワークに積極的に参加し、当事者およびファシリテーターとしてのコミュニケーション力をつける-学生が主体的に学べる授業のデザインができる-基礎知識をふまえた評価をデザインできる-学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる-キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる</p>
授業計画	<p>授業は原則下記の日程です。変更がある場合には予めお知らせします。S セメスターにおいて授業時間に変更がある場合、授業時間確保のため開始・終了時間の変更をすることがあります。この授業は木曜日の「大学教育開発論」(23-214-15)および A セメスターの「大学教育開発論」と同じ内容です。DAY1 4/16 研究紹介演習・高等教育の現在、東大 FFP の概要と意義 「教員としての 1 分間研究紹介」の実践を行います。また、その参観と相互評価を通して、受講者相互の連携を高め、学ぶ環境を整えます。 高等教育の変化について学び大学のおかれている状況を理解し、東京大学フューチャーファカルティプログラムの概要と意義を確認します。演習:1 分間研究紹介と相互評価 DAY2 4/23 クラスデザイン 授業設計の基礎を学びつつ、構成の指針や観点も踏まえて、自身が設定した授業科目の1コマを設計について学びます。学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについて理解します。学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブラーニングの複数の手法について体験を通して学びます。演習:アクティブラーニングの方法体験、6 分間クラスデザインシートの作成 DAY3 5/7 評価 授業における評価の方法や意義について理解します。学生の学びを促し、レポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します。演習:ルーブリックによる採点とルーブリックの作成 DAY4 5/21 コースデザイン (シラバス) シラバスの基本的構成を知り、作成の目的と役割の重要性について理解します。自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します。また、特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます。演習:シラバス改善、グラフィックシラバス作成 DAY5 授業改善とふりかえり 模擬授業の事例の授業改善を中心しつつ学生参加をうながすようなファシリテーションについて学びます。これまでの授業全体を通した振り返りを行い、学んだこと等についてポスターツアーを経験しながら共有します。演習:模擬授業検討会、ポスターツアー-DAY6 6/18 模擬授業 ~実施(1)と改善~ 4 グループにわかれ、模擬授業の演習を行います。メンバー同士で議論を重ねつつ、授業デザインや教授方法について学びを深めながら、模擬授業の改善をはかります。演習:模擬授業実施と相互評価 DAY7 7/2 模擬授業 ~実施(2)~ 2 グループにわかれ、2 回目の模擬授業を実施し相互評価を行います。演習:模擬授業実施と相互評価 DAY8 7/16 SAP チャート作成によるキャリアパス展望 自分の教育・研究、その他の活動についてふりかえって俯瞰し、その活動の核を見出します。大学教員としてのキャリアパスを展望します。演習:SAP チャート作成</p>

授業の方法	今期は全てオンラインで実施します。本授業では、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、積極的な授業参加が求められる授業です。これらは、全てオンライン形式で実施します。携帯電話のみでは受講できません。PCでの受講が必須となります。また、実践を重視するため、実際に授業のデザインやシラバス作成、模擬授業の設計・実施などの課題への取り組みを通して学びます。
成績評価方法	授業への参加状況 25%課題の提出状況および質的評価 75%(内訳)100点満点とした場合の各配点授業の参加状況 25 個人ワークへの取り組み 10 グループワークへの貢献 15 * 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真摯に取り組むグループワークや全体に貢献する姿勢を評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。*ただし、模擬授業の回については、原則出席してください。2回(DAY6, DAY7)とも欠席の場合は、修了条件である「欠席回数が2回以下」を満たしていても、修了とは認められません。課題の提出状況および質的評価 75 研究紹介の実施 6 シラバス・グラフィックシラバス 15 クラスデザイン 10 模擬授業 20 各回の振り返り 24(3*8回)
教科書	教科書は特に定めません。配布資料によって授業を進めますので、2穴のバインダ(厚み3cm程度)を用意して下さい。
履修上の注意・備考	https://www.utokyofd.com/ffp/attend.html へエントリーをしてください。定員(25名)がありますので選考を行います。単なる授業登録のみでは受講は認められません。エントリー締切は4/11 23:59です。前知識は特に必要としません。本学の正規大学院生は「大学教育開発論」として2単位が認められます。単位取得を希望する者は、各研究科にて受講登録を行ってください(単位取得を希望しない場合には受講登録は不要です)。
その他	(受講ルール) -本授業は一日で2コマ連続の実施です。基本的に全ての回に出席してください。授業における学習者間の学びが重要と考えますので、4コマ分(2日間)を越えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とし、修了とはみなしませんが(原則登録曜日の受講としますが、やむを得ない場合異なる曜日開講の授業の振替受講が可能です)。なお、この例外として、DAY6, DAY7 いずれも欠席となる場合には、4コマ分以内であっても修了とはみなしませんが(模擬授業の実施が大変重要であるためです)。-欠席の場合には授業日午前10時までに欠席

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-214-17	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	栗田 佳代子				
授業科目	共通科目				
講義題目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授業の目標・概要	<p>授業の概要 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本授業は、東京大学フューチャーファカルティプログラムとして、学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し、模擬授業の実践も行います。多様な研究領域から集う受講者相互の学び合いは、新しい視点の獲得につながり、また、プログラムの修了後も継続するネットワークを培います。本授業で学んだことは「目的・目標を明確にし、達成するためのデザイン」や「伝えたいことが確かに相手に伝わるコミュニケーション」を学ぶという点で研究活動の向上にも活かせることでしょう。また、新型コロナウイルス感染症への対応のためオンラインでの開催となりますが、オンライン授業の特性を生かした授業を体験し、自らも実施できることを目指します。目的と目標（目的）本授業では、未来の大学教員として、責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに実際に体験し、互いに学び合いながら獲得し、さらに、研究だけでなく教育についても探究し続ける姿勢を身につけます。（目標）-高等教育の現状の概要について説明できる-効果的なデリバリースキルの観点を知り、自分のスキルの向上につなげる-グループワークに積極的に参加し、当事者およびファシリテーターとしてのコミュニケーション力をつける-学生が主体的に学べる授業のデザインができる-基礎知識をふまえた評価をデザインできる-学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる-キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる</p>
授業計画	<p>授業は原則下記の日程です。変更がある場合には予めお知らせします。A セメスターにおいて授業時間に変更がある場合、授業時間確保のため開始・終了時間の変更をすることがあります。この授業は S セメスターおよび A セメスター金曜日の「大学教育開発論」と同じ内容です。DAY1 10/7 研究紹介演習・高等教育の現在、東大 FFP の概要と意義 「教員としての 1 分間研究紹介」の実践を行います。また、その参観と相互評価を通して、受講者相互の連携を高め、学ぶ環境を整えます。 高等教育の変化について学び大学のおかれている状況を理解し、東京大学フューチャーファカルティプログラムの概要と意義を確認します。 演習:1 分間研究紹介と相互評価 DAY2 10/21 クラスデザイン 授業設計の基礎を学びつつ、構成の指針や観点も踏まえて、自身が設定した授業科目の1コマを設計について学びます。 学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについて理解します。学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブラーニングの複数の手法について体験を通して学びます。 演習:アクティブラーニングの方法体験、6 分間クラスデザインシートの作成 DAY3 11/4 評価 授業における評価の方法や意義について理解します。学生の学びを促し、レポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します。 演習:ルーブリックによる採点とルーブリックの作成 DAY4 11/18 コースデザイン (シラバス) シラバスの基本的構成を知り、作成の目的と役割の重要性について理解します。自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します。また、特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます。 演習:シラバス改善、グラフィックシラバス作成 DAY5 12/2 授業改善とふりかえり 模擬授業の事例の授業改善を中心にしつつ学生参加をうながすようなファシリテーションについて学びます。 これまでの授業全体を通した振り返りを行い、学んだこと等についてポスターツアーを経験しながら共有します。 演習:模擬授業検討会、ポスターツアー DAY6 12/16 模擬授業 ～実施(1)と改善～ 4 グループにわかれ、模擬授業の演習を行います。メンバー同士で議論を重ねつつ、授業デザインや教授方法について学びを深めながら、模擬授業の改善をはかります。 演習:模擬授業実施と相互評価 DAY7 1/6 模擬授業 ～実施(2)～ 2 グループにわかれ、2回めの模擬授業を実施し相互評価を行います。 演習:模擬授業実施と相互評価 DAY8 1/13 SAP チャート作成によるキャリアパス展望 自分の教育・研究、その他の活動についてふりかえって俯瞰し、その活動の核を見出します。大学教員としてのキャリアパスを展望します。 演習:SAP チャート作成</p>

授 業 の 方 法	今期は全てオンラインで実施します。本授業では、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、積極的な授業参加が求められる授業です。これらは、全てオンライン形式で実施します。携帯電話のみでは受講できません。PC での受講が必須となります。また、実践を重視するため、実際に授業のデザインやシラバス作成、模擬授業の設計・実施などの課題への取り組みを通して学びます。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況 25%課題の提出状況および質的評価 75%(内訳)100 点満点とした場合の各配点授業の参加状況 25 個人ワークへの取り組み 10 グループワークへの貢献 15 * 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真摯に取り組むグループワークや全体に貢献する姿勢を評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。 * ただし、模擬授業の回については、原則出席してください。2 回(DAY6, DAY7)とも欠席の場合は、修了条件である「欠席回数が 2 回以下」を満たしていても、修了とは認められません。課題の提出状況および質的評価 75 研究紹介の実施 6 シラバス・グラフィックシラバス 15 クラスデザイン 10 模擬授業 20 各回の振り返り 24(3*8 回)
教 科 書	教科書は特に定めません。配布資料によって授業を進めますので、2 穴のバインダ(厚み 3cm 程度)を用意して下さい。
履修上の注意・備考	9 月になるとエントリーフォームがオープンします。定員(25 名)がありますので選考を行います。単なる授業登録のみでは受講は認められません。エントリー締切は 10/3 23:59 の予定です。前提知識は特に必要としません。本学の正規大学院生は「大学教育開発論」として 2 単位が認められます。単位取得を希望する者は、各研究科にて受講登録を行ってください(単位取得を希望しない場合には受講登録は不要です)。
そ の 他	(受講ルール) -本授業は一日で 2 コマ連続の実施です。基本的に全ての回に出席してください。授業における学習者間の学びが重要と考えますので、4 コマ分(2 日間)を越えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とし、修了とはみなしませんが(原則登録曜日の受講としますが、やむを得ない場合異なる曜日開講の授業の振替受講が可能です)。なお、この例外として、DAY6, DAY7 いずれも欠席となる場合には、4 コマ分以内であっても修了とはみなしませんが(模擬授業の実施が大変重要であるためです)。-欠席の場合には授業日午前 10 時まで欠席

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-214-18	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	栗田 佳代子				
授業科目	共通科目				
講義題目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授業の目標・概要	<p>授業の概要 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本授業は、東京大学フューチャーファカルティプログラムとして、学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し、模擬授業の実践も行います。多様な研究領域から集う受講者相互の学び合いは、新しい視点の獲得につながり、また、プログラムの修了後も継続するネットワークを培います。本授業で学んだことは「目的・目標を明確にし、達成するためのデザイン」や「伝えたいことが確かに相手に伝わるコミュニケーション」を学ぶという点で研究活動の向上にも活かせることでしょう。また、新型コロナウイルス感染症への対応のためオンラインでの開催となりますが、オンライン授業の特性を生かした授業を体験し、自らも実施できることを目指します。目的と目標（目的）本授業では、未来の大学教員として、責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに実際に体験し、互いに学び合いながら獲得し、さらに、研究だけでなく教育についても探究し続ける姿勢を身につけます。（目標）-高等教育の現状の概要について説明できる-効果的なデリバリースキルの観点を知り、自分のスキルの向上につなげる-グループワークに積極的に参加し、当事者およびファシリテーターとしてのコミュニケーション力をつける-学生が主体的に学べる授業のデザインができる-基礎知識をふまえた評価をデザインできる-学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる-キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる</p>
授業計画	<p>授業は原則下記の日程です。変更がある場合には予めお知らせします。A セメスターにおいて授業時間に変更がある場合、授業時間確保のため開始・終了時間の変更をすることがあります。この授業は S セメスターおよび A セメスター木曜日の「大学教育開発論」と同じ内容です。DAY1 10/8 研究紹介演習・高等教育の現在、東大 FFP の概要と意義 「教員としての 1 分間研究紹介」の実践を行います。また、その参観と相互評価を通して、受講者相互の連携を高め、学ぶ環境を整えます。 高等教育の変化について学び大学のおかれている状況を理解し、東京大学フューチャーファカルティプログラムの概要と意義を確認します。 演習:1 分間研究紹介と相互評価 DAY2 10/22 クラスデザイン 授業設計の基礎を学びつつ、構成の指針や観点も踏まえて、自身が設定した授業科目の1コマを設計について学びます。 学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについて理解します。学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブラーニングの複数の手法について体験を通して学びます。 演習:アクティブラーニングの方法体験、6 分間クラスデザインシートの作成 DAY3 11/5 評価 授業における評価の方法や意義について理解します。学生の学びを促し、レポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します。 演習:ルーブリックによる採点とルーブリックの作成 DAY4 11/19 コースデザイン (シラバス) シラバスの基本的構成を知り、作成の目的と役割の重要性について理解します。自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します。また、特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます。演習:シラバス改善、グラフィックシラバス作成 DAY5 12/3 授業改善とふりかえり 模擬授業の事例の授業改善を中心にしつつ学生参加をうながすようなファシリテーションについて学びます。 これまでの授業全体を通した振り返りを行い、学んだこと等についてポスターツアーを経験しながら共有します。 演習:模擬授業検討会、ポスターツアー DAY6 12/17 模擬授業 ～実施(1)と改善～ 4 グループにわかれ、模擬授業の演習を行います。メンバー同士で議論を重ねつつ、授業デザインや教授方法について学びを深めながら、模擬授業の改善をはかります。 演習:模擬授業実施と相互評価 DAY7 1/7 模擬授業 ～実施(2)～ 2 グループにわかれ、2回めの模擬授業を実施し相互評価を行います。 演習:模擬授業実施と相互評価 DAY8 1/14 SAP チャート作成によるキャリアパス展望 自分の教育・研究、その他の活動についてふりかえって俯瞰し、その活動の核を見出します。大学教員としてのキャリアパスを展望します。 演習:SAP チャート作成</p>

授 業 の 方 法	今期は全てオンラインで実施します。本授業では、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、積極的な授業参加が求められる授業です。これらは、全てオンライン形式で実施します。携帯電話のみでは受講できません。PC での受講が必須となります。また、実践を重視するため、実際に授業のデザインやシラバス作成、模擬授業の設計・実施などの課題への取り組みを通して学びます。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況 25%課題の提出状況および質的評価 75%(内訳)100 点満点とした場合の各配点授業の参加状況 25 個人ワークへの取り組み 10 グループワークへの貢献 15 * 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真摯に取り組むグループワークや全体に貢献する姿勢を評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。 *ただし、模擬授業の回については、原則出席してください。2 回(DAY6, DAY7)とも欠席の場合は、修了条件である「欠席回数が 2 回以下」を満たしていても、修了とは認められません。課題の提出状況および質的評価 75 研究紹介の実施 6 シラバス・グラフィックシラバス 15 クラスデザイン 10 模擬授業 20 各回の振り返り 24(3*8 回)
教 科 書	教科書は特に定めません。配布資料によって授業を進めますので、2 穴のバインダ(厚み 3cm 程度)を用意して下さい。
履修上の注意・備考	9 月になるとエントリーフォームがオープンします。定員(25 名)がありますので選考を行います。単なる授業登録のみでは受講は認められません。エントリー締切は 10/3 23:59 の予定です。前提知識は特に必要としません。本学の正規大学院生は「大学教育開発論」として 2 単位が認められます。単位取得を希望する者は、各研究科にて受講登録を行ってください(単位取得を希望しない場合には受講登録は不要です)。
そ の 他	(受講ルール) -本授業は一日で 2 コマ連続の実施です。基本的に全ての回に出席してください。授業における学習者間の学びが重要と考えますので、4 コマ分(2 日間)を越えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とし、修了とはみなしません(原則登録曜日の受講としますが、やむを得ない場合異なる曜日開講の授業の振替受講が可能です)。なお、この例外として、DAY6, DAY7 いずれも欠席となる場合には、4 コマ分以内であっても修了とはみなしません(模擬授業の実施が大変重要であるためです)。-欠席の場合には授業日午前 10 時まで欠席

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-215-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	清河 幸子				
授業科目	教授・学習心理学基本研究				
講義題目	教授・学習過程の心理学 I Psychology of Learning and Instruction I				

授業の目標・概要	様々な心理学的現象がなぜ生じるのかについて、妥当かつシンプルな説明を示すことは研究を進めていく上で必須である。本科目では、各自の関心に合った英語論文を選定し、そこで示されている現象について、各自が説明を提示し、よりよい説明となるよう議論する。なお、現象は教授・学習もしくは認知心理学領域のものを歓迎するが、これに限定しない。
授業計画	心理学的現象に関する説明を考え、よりよい説明となるよう、参加者全員で討論を行う。
授業の方法	出題者は英語論文を選定し、説明の対象となる現象について簡単にまとめ、報告する。それを受けて、「その現象がどのようにして生じたのか」についての説明を参加者全員が考え、課題として提出する。授業時には「たたき台」となる説明を中心に、どのような説明が望ましいかを全員で議論する。なお、より具体的な進め方については、初回授業時に詳しく説明する。
成績評価方法	出題者としての発表、課題の提出、授業時の議論への参加によって総合的に評価する。
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	担当回数は受講者数に応じて決定する。課題は毎回出される。積極的な参加を期待する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	遠藤 利彦				
授業科目	発達心理学基本研究				
講義題目	感情と進化・文化 Evolutionary and Cultural Psychology of Human Emotions				

授業の目標・概要	私たちが日々、経験した表出する種々の感情は、私たち個々人の内的生活や心理・生理的適応において、また私たち個人と他者との関係性の構築や維持において、あるいはまた私たちを取り巻く社会・文化的風土(climate)の形成において、きわめて多様かつ不可欠の役割を果たしていると考えられる。この演習では、主に進化に由来する感情の基本的性質と、それと人間関係、集団、文化との関わりなどについて広く概観・整理したテキストを批判的に精読することを通して、私たちの日常の社会的な生活全般における感情の機能と意味について、進化論と文化論、両方の視座から深く統合的に考究することにした。
授業計画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授業の方法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、必要に応じて、教員が補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成績評価方法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。
教科書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-215-03	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	針生 悦子				
授業科目	発達心理学基本研究				
講義題目	ことばと認知の発達 I Language and Cognitive Development I				

授業の目標・概要	言語を獲得するとはどのようなことで、そのためには何が必要なのか。また、言語を獲得することで、思考や認知などはどのような影響を受けるのか。このような問題意識のもと、基本的な文献の購読を行う。
授業計画	この領域の基本文献をとりあげ、輪読する。
授業の方法	演習
成績評価方法	授業における発表、討論への参加、レポートによる。
教科書	初回授業時に指示する。
履修上の注意・備考	初回授業時に、発表の割り当て、スケジュールなどを決定するので、履修希望者は必ず初回授業には出席すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	岡田 猛				
授業科目	教育認知科学基本研究				
講義題目	創造的認知の心理学 I Psychology of Creative Cognition I				

授業の目標・概要	創造性、特に芸術表現活動についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。
授業計画	文献の講読今年度は、広い意味で創造性に関連する論文を読んで議論する。論文のリストは初回の授業で配布。
授業の方法	広い意味での創造性や芸術創作活動に関する文献を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当論文の発表が求められる。COVID-19 の問題のため、オンラインで授業をする。
成績評価方法	授業への出席と議論への参加、及び担当論文の発表。
教科書	特になし
履修上の注意・備考	毎回の出席
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-215-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	岡田 謙介				
授業科目	教育情報科学基本研究				
講義題目	心理統計学特論 Advanced Psychological Statistics				

授業の目標・概要	本科目では、現代テスト理論である項目反応理論がどのように活用されているかを知り、その地平を広げることを目指して、項目反応理論の応用に主眼を置いた成書である van der Linden (ed) (2018) Handbook of item response theory: volume three, applications. CRC Press の輪読を行う。受講者には、教科書を読み、内容を発表した上で討議を行うことが求められる。
授業計画	1. Item-Calibration Designs 2. Parameter Linking 3. Dimensionality Analysis 4. Differential Item Functioning 5. Calibrating Technology-Enhanced Items 6. Person Fit 7. Score Reporting and Interpretation 8. IRT Observed-Score Equating 9. Optimal Test Design 10. Adaptive Testing 11. Standard Setting 12. Test Speededness and Time Limits 13. Item and Test Security 14. Large-Scale Group-Score Assessments 15. Psychological Testing
授業の方法	演習(文献講読・議論・Rプログラミング)による
成績評価方法	発表内容および議論への参加などに基づいて総合的に評価する。
教科書	van der Linden (ed) (2018) Handbook of item response theory: volume three, applications. CRC Press ただし、受講者の要望や状況によっては別の教科書等を用いることもありうる
履修上の注意・備考	履修希望者は必ず初回授業に出席すること(事情により難しい場合には連絡すること)R 言語の利用経験があることが望ましい。発表には各自の PC を利用してもらう予定である。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-215-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	岡田 謙介				
授業科目	教育情報科学基本研究				
講義題目	心理統計学演習 Seminar on Psychological Statistics				

授業の目標・概要	本科目は、(必ずしも統計学を専門としない)心理学を専攻する大学院生を主たる対象として、量的な心理学研究を行う上で遭遇する疑問等に対して自ら解決する力を養うことを大きな目的として開講する。本年度は、とくに心理学における再現性の問題と、その問題が顕在化する中でのベイズ統計的アプローチへの注目を主題とし、これらに関わる先行研究の文献を探し、読み、共有しあった上で、方法論的な観点からの議論を行う。参加者には、心理学の方法論に関連する英語論文・文献を読み、発表し、議論することが求められる。
授業計画	初回において、再現性の問題とベイズ統計にまつわるイントロダクションを行い、文献の例を提示する。第2回以降は、各論文に対して発表者を割り当て、発表をしてもらった上で議論を行う。
授業の方法	演習形式による
成績評価方法	発表内容と議論への参加などを総合的に評価する
教科書	関連文献を適宜指示する
履修上の注意・備考	履修を考えている学生は初回に参加すること(事情により参加できない場合には連絡すること)。発表時などにはノートPCを持参できることが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	清河 幸子				
授業科目	教授・学習心理学特殊研究				
講義題目	教授・学習過程の心理学Ⅱ Psychology of Learning and Instruction Ⅱ				

授業の目標・概要	思考の言語化が学習・問題解決を中心とした認知活動に及ぼす影響を検討した心理学的知見や、実験を主とした研究方法について理解することを目標とする。
授業計画	思考の言語化が学習・問題解決を中心とした認知活動に及ぼす影響を検討した実証研究を毎回発表者が紹介し、そこで明らかになったこと、今後検討すべき課題は何か等について受講者全員で討論する。初回授業時により具体的な進め方について指示を行うので、履修予定の人は必ず出席すること。
授業の方法	毎回1名が発表者となり、思考の言語化が学習・問題解決を中心とした認知活動に及ぼす影響を検討した実証研究を紹介し、全員で討論を行う。
成績評価方法	発表および討論への参加により評価する。
教科書	指定しない。
履修上の注意・備考	積極的な参加を期待する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-08	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	遠藤 利彦				
授業科目	発達心理学特殊研究				
講義題目	関係性と子どもの社会情緒的発達 Relationships and Children's Socio-Emotional Development				

授業の目標・概要	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果を広く概観・整理したテキストを精読しながら、特に子どもの社会情緒的発達の様相、および、それらに養育環境、とりわけ種々の関係性(親子関係や家族関係など)や社会文化の特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて基本的知見を得る。また、早期段階における個人差が何に起因して生じ、また、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても、遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえつつ考究することとしたい。
授業計画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授業の方法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、教員が必要に応じて、補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成績評価方法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づき、総合的に評価を行う。
教科書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1~2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-09	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	針生悦子				
授業科目	発達心理学特殊研究				
講義題目	ことばと認知の発達Ⅱ Language and Cognitive Development Ⅱ				

授業の目標・概要	言語や認知、社会性、またそれらの発達をアツカフた研究論文の購読を通じて、最新の研究動向、研究手法などについて学ぶ。
授業計画	参加者が、論文を担当し、順次発表を行っていく。
授業の方法	演習形式
成績評価方法	授業における発表や、討論への貢献、レポート
教科書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回授業時に、担当の割り当てをするので、履修希望者は必ず初回の授業に参加すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-215-10	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	岡田 猛				
授業科目	教育認知科学特殊研究				
講義題目	創造的認知の心理学Ⅱ Psychology of Creative Cognition Ⅱ				

授業の目標・概要	S セメスターの「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、創造性や芸術創作活動に関する英文論文の講読を行う。S セメスターと同じ URL。(履修上の注意欄に記載)
授業計画	文献の講読
授業の方法	夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、同じ授業方法である。
成績評価方法	夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、同じ成績評価方法である。
教科書	特になし
履修上の注意・備考	オンラインでの実施。毎回の出席。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-215-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	宇佐美 慧				
授業科目	教育情報科学特殊研究				
講義題目	縦断データ分析 Longitudinal Data Analysis				

授業の目標・概要	縦断データ分析・縦断デザインに関する基礎的事項と近年の研究動向について幅広く学ぶ。
授業計画	担当教員による講義と、指定された英語論文の輪読を中心に進める。
授業の方法	講義と論文輪読
成績評価方法	出席状況、発表内容、また必要に応じて実施する試験の成績等を通して総合的に判断する。
教科書	宇佐美慧・荘島宏二郎 (2015). 発達心理学のための統計学—縦断データの分析— 誠信書房ただし、初回講義時に、その他参考文献を紹介する。
履修上の注意・備考	他学部履修を希望する者は事前に教員に連絡すること。
その他	特になし。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-12	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	前川 眞一				
授業科目	教育情報科学特殊研究				
講義題目	心理測定のための数学的道具 Mathematical Tools for Psychometrics				

授業の目標・概要	心理統計学 (psychometrics) の様々な手法を理解・開発するために必要となる数学的道具を学ぶ。
授業計画	2020 年度は主に行列演算は添え字演算の基礎と、それらを用いた回帰モデルに関して学んだが、今年度は、それらを発展させた内容を紹介する。具体的には心理統計学でよく用いられる確率分布とそれらを利用した母数の推定方法、ならびにテスト理論の基礎を中心的話題として紹介する。
授業の方法	講義形式と R を用いた演習並びに討論
成績評価方法	数回の課題と学期末のレポート
教科書	未定
履修上の注意・備考	以下の文書を一読しておいてほしい。(すべてを理解している必要はない。) http://mayekawa.in.coocan.jp/titech/docs/summation2.pdf http://mayekawa.in.coocan.jp/titech/docs/mat11.pdf また、昨年度の授業の概要は以下に掲示してある。(すべてを理解している必要はない。) 2020 年度の資料 http://mayekawa.in.coocan.jp/u-tokyo/index.html
その他	上記のサイトに載っている文書を適宜利用する可能性がある。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-13	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	加藤 健太郎				
授業科目	教育情報科学特殊研究				
講義題目	心理測定学特論 Advanced Topics in Psychometrics				

授業の目標・概要	心理測定学の基礎理論(因子分析モデル, 古典的テスト理論, 項目反応理論など)を, より高度なレベルで理解し, 研究・実践に活用できるようになることを目標とする。本講義では特に, 近年関心が高まっているベイズモデリングを意識し, ベイズ流心理測定学のテキストである Levy and Mislevy (2016)の ``Bayesian psychometric modeling``の輪読を行う。トピックそのものの理解に加えて, 英語の文献を読み込む, 自分が学んだことを他者にわかりやすく伝える, といったスキルの向上も目指す。
授業計画	1. ベイズ推測の基礎 2. マルコフ連鎖モンテカルロ法 3. 古典的テスト理論 4. 確認的因子分析 5. モデル評価 6. 項目反応理論 7. 欠測データモデリング 8. 潜在クラスモデル 9. ベイジアンネットワーク
授業の方法	全編 Zoom によるオンライン授業とする。最初の 3 回程度はテキストの第 5 章までの内容について講義を行う。以降は, 履修者が持ち回りで残りの各章の内容および関連するトピックについて報告し, ディスカッションを通じて理解の掘り下げや疑問点の解消を図る。各履修者は, 最低 1 回以上報告を担当する。
成績評価方法	平常点 100%(最低 1 つの章の報告を担当することを必須とする; 報告の内容や質, 質問や発言等を通じた授業への貢献を総合的に評価する)
教科書	Levy, R. & Mislevy, R. J. (2016). Bayesian psychometric modeling. Chapman & Hall/CRC.
履修上の注意・備考	心理測定学(特にテスト理論)および統計学(特に推測統計と多変量解析)の基礎知識を有すること。
その他	ITC-LMS の講義ページに Zoom 会議へのリンクを貼ります。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-215-14	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	清河 幸子				
授業科目	教授・学習心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学, 特に教授・学習, 認知の分野で修士論文を執筆する学生に対して, 研究指導を行う。
授業計画	修士論文の作成を念頭において, 大学院における研究について受講生が報告し, 参加者全員で討論を行う。
授業の方法	演習形式で行う。受講者は担当回に自らの研究の進捗状況について報告する。その報告に対して, 参加者全員で討論を行う。
成績評価方法	各自の研究の進捗状況および, 討論への参加状況を踏まえて, 総合的に評価する。
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	開講日時は, 受講者と相談の上, 決定する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-15	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	清河 幸子				
授業科目	教授・学習心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学, 特に教授・学習, 認知の分野で博士論文を執筆する学生に対して, 研究指導を行う。
授業計画	博士論文の作成を念頭において, 大学院における研究について受講生が報告し, 参加者全員で討論を行う。
授業の方法	演習形式で行う。受講者は担当回に自らの研究の進捗状況について報告する。その報告に対して, 参加者全員で討論を行う。
成績評価方法	各自の研究の進捗状況および, 討論への参加状況を踏まえて, 総合的に評価する。
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	開講日時は, 受講者と相談の上, 決定する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-16	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	植阪 友理				
授業科目	教授・学習心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学、特に、教授・学習分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授業計画	開講日時は、受講者と相談の上、決定する。基本的には文献購読や研究内容の発表等から構成される（昨年度は S セメスターには、「査読者になったつもりで批判的に論文を読むゼミ」を、A セメスターは「学会の講演者になるゼミ」を実施した）。植阪研究室の学生を基本とするが、教授・学習分野に関心がある学生については、それにとどまらず、参加を歓迎する。ゼミへの参加を希望する学生は、植阪 (yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp) にメールすること。初回は 2021 年 4 月 9 日(金曜日)の 2 限目にオンラインでガイダンスを行う。参加を希望する学生は原則として初回に参加すること。以下の zoom に入室されたい。 https://zoom.us/j/92321754359?pwd=T3VXSUhlTjhCM2VJUkpPM3g4MktJQT09 ミーティング ID: 923 2175 4359 パスコード: 461186
授業の方法	演習形式による。
成績評価方法	研究や発表等により、総合的に判断する。
教科書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	主体的に参加することを期待する。
その他	植阪研究室について:薬学部607に研究室がある。対面での面談の場合には、以下の道案内に従って訪問されたい。薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路口で右に曲がること。十字路口右手裏にあるエレベーターで6階に上がり、エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあける。扉からみて、左側の部屋607が研究室。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-17	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	植阪 友理				
授業科目	教授・学習心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学、特に、教授・学習分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授業計画	開講日時は、受講者と相談の上、決定する。基本的には文献購読や研究内容の発表等から構成される（昨年度は S セメスターには、「査読者になったつもりで批判的に論文を読むゼミ」を、A セメスターは「学会の講演者になるゼミ」を実施した）。植阪研究室の学生を基本とするが、教授・学習分野に関心がある学生については、それにとどまらず、参加を歓迎する。ゼミへの参加を希望する学生は、植阪 (yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp) にメールすること。初回は 2021 年 4 月 9 日(金曜日)の 2 限目にオンラインでガイダンスを行う。参加を希望する学生は原則として初回に参加すること。以下の zoom に入室されたい。 https://zoom.us/j/92321754359?pwd=T3VXSUhlTjhCM2VJUkpPM3g4MktJQT09 ミーティング ID: 923 2175 4359 パスコード: 461186
授業の方法	演習形式による。
成績評価方法	研究や発表等により、総合的に判断する。
教科書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	主体的に参加することを期待する。
その他	植阪研究室について:薬学部607に研究室がある。対面での面談の場合には、以下の道案内に従って訪問されたい。薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路口で右に曲がること。十字路口右手裏にあるエレベーターで6階に上がり、エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあける。扉からみて、左側の部屋607が研究室。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-18	単位数	2	学 期	通年
担当教員	遠藤 利彦				
授業科目	発達心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授業計画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授業の方法	基本的に演習形式で行う。
成績評価方法	平常点。
教科書	特に用いない。
履修上の注意・備考	基本的に、履修は指導学生に限る。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-19	単位数	2	学 期	通年
担当教員	遠藤 利彦				
授業科目	発達心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授業計画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授業の方法	基本的に演習形式で行う。
成績評価方法	平常点。
教科書	特に用いない。
履修上の注意・備考	基本的に、履修は指導学生に限る。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-20	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	針生 悦子				
授業科目	発達心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達の分野で修士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授業計画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 修士論文の作成をめざす。
授業の方法	演習形式。参加者は, 各自の研究の経過や見通しについて発表をおこない, それに対して, 討論・助言をおこなっていく。
成績評価方法	演習における発言や発表を総合的に評価する。
教科書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 授業にのぞむこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-21	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	針生 悦子				
授業科目	発達心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達の分野で博士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授業計画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 報告書(論文)を作成する。このようなプロセスの積み重ねにより, 博士論文の作成をめざす。
授業の方法	演習形式と個別指導。参加者各自の研究の経過や見通しにもとづき, 議論・助言をおこなっていく。
成績評価方法	研究の進め方やその成果を総合的に評価する。
教科書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 討論・指導にのぞむこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-22	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	野澤 祥子				
授業科目	発達心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授業計画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイデアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授業の方法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成績評価方法	総合的に判断する。
教科書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-23	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	野澤 祥子				
授業科目	発達心理学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授業計画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイデアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授業の方法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成績評価方法	総合的に判断する。
教科書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-24	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	岡田 猛				
授業科目	教育認知科学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授業計画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授業の方法	個別指導
成績評価方法	総合的に判断する。
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-25	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	岡田 猛				
授業科目	教育認知科学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授業計画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授業の方法	個別指導
成績評価方法	総合的に判断する。
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-26	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	岡田 謙介				
授業科目	教育情報科学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学の分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、とくに統計学的な観点から、研究指導および論文指導を行う。
授業計画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。
授業の方法	演習形式による。
成績評価方法	各個人の論文執筆過程における研究計画・進行状況、およびその成果を総合的に評価する。
教科書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-27	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	岡田 謙介				
授業科目	教育情報科学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学の分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、とくに統計学的な観点から、研究指導および論文指導を行う。
授業計画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。
授業の方法	演習形式による。
成績評価方法	各個人の論文執筆過程における研究計画・進行状況、およびその成果を総合的に評価する。
教科書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-28	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	宇佐美 慧				
授業科目	教育情報科学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授業計画	年間にわたり、随時行う。
授業の方法	研究指導、発表指導
成績評価方法	総合的に判断する
教科書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-29	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	宇佐美 慧				
授業科目	教育情報科学論文指導				
講義題目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授業の目標・概要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授業計画	年間にわたり、随時行う。
授業の方法	研究指導、発表指導
成績評価方法	総合的に判断する
教科書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-215-30	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	宇佐美 慧				
授業科目	教育情報科学特殊研究				
講義題目	心理統計学の近年の展開 Recent Developments in Psychometrics				

授業の目標・概要	Psychological Methods や Psychometrika, Annual Review of Psychology 等の海外誌を中心に論文輪読を行い、心理統計学の最新の研究動向について幅広く学ぶことを目指す。
授業計画	各回の論文の担当者は担当した論文の内容を要約し、受講者へ説明する。
授業の方法	論文輪読
成績評価方法	出席状況, 発表内容, 討論参加の程度によって総合的に判断する。
教科書	特に指定しないが, 参考文献を適宜教示する
履修上の注意・備考	心理統計学や量的研究法に関する最新の研究動向について積極的に学び, 自身の研究・実践に活かしたいと考えている方の受講を歓迎します。発表では, 粘り強く担当論文と向き合い, 自分の得た理解を他人に分かりやすく簡潔に説明する作業を重視します。心理統計学に関する学部程度の知識は前提として進めます。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-216-01	単位数	1	学期	S1S2
担当教員	能智 正博、野中 舞子				
授業科目	臨床心理システム論基本研究				
講義題目	臨床心理実習 I (心理実践実習 I) Practicum in Clinical Psychology I (Advanced Practical Training in Psychology I)				

授業の目標・概要	学内研究機関である心理教育相談室および学外の連携研修機関(精神科病院、クリニック、学校、産業組織など)において臨床業務に参加し、現場実習を行う。その経験の見直しを兼ねてカンファレンスにおいて事例検討を行う。形態として、受付事例を検討する初期カンファレンス、各ゼミで個別にカンファレンスを行う個別カンファレンス、各ゼミが合同して行う合同カンファレンスに分かれる。
授業計画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス 3.合同カンファレンス 4.臨床検討会 5.初期・実習カンファレンス 6.合同カンファレンス 7.臨床検討会 8.初期・実習カンファレンス 9.合同カンファレンス 10.臨床検討会 11.初期・実習カンファレンス 12.合同カンファレンス 13.臨床検討会
授業の方法	受講生は、S1、S2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上(心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上)行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授業を構成する
成績評価方法	実習に対する取組み、出席状況と授業における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する
教科書	特になし
履修上の注意・備考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-02	単位数	1	学期	A1A2
担当教員	能智 正博、野中 舞子				
授業科目	臨床心理システム論基本研究				
講義題目	臨床心理実習Ⅱ(心理実践実習Ⅱ) Practicum in Clinical Psychology Ⅱ(Advanced Practical Training in Psychology Ⅱ)				

授業の目標・概要	臨床心理実習Ⅰに引き続いて内部実習および外部実習を継続する。テーマ:臨床心理実習Ⅱでは、特に修士課程終了の活動への移行に向けての準備を行う。その点で、臨床現場で臨床心理士として活動するための社会性、倫理、他職種との協働などの知識と技能の獲得を主要な教育訓練の目標とする。
授業計画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス 3.合同カンファレンス 4.臨床検討会 5.初期・実習カンファレンス 6.合同カンファレンス 7.臨床検討会 8.初期・実習カンファレンス 9.合同カンファレンス 10.臨床検討会 11.初期・実習カンファレンス 12.合同カンファレンス 13.臨床検討会
授業の方法	学内臨床実習＋外部施設研修＋事例検討会受講生は、A1、A2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上(心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上)行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授
成績評価方法	実習に対する取り組み、出席状況における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する
教科書	特になし
履修上の注意・備考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	野中 舞子、下山 晴彦				
授業科目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講義題目	臨床心理学特論 I Clinical Psychology I				

授業の目標・概要	臨床心理学の初学者を対象に、臨床心理学の全体像と学習にあたっての心構えについて講義する。特に心理援助職を目指すための心構え、教育訓練過程で必要とされる最低限の知識と技能とは何か、倫理について、講義とディスカッションを通して学ぶことがねらいである
授業計画	§ 1-2: 臨床心理士になることの意味／動機を探る § 3-5: 臨床心理学の教育訓練の過程 § 6-7: 学習にあたっての心構え § 8-10: 学習に臨む姿勢／倫理について § 11-12: 専門性の見直しと発展 § 13: まとめ
授業の方法	レポーターによる発表と、グループディスカッションを中心に授業を進める。グループダイナミクスを取り入れることによって、グループワークのファシリテートについても体験的に学ぶことが出来る構成とする。
成績評価方法	毎回の振り返りレポートの提出とレポーターを努めること、授業の最後に提出する課題レポートによって総合的に評価する。
教科書	コーリー&コーリー(下山監訳)『心理援助の専門職になるために』金剛出版金沢吉展著, 臨床心理学の倫理を学ぶ, 東京大学出版会
履修上の注意・備考	レポーターを務めることは、これまであまり経験してこなかった一対一や一対他の人間関係の体験的学びになる。積極的に臨み、自分自身の傾向について考えてみて頂きたい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-04	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	高橋 美保				
授業科目	臨床心理システム論基本研究				
講義題目	臨床心理学特論Ⅱ Clinical Psychology Ⅱ				

授業の目標・概要	特論Ⅰにおける臨床心理学の専門性についての基本的な理解を前提に、特論Ⅱでは実際の臨床現場で様々な社会システムと関わっていく際に求められる実践的な態度、知識、技能について講義する。社会的場面で働く際に必要な専門性や集団をマネジメントする技法について、講義とワーク、ディスカッションを通して実践的に学ぶことをねらいとする。
授業計画	1. オリエンテーション 2. コミュニティにおける心理援助(1) 3. コミュニティにおける心理援助(2) 4. コミュニティにおける心理援助の実際(1) 5. コミュニティにおける心理援助の実際(2) 6. グループを通しての心理援助(1) 7. グループを通しての心理援助(2) 8. 家族を通しての心理援助(1) 9. 家族を通しての心理援助(2) 10. 人生の移行について理解する(1) 11. 人生の移行について理解する(2) 12. ストレスとバーンアウト(1) 13. ストレスとバーンアウト(2) 14. ストレスとバーンアウト(3) 15. 振り返り
授業の方法	テーマを選択し、テーマごとにグループで発表を担当する。毎回、発表とワーク、グループシェアリングを組みこむ。
成績評価方法	発表、毎回のレポートにより総合的に評価する。
教科書	「心理援助の専門職として働くために」 金剛出版 下山晴彦(監訳)
履修上の注意・備考	発表をグループで担当することからも、グループ単位でのチームワークや集団力動を直に体験して頂きたい。全体シェアリングにおいても積極的な参加を求めます。
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理面接特論Ⅱ Interview Methods for Clinical Psychology Ⅱ				

授業の目標・概要	近年、臨床心理学的な研究において質的研究の技法に近年ますます注目が集まっている。心理療法やカウンセリングなどの実践においても、面接結果をていねいに読み解いていくための手続きや技法は、質的な調査インタビューから学ぶところが大きい。この授業では、基本的なテキストの輪読をして質的なインタビュー調査の全体像を理解した後、各自が収集した語りデータを素材として分析法の実習を行う。手法としては比較的オーソドックスなカテゴリー分析を基本としながら他の方法にも目配りを行い、幅広く質的データの分析法を理解することを目標とする。
授 業 計 画	以下のようなトピックを扱う。・インタビューの諸理論・インタビュー法のバリエーション・インタビューの手順・ナラティブの分析の諸技法・初期コーディングの手続き・発展的コーディングの手続き
授 業 の 方 法	セメスターの前半では調査インタビューに関するテキストを素材にして、受講者は担当箇所の発表を行うとともに、ディスカッションのファシリテーターの役割を担う。並行して、授業外でインタビューを行ってデータを用意する。セメスターの後半では、分析をいくつかのステップに分けて学んでいくが、受講生が語りのテキストを提供し、それをエクササイズの材料として用いながら分析の手続きを学んでいく。収集したテキストの分析は各自進めていき、最終的に、分析結果をもとにしたレポートを執筆する。
成績評価方法	出席と授業への参加:50% レポート:50%
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。
そ の 他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-06	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	滝沢 龍、下山 晴彦				
授業科目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講義題目	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) Seminar on Assessment of Clinical Psychology I (Theory and Practice of Psychological Assessment)				

授業の目標・概要	<全体テーマ>公認心理師の実践における心理的アセスメント、及び精神医学的診断の理論と実践の意義、およびその方法を解説し、実践場面における相談、助言、指導にどう応用していくかを、実例も交えながら検討していく。テーマ:アセスメント及び診断の基礎知識と方法の解説 * 臨床活動におけるアセスメントの役割 * 精神障害の分類 * 異常心理学及び精神医学 * DSMの解説と活用法 * 見立ての形成:機能分析とケースフォーミュレーション * 初回面接
授業計画	1. 臨床心理学と精神医学概説12. 臨床心理学と精神医学概説23. アセスメント・診断に関する文献購読と発表①4. 精神障害解説5. アセスメント・診断に関する文献購読と発表②6. 精神障害解説7. アセスメント・診断に関する文献購読と発表③8. 精神障害解説9. アセスメント・診断に関する文献購読と発表④10. 精神障害解説 11. アセスメント・診断に関する文献購読と発表⑤12. 精神障害解説 13. アセスメント・診断に関する文献購読と発表⑥14. 精神障害解説 15・総括
授業の方法	1)臨床心理アセスメント及び精神医学に関する文献購読と発表2)ビデオ等を活用した精神障害の解説3)各障害についての研究成果の発表
成績評価方法	平常点(80%):リアクションペーパー(主に出席点)と授業への参加状況などによって評価する。発表(20%):担当発表
教科書	『第2巻・臨床心理アセスメント』松田修・滝沢龍(編著)東京大学出版会(2021年発刊予定)
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	滝沢 龍、高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理査定演習Ⅱ Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅱ				

授業の目標・概要	<p>目標: 心理アセスメント—見立てをたてるということ—は、心理的な問題を理解するために不可欠である。アセスメントには、臨床心理面接におけるクライエントの話をもとに行う場合と、心理検査をもとに行う場合がある。本演習では後者の心理検査を用いたアセスメントに焦点化し、心理援助実践において使われる心理検査の概要を把握するとともに、それらを適切に実施し、アセスメントする能力を獲得することを目標とする。概要: はじめにアセスメント全体の概説を行い、次に、様々な心理検査についての概要の説明をした上で、受講者全員が互いに検査を実施しあい、検査結果を書き上げるという一連のワークを行う。本演習では、検査者としての検査スキル、アセスメント能力の向上を図るとともに、検査をされる側の体験をすることも重視している。</p>
授 業 計 画	<p>1. ガイダンス・医療領域における検査(滝沢)2. 様々な面接・質問紙検査1(滝沢)3. 様々な面接・質問紙検査2(滝沢)4. 神経心理検査(滝沢)5. 投映法(高橋)6. 質問紙法(高橋)7. 知能検査(高橋)8. 総合所見(高橋)9. ロールシャッハ・テスト1(中村)10. ロールシャッハ・テスト2(中村)11. ロールシャッハ・テスト3(中村)12. ロールシャッハ・テスト4(中村)13. 治療的アセスメント(高橋)</p>
授 業 の 方 法	講義と実習をおこなう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(出席と課題発表)などによって評価する。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
そ の 他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-08	単位数	1	学期	S1S2
担当教員	高橋 美保、野中 舞子、下山 晴彦				
授業科目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講義題目	臨床心理基礎実習 I Basic Practicum in Clinical Psychology I				

授業の目標・概要	<全体テーマ>臨床心理活動の基礎となる実践技能を解説し、その上でシミュレーション学習を通して技能を習得する。現場で実践活動を行うための最低限の技能を習得することが目的となる。テーマ:臨床面接法の基礎理論と技能実習 * 臨床面接法とは * 臨床面接法の基礎理論と技能 * 共感的面接技能の基礎訓練 * ロールプレイ実習1とグループ討議 * 查定的面接技能の基礎理論と技能 * ロールプレイ実習2とグループ討議 テキスト:「心理臨床の基礎1:心理臨床の発想と実践」岩波書店 下山晴彦(著)
授業計画	§ 1~2:レクチャー「臨床面接法とは」§ 3~9:共感を用いた臨床面接のロールプレイとその振り返り § 10~14:アセスメント面接のロールプレイとその振り返り § 15:質疑応答
授業の方法	講義とロールプレイの実施及びテープ起こしデータを用いた小グループでの話し合いという形態で授業を進める
成績評価方法	出席状況と授業へのアクティブな参加状況、学期末およびセッションの区切りで課すレポートとで総合的に判断する
教科書	「臨床心理学をまなぶ1 これからの臨床心理学」東京大学出版会 下山晴彦(著)「臨床心理学をまなぶ2 実践の基本」東京大学出版会 下山晴彦(著)
履修上の注意・備考	ロールプレイとその振り返りを用いての体験学習であるので、積極的なコミットメントを期待したい【重要】 コロナウィルス対応のため、授業開始を4月第2週からとし、時間も2限とする。したがって、第1回の授業は、4月10日金曜日の2限(10時25分~)に、オンライン授業を基本として開始する。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時間割コード	23-216-09	単 位 数	1	学 期	S1S2
担当教員	高橋 美保、能智 正博				
授業科目	発達臨床心理学基本研究				
講義題目	臨床心理基礎実習Ⅱ Basic Practicum in Clinical Psychology Ⅱ				

授業の目標・概要	対人援助の基礎を学ぶとともに、心理職としての専門性や職業的キャリア発達を理解することによって、専門職としてのあり方を学ぶ。また、心理的支援が社会的活動であることを学ぶために、心理職である前に組織人として活動する際の自覚を持ち、チームワークや協働について理解を深める。さらに、遊戯療法の理論を理解した上で、児童臨床現場で役立つ様々なアプローチの理論と実践について、事例や体験を通して包括的に学ぶ。
授業計画	第1回:ガイダンス第2回:対人援助の基礎第3回:対人援助の基礎 第4回:心理職として仕事をするということ第5回:心理職として生きるということ第6回:組織としての相談機関 第7回:組織としての相談機関 第8回:描画療法第9回:箱庭療法 第10回:箱庭療法第11回:遊戯療法の基礎第12回:遊戯療法の理論第13回:遊戯療法の実践
授業の方法	概説とディスカッションを中心とする。ただし、内容によっては、ロールプレイやワークなども交える。
成績評価方法	授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時間割コード	23-216-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	高橋 美保				
授業科目	発達臨床心理学基本研究				
講義題目	臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) Interview Methods for Clinical Psychology I (Theory and Practice of Psychological Support)				

授業の目標・概要	目標:心理面接の基礎と、ケース運営の一連の流れを理解するとともに、様々な心理療法や臨床実践における多様な関わりを学び、臨床実践力を高めることを目的とする。概要:実際のケース運営と心理実践の様々な技法のポイントについて理解を深める。具体的には心理相談が、どのように始まりどのような経過を経て終わって行くのかについて、一連の流れを理解する。さらに、様々な心理療法の理論や技法を習得することに加え、臨床実践における多様な関わりを理解し、臨床実践を行うための基礎を習得する。
授業計画	第1回:試行カウンセリング振り返り第2回:ケースフォーミュレーション第3回:ケースマネジメント第4回:適切な支援方法の選択・調整第5回:来談者中心療法第6回:力動的な心理療法第7回:行動論、認知論に基づく心理療法第8回:家族療法第9回:保護者面接・並行面接第10回:チームワークと連携第11回:心理教育第12回:コンサルテーション第13回:研修
授業の方法	各テーマについての概説とディスカッションを行う。テーマによってはワーク、ロールプレイを行う。
成績評価方法	授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-11	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	能智 正博、滝沢 龍				
授業科目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講義題目	臨床心理学研究法 Research Methods in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理学的な対人援助技法には、効果がありそれが持続すること、副作用や害がないことについて、良質なエビデンスが存在することが望ましい。場合によってはどのような形でエビデンスを取り出せばよいか、新たな仮説を生成していくことも必要になる。本授業では、臨床心理学的な研究を行うための知識と技能を身につけるため、量的研究・質的研究両者の基礎を学ぶ。
授業計画	1. ガイダンス(能智・滝沢)2. 臨床心理学と研究活動(能智)3. 質的研究の哲学的基礎(能智)4. 質的研究のデザイン(能智)5. 研究技法(1)(能智)6. 研究技法(2)(能智)7. 研究技法(3)(能智)8. 量的研究のデザイン(滝沢)9. 記述研究／偶然・バイアス・交絡(滝沢)10. ケースコントロール研究(滝沢)11. コホート研究(滝沢)12. ランダム化比較試験(滝沢)13. スクリーニング／メタアナリシス
授業の方法	ゼミ形式で行う。
成績評価方法	平常点
教科書	Hennekens, C.H. & Buring, J.F. (1987) Epidemiology n Medicine. LW&W.Hulley ら (2014). 医学的研究のデザイン 第4版 メディカル・サイエンス・インターナショナル
履修上の注意・備考	積極的に発言してほしい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-216-12	単位数	2	学期	S1S2
担当教員	能智 正博				
授業科目	発達臨床心理学特殊研究				
講義題目	メンタルヘルスマネジメント基礎(福祉分野に関する理論と支援の展開) Mental Health Management Basic (Support Theory and Applications in Social Welfare Area)				

授業の目標・概要	本授業では、福祉分野の支援で求められる知識やスキルの習得を目指す。具体的には、地域における福祉分野の臨床心理学的支援の実際について、障害者福祉分野の具体例を提示する。また、障害者福祉に焦点をあて、問題発見のための研究を読み、現在現場で課題となっていることが何か検討する。
授業計画	1.イントロダクション 2.福祉分野の諸問題(1)3.福祉分野の諸問題(2)4.福祉分野の諸問題(3)5.障害者支援の研究(1)6.障害者支援の研究(2)7.障害者支援の研究(3)8.障害学(1)9.障害学(2)10.障害学(3)11.心理師の実践(1)12.心理師の実践(2)13.まとめ
授業の方法	グループによる発表とディスカッションにより構成される。何度か福祉分野のゲストスピーカーの講義を聴く機会を設ける。
成績評価方法	授業参加とレポートによる総合評価
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可(GCL は可)
本学他研究科学生	履修 不可(GCL は可)
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	野中 舞子				
授業科目	発達臨床心理学特殊研究				
講義題目	メンタルヘルスマネジメント応用(教育分野に関する理論と支援の展開) Mental Health Management Applied (Support Theory and Applications in Educational Area)				

授業の目標・概要	本講義は教育分野に関する理論について、エビデンス・ベースド・プラクティスの観点から体系的に学ぶことを目的とする。具体的には、教育分野でしばしば遭遇する臨床心理学的問題について、最新の研究について学ぶだけでなく、そうした問題についての事例検討を通して実践場面での対応について学んでいく。受講者にはただ講義を聴くだけでなく、自らが教育分野で生じた問題を解決することに寄与できるように主体的な参加が求められる。
授業計画	第1回目:イントロダクション第2回目:教育分野での援助の概要第3回目~7回目:文献発表第8~12回目:事例検討第13回:まとめ
授業の方法	履修者は指定された論文または著書を読み、その内容について発表することが求められる。講師による講義を通じたディスカッションも行う。
成績評価方法	出席・講義への参加態度・レポート
教科書	特になし
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ履修可能
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可(GCL は可)
本学他研究科学生	履修 不可(GCL は可)
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-14	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	久田 満				
授業科目	臨床心理システム論特殊研究				
講義題目	コミュニティアプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) Community Approach (Support Theory and Practice for Family, Group, and Community)				

授業の目標・概要	1.心理学の世界でのコミュニティ心理学の位置づけが理解できる。2.コミュニティアプローチの重要性を概説できる。3.将来、心理専門職として働く際、コミュニティアプローチに基づく介入計画を描くことができる。
授業計画	1.オリエンテーション:この授業の概要、受講上の注意事項、評価方法などについて説明する。なお、以下は予定であり、授業計画(スケジュール)の進捗状況によっては、テーマの回数や内容の一部が変更されることがある。
授業の方法	2.精神の障害とは何か:医療モデルと社会モデルの違いを解説する。
成績評価方法	授業への積極的参加(50%)と課題レポート(50%)
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	日頃から、社会の出来事に関心を持ち、書籍、テレビ番組、インターネット、新聞等で情報収集に努めること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-15	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	滝沢 龍				
授業科目	発達臨床心理学特殊研究				
講義題目	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開) Psychiatry (Support Theory and Applications in Medical and Health Area)				

授業の目標・概要	臨床心理学の分野に役立つ精神医学・メンタルヘルスの診断・治療・対処法について講義する。DSM 診断に沿って精神医学各論を実践的な診断・治療・予防に役立つ知識を身につけることを目標とする。
授業計画	授業計画(初回ガイダンスで詳細の日程を配布する)1. ガイダンス／治療の要点(第20章)2. 神経発達症群(第1章)3. 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群(第2章)4. 双極性障害および関連障害群(第3章)5. 抑うつ障害群(第4章)6. 不安症群(第5章)／身体症状および関連症群(第9章)7. 心的外傷およびストレス因関連障害群(第7章)／解離症群(第8章)8. 強迫症および関連症群(第6章)／食行動障害および摂食障害群(第10章)9. 睡眠-覚醒障害群(第12章)10. 秩序破壊的・衝動制御・素行症群(第15章)11. パーソナリティ障害群(第18章)12. 神経認知障害群(第17章)／身体疾患に伴う精神障害(症状精神病)13. 薬物療法(1)14. 薬物療法(2)15. まとめ・小テスト
授業の方法	毎回おおむね、・発表・講義(60分)、・質疑応答(30分:講義開始時に前回分15分、講義終了後に今回分15分)、・リアクションペーパー記入(15分)、で構成される。初回ガイダンス参加者の希望にて、講義の各論の内容・順番を調整することがある。
成績評価方法	平常点(60%):リアクションペーパー(主に出席点)と授業への参加状況などによって評価する。発表(20%):担当が各章の要点を発表最終講義時に小テスト(20%)を行い、理解度を評価する。
教科書	「精神疾患・メンタルヘルスガイドブック —DSM-5 から生活指針まで—」(著)American Psychiatric Association、(訳)滝沢龍。(2016)医学書院その他、適宜プリントを配布する。
履修上の注意・備考	授業内容は、各論や事例が中心となるので、精神医学・異常心理学・臨床心理学の分野での基本的な知識(症状学[精神症状の種類など]・診断学[面接法・査定法など])を学んだことがあることが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-216-16	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	田中 究				
授業科目	発達臨床心理学特殊研究				
講義題目	心理療法特論:スーパービジョン I Clinical Supervision I				

授業の目標・概要	臨床心理学コースで担当しているケースのスーパーヴィジョンを行う。知識を得ることとそれを用いることの間には隔りがある。スーパーヴィジョンはその隔絶を埋めるものである。スーパーヴィジョンでは、来談者やその関係者についての理解とともに、支援者自身の思考や感情、あるいはパーソナリティや行動様式を把握することが求められる。どのような意図のもと、どのような関わりがなされ、何が引き起こされたのか、その結果どのような流れが形成されているのか、支援を言語化し秩序立てることではじめて、実践は臨床経験となり積み上げが可能になる。本授業ではスーパーヴィジョンの実際を通じて、支援者としての主体を形成する上での基礎を学ぶ。
授業計画	1. イントロダクション 2. 支援者の志向性を保留すること 3. 意味の語用論的理解 4. 支援者と来談者の相互作用 5. 支援者の非言語メッセージ 6. 来談者のニーズ 7. 来談者の動機づけ 8. 来談者の未来イメージ 9. 支援者の理解と支援の実際の相互連関 10. 援助構造による規定 11. 個別事例理解の深化、抽象化、一般化 12. 現在的未來のシミュレート、過去の未來の探索 13. まとめ
授業の方法	基本的に履修者と個別に行う。
成績評価方法	スーパーヴィジョンの準備(50%)と参加態度(50%)によって総合的に評価する。
教科書	なし。
履修上の注意・備考	スーパーヴィジョンの具体的な進め方については、ケースの個別状況によって履修者と協議の上決定する。履修にあたって指導教員の承認を得ること。また、スーパーヴィジョンを有意義な取り組みとするためには、単発ではなく継続的に取り組むことが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-17	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	田中 究				
授業科目	発達臨床心理学特殊研究				
講義題目	心理療法特論:スーパービジョンⅡ Clinical Supervision Ⅱ				

授業の目標・概要	家族療法の「家族」とは、家族そのものを意味するのと同時に、コンテキストの象徴でもある。家族に限らず関係者とのコミュニケーションをセットでとらえる、すなわちシステムの一部としてとらえる視点を携える支援が、家族療法である。臨床実践における支援者は外部観察者に留まることはできない。そのため、支援者自身もシステムの一部として把握する視点が不可欠となる。さらに、支援者は支援システムを形成し来談者や家族と協力関係を結ばなければ、支援を始めることすらままならないのは言うまでもない。本科目では、システムという視点を活用した心理臨床実践に向けて、その基礎を学ぶ。
授業計画	1. イントロダクション 2. 良循環の拡大と悪循環の減少 3. フレーム 4. パンクチュエーション 5. ジョイニング 6. リフレーミング 7. 円環性 8. コミュニケーション公理 9. パターン 10. サイバネティクス 11. システム論 12. (社会)構成主義 13. まとめ
授業の方法	可能な範囲でワークやロールプレイを交えながら実施する。
成績評価方法	授業への参加の程度(50%)とレポート(50%)によって総合的に評価する。
教科書	田中究著『臨床コラボレーション入門ーシステムズアプローチ、ナラティブ・セラピー、ブリーフセラピーの基礎』(遠見書房、印刷中)
履修上の注意・備考	履修上の注意点等について伝えるので、初回時には必ず出席すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-18	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	林 潤一郎				
授業科目	発達臨床心理学特殊研究				
講義題目	心理療法特論:スーパービジョンⅢ Clinical Supervision Ⅲ				

授業の目標・概要	臨床心理学コースの学生が担当しているケースについて、スーパービジョンを行う。スーパービジョンを通して、これまで学んできた心理療法や支援にまつわる様々な知識や代表的スキルを、個々のクライアントの個別性に則した形で実践的に活用できるようになることを目的とする。具体的には、クライアントの個別的状况や特徴(有する困難や障がい含む)やニーズを把握しながら支援を展開するスキルを一層高めていくとともに、支援者としての自分自身の効果的な活かし方を模索できる場ともなるよう、各自が担当している事例(面接経過)を題材に指導(検討・質疑・作戦会議)をすすめる予定である。
授業計画	1. イントロダクション2. コミュニケーションについて(1)3. コミュニケーションについて(2)4. コミュニケーションについて(3)5. クライアントとの関係について(1)6. クライアントとの関係について(2)7. クライアントとの関係について(3)8. アセスメントについて(1)9. アセスメントについて(2)10. アセスメントについて(3)11. ケース・マネジメントについて(1)12. ケース・マネジメントについて(2)13. 振り返りとまとめ
授業の方法	ケースの担当者ごとに個別に行う形式を基本とする。
成績評価方法	スーパービジョンを受けるための準備(70%)と、受けた後のケースでの展開およびそこから学んだこと(30%)をもとに総合的に評価する。
教科書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	事例検討のすすめ方は履修者一人ひとりと相談して決定する。また、指導教員の承諾を得た上で受講することが望ましい。なお、ケースの展開を考え、計画的に発表を行うこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-19	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	林潤一郎				
授業科目	発達臨床心理学特殊研究				
講義題目	心理療法特論:スーパービジョンⅣ Clinical Supervision Ⅳ				

授業の目標・概要	臨床心理学コースの学生が担当しているケースについて、スーパービジョンを行う。スーパービジョンを通して、これまで学んできた心理療法や支援にまつわる様々な知識や代表的スキルを、個々のクライアントの個別性に則した形で実践的に活用できるようになることを目的とする。具体的には、クライアントの個別の状況や特徴(有する困難や障がい含む)やニーズを把握しながら支援を展開するスキルを一層高めていくとともに、支援者としての自分自身の効果的な活かし方を模索できる場ともなるよう、各自が担当している事例(面接経過)を題材に指導(検討・質疑・作戦会議)をすすめる予定である。
授業計画	1. イントロダクション2. 技法について(1)3. 技法について(2)4. 介入について(1)5. 介入について(2)6. 効果の検証について(1)7. 効果の検証について(2)8. 各種心理障害への対応について(1)9. 各種心理障害への対応について(2)10. 心理療法の統合的実践について(1)11. 心理療法の統合的実践について(2)12. 心理療法の統合的実践について(3)13. 振り返りとまとめ
授業の方法	ケースの担当者ごとに個別に行う形式を基本とする。
成績評価方法	スーパービジョンを受けるための準備(70%)と、受けた後のケースでの展開およびそこから学んだこと(30%)をもとに総合的に評価する。
教科書	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	事例検討のすすめ方は履修者一人ひとりと相談して決定する。また、指導教員の承諾を得た上で受講することが望ましい。なお、ケースの展開を考え、計画的に発表を行うこと。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-20	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	障害学演習 Seminar in Disability Studies				

授業の目標・概要	「障害学」は、障害児・者を単に医療や福祉、特殊教育の対象としてのみとらえるのではなく、「障害」という切り口をとおして、人間の営みや社会のあり方を問い直すことをめざす学問・研究領域である。
授 業 計 画	1:障害＝ 障害者、障害の定義2:障害学＝ デイサビリティ・スタディーズ、障害学の国内外の研究・実践動向3:バリアフリーとユニバーサル・デザイン＝ バリアフリーとユニバーサル・デザインの概念と実践、両概念の関係と実践をめぐる状況4:平等(論)＝ 障害をめぐる平等、現代政治・経済と平等論の関係5:能力主義(メリトクラシー＝ 「能力」をどう把握するか、「能力」と価値の序列)6:障害者権利条約(差別禁止法)＝ 障害者権利条約、(障害者)差別禁止法7:障害者自立支援法と総合福祉法＝ わが国における障害者施策の変遷、今後の展望8:盲ろう者(視覚・聴覚重複障害者)＝ 「盲ろう」(deafblindness)、盲ろう者の実状9:ヘレン・ケラー＝ 盲ろう者としてのヘレン・ケラーの障害と生涯、アニー・サリヴァン10:「盲ろう」という障害がもたらす困難＝ コミュニケーションと情報の入手、移動11:「盲ろう」の状態を通して考えるコミュニケーション＝ 「感覚」遮断と人間への影響、コミュニケーションは人にとってどういう意味を持つか12:人間にとっての言語・コミュニケーション＝ 人にとってのコミュニケーションの意味、知的発達と感情的成長との関係13:コミュニケーションを支える感覚情報＝ コミュニケーションを支える非言語的情報、非言語的情報はどれほどコミュニケーションに貢献しているか? 14:コミュニケーションにおける感覚・言語的・文脈＝ 「文脈」とは何か、「感覚・言語的文脈」とコミュニケーション15:「苦悩」の意味と「生」の意味＝ 「苦悩」とは何か、我々の「生」を支えるものは何か。
授 業 の 方 法	本演習では、障害学関連の参考文献を参照しつつ、参加メンバー相互のディスカッションをとおして、「障害」をとりまく現代日本の状況について考察を深める。
成績評価方法	平常点
教 科 書	* 以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)『障害学』杉野昭博、東京大学出版会(2007)『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクル、みすず書房(2002)『障害者自立支援法違憲訴訟』生活書院(2011)
履修上の注意・備考	なし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-216-21	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	高橋 美保				
授業科目	臨床心理システム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理システム論の分野で修士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授業計画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授業の方法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-22	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	高橋 美保				
授業科目	臨床心理システム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理システム論の分野で博士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授業計画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授業の方法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-23	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	原田 隆之				
授業科目	臨床心理システム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学学研究指導
授業計画	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学の応用について研究課題を設定し、研究・討議する。
授業の方法	研究・論文指導
成績評価方法	達成評価
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	履修に当たっては事前に打ち合わせのこと
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-24	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	原田 隆之				
授業科目	臨床心理システム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学学研究指導
授業計画	犯罪・司法領域および精神保健領域における臨床心理学の応用について研究課題を設定し、研究・討議する。
授業の方法	研究・論文指導
成績評価方法	達成評価
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	履修に当たっては事前に打ち合わせのこと
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-25	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	能智 正博				
授業科目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて修士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授業計画	受講生はセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授業の方法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成績評価方法	平常点。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-26	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	能智 正博				
授業科目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて博士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授業計画	受講生はセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授業の方法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成績評価方法	平常点。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-27	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	滝沢 龍				
授業科目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験(貧困・虐待・いじめ等)、心理的苦痛(抑うつ／不安)、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質(QOL)、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー(生物学的指標)、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ(もしくは質的なアプローチとの組み合わせ)に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授業計画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授業の方法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成績評価方法	平常点(100%):授業への参加状況(出席と課題)やリーダーシップなどによって評価する。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの修士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-28	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	滝沢 龍				
授業科目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験(貧困・虐待・いじめ等)、心理的苦痛(抑うつ／不安)、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質(QOL)、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー(生物学的指標)、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ(もしくは質的なアプローチとの組み合わせ)に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授業計画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授業の方法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成績評価方法	平常点(100%):授業への参加状況(出席と課題)やリーダーシップなどによって評価する。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの博士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-29	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	野中 舞子				
授業科目	発達臨床心理学論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	発達臨床心理学分野で修士論文を書こうとしている学生のための研究指導及び論文指導を行う。
授業計画	受講者は年に2回設定された研究発表の機会において、研究の構想や進捗状況について発表をする。発表者は他の受講者や教員を交えてディスカッションを行う。その発表機会と合わせて、以下の指導を行う。①先行研究のレビュー、②研究計画の立案、③データの収集、④データの分析、⑤論文執筆指導、⑥プレゼンテーションの練習。
授業の方法	個別指導及び集団指導
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ履修可能
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-30	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	野中 舞子				
授業科目	発達臨床心理学論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	発達臨床心理学分野で博士論文を書こうとしている学生のための研究指導及び論文指導を行う。
授業計画	受講者は年に2回設定された研究発表の機会において、研究の構想や進捗状況について発表をする。発表者は他の受講者や教員を交えてディスカッションを行う。その発表機会と合わせて、以下の指導を行う。①先行研究のレビュー、②研究計画の立案、③データの収集、④データの分析、⑤論文執筆指導、⑥プレゼンテーションの練習。
授業の方法	個別指導及び集団指導
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ履修可能です
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-31	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	下山 晴彦、星加 良司				
授業科目	発達臨床心理学論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理カリキュラム論の分野で修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導、論文指導をする。
授業計画	1. ブレインストーミング2. プレインストーミング3. ブレインストーミング4. 先行研究レビュー5. 先行研究レビュー6. 先行研究レビュー7. 先行研究レビュー9. 構想発表 10. 構想発表 11. 構想発表 12. 構想発表 13. 論文中間発表 14. 論文中間発表 15. 論文中間発表
授業の方法	個別指導と小集団討論
成績評価方法	発表内容による評価
教科書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	主体的な研究態度を重視する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-32	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	下山 晴彦、星加 良司				
授業科目	発達臨床心理学論文指導				
講義題目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	臨床心理カリキュラム論の分野で修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導、論文指導をする。
授業計画	1. ブレインストーミング2. ブレインストーミング3. ブレインストーミング4. 先行研究レビュー5. 先行研究レビュー6. 先行研究レビュー7. 先行研究レビュー9. 構想発表 10. 構想発表 11. 構想発表 12. 構想発表 13. 論文中間発表 14. 論文中間発表 15. 論文中間発表
授業の方法	個別指導と小集団討論
成績評価方法	発表内容による評価
教科書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	段階的な論文執筆を重視する
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-33	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	福島 智				
授業科目	発達臨床心理学論文指導				
講義題目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授業の目標・概要	発達障害(DSM-5では神経発達症群)の特性から生じる心理的問題を理解し、それに対する支援方法について考えていく。具体的には、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD), 注意欠如多動症(Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder: AD/HD), 限局性学習症(Specific Learning Disorder : SLD)などの特徴に関して、その原因が脳機能障害にあることを念頭におき、生物学的要因, 認知的要因を解説することで、行動や心理の理解をすすめたい。更に、発達障害から生じやすい心理的な問題を理解し、適切な本人への支援や家族支援を考えていく。
授業計画	1.発達障害の種類と概要 2. ASD の特徴と認知仮説 3. ADHD の特徴と成長による症状の変化,薬物療法 4. SLD と他の発達障害の特徴 5. アセスメント1 : SLD と ADHD 6. アセスメント2 : ASD のスクリーニング 7. アセスメント3 : ASD の診断・評価 8. アセスメント4 : 発達障害に関連する評価(適応行動,感覚) 9. 発達障害への支援の概要 10. ASD への支援1 : TEACCH 11. ASD への支援2 : 応用行動分析 12. ASD への支援3 : 認知行動療法 13. ASD への支援4 : 家族への支援
授業の方法	講義形式:発達障害について,最新の診断・アセスメント・支援方法について講義する。画像や事例などを通して特徴をとらえられるようにしていく。また具体的にアセスメントや支援方法を学べるようにする。受講者は,一方的に講義を聴くのではなく,問題意識をもって積極的に参加して欲しい。
成績評価方法	学期末にレポート試験を行う。これに加え,毎回の授業に対する取り組みを考慮して総合的に評価する(割合はレポート70%,平常点30%とする)。
教科書	教科書は使用しない。資料を配布する。
履修上の注意・備考	積極的にディスカッションに加わる姿勢を大切にすること
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-216-34	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	福島 智				
授業科目	発達臨床心理学論文指導				
講義題目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授業の目標・概要	発達障害(DSM-5では神経発達症群)の特性から生じる心理的問題を理解し、それに対する支援方法について考えていく。具体的には、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD), 注意欠如多動症(Attention-Deficit/ Hyperactivity Disorder: AD/HD), 限局性学習症(Specific Learning Disorder : SLD)などの特徴に関して、その原因が脳機能障害にあることを念頭におき、生物学的要因, 認知的要因を解説することで、行動や心理の理解をすすめたい。更に、発達障害から生じやすい心理的な問題を理解し、適切な本人への支援や家族支援を考えていく。
授業計画	1.発達障害の種類と概要 2. ASD の特徴と認知仮説 3. ADHD の特徴と成長による症状の変化,薬物療法 4. SLD と他の発達障害の特徴 5. アセスメント1 : SLD と ADHD 6. アセスメント2 : ASD のスクリーニング 7. アセスメント3 : ASD の診断・評価 8. アセスメント4 : 発達障害に関連する評価(適応行動,感覚) 9. 発達障害への支援の概要 10. ASD への支援1 : TEACCH 11. ASD への支援2 : 応用行動分析 12. ASD への支援3 : 認知行動療法 13. ASD への支援4 : 家族への支援
授業の方法	講義形式:発達障害について,最新の診断・アセスメント・支援方法について講義する。画像や事例などを通して特徴をとらえられるようにしていく。また具体的にアセスメントや支援方法を学べるようにする。受講者は,一方的に講義を聴くのではなく,問題意識をもって積極的に参加して欲しい。
成績評価方法	学期末にレポート試験を行う。これに加え,毎回の授業に対する取り組みを考慮して総合的に評価する(割合はレポート70%,平常点30%とする)。
教科書	教科書は使用しない。資料を配布する。
履修上の注意・備考	積極的にディスカッションに加わる姿勢を大切にすること
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	野崎 大地				
授業科目	身体教育科学基本研究				
講義題目	身体教育科学の諸問題 I Topics in Physical Education I				

授業の目標・概要	身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授業計画	初回のガイダンス:教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を定める。二回目以降:担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。
授業の方法	担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。
成績評価方法	出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。
教科書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで)特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-217-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	山本 義春、森田 賢治				
授業科目	教育生理学基本研究				
講義題目	身体システム論 I System Analysis of Human Activity I				

授業の目標・概要	人間の活動あるいは行動に関する探究に際しては、自然科学から人文・社会科学にわたる幅広い分野の知見に基づく、微視的・巨視的両視点からの総合的なアプローチが必要である。本講義では、主として数理モデルおよび解析手法の立場から、このような総合的アプローチの方法論を身につける。
授業計画	過去本講義で取り上げた論文については http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html を参照のこと。新たな論文情報は適宜掲載する。
授業の方法	論文・テーマの選択は、原則として担当教員が行う。一回に一名の受講者が内容を紹介し、その後参加者全員で討論を行う。担当教員もなるべく平易な解説を心掛けるので、参加者も「理論的に考える」ことを心掛けて欲しい。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	生理学一般に馴染みのない人は夏学期に開講される学部講義「教育の生理学」を、数理解析一般について馴染みのない人は冬学期に開講される学部講義「バイオダイナミクス」を、それぞれ受講しておくことが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-03	単位数	2	学期	S1
担当教員	多賀 徹太郎				
授業科目	発達脳科学基本研究				
講義題目	発達脳科学特論 I Developmental Brain Sciences I				

授業の目標・概要	ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、発生生物学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。文献の紹介、具体的な課題の演習、履修者による研究発表等を行う。
授業計画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授業の方法	演習、発表、参加者全員によるディスカッション
成績評価方法	発表および平常点で評価する。
教科書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-217-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	佐々木 司、東郷 史治				
授業科目	健康教育学基本研究				
講義題目	健康教育学の諸問題 I Topics in Health Education I				

授業の目標・概要	精神保健や発達の問題を中心に、健康問題に関連する諸要因の解析と、それに基づく介入・心理教育などについて学習する。また国際誌への論文投稿・採択に必要な、英文文献の読解力、特に方法論などに関する批判的読解力、英文論文の記述力を養うことも本授業の重要な目標の1つである。This is a journal-club style course. Students are required to select and present a recent paper in areas of mental health, sleep, school health and related ones. An aim of this course is to develop the ability of critical reading of scientific papers.
授業計画	毎回担当学生が、精神保健とその疫学等に関連する英文論文を選び、その紹介を行う。興味あるテーマについて複数の論文を紹介し、仮説立案を行っても良い。最終的には、自ら英文論文を書くことが出来る力を養うことが目的である。文献の選び方は初回の授業で説明する。なお基本的に英語で授業を行うので、スライド(PPT)も基本的に英語で作成のこと(つまり英文文献の内容の日本語翻訳は不要、ということである)。口頭での説明は、英語で説明しきれない場合には、日本語で補っても良いが、なるべく英語で行うこと(ただし、英語での presentation の練習と思って気楽に参加して欲しい)。
授業の方法	各学生の発表に対して、質疑応答を教員・学生が行う。Students are recommended to actively make comments and/or questions to the presentation.
成績評価方法	平常点
教科書	特に指定なし
履修上の注意・備考	The course may be in English when foreign students participate. 留学生が参加する場合には、英語での授業とすることもある
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-05	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	野崎 大地				
授業科目	身体教育科学特殊研究				
講義題目	身体教育科学の諸問題Ⅱ Topics in Physical Education Ⅱ				

授業の目標・概要	身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授業計画	初回のガイダンス:教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を定める。二回目以降:担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。
授業の方法	担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。
成績評価方法	出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。
教科書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで)特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-217-06	単 位 数	2	学 期	集中
担当教員	柏野 牧夫、野崎 大地				
授業科目	身体教育科学特殊研究				
講義題目	スポーツ脳科学特論 Sports Brain Science				

授業の目標・概要	スポーツにおいては、知覚、運動制御、予測、意思決定、心身状態の最適化など、各種認知機能が決定的な役割を果たしている。この授業では、トップアスリートの認知機能や脳情報処理に関する研究の具体例の検討と、パフォーマンスや生体信号の計測実習を通じて、基礎知識や研究の方法論を学ぶ。また、スポーツの研究や現場における情報技術の利用の現状についても理解を深め、トレーニングやコーチングの将来像を探る。
授業計画	講義:野球やソフトボール、e スポーツなどのトップアスリートの研究例を取り上げつつ、以下の項目について概説する。・スポーツにおける主観と客観の乖離・潜在脳機能・視覚運動系、眼球運動、注意、錯覚・意思決定・心身相互作用・プレイヤー間相互作用・情報技術を利用した技能向上(可視化・可聴化、VR・AR、感覚フィードバック、非侵襲脳刺激、他)・スポーツアナリティクス 他体験実習:ウェアラブルセンサ、コンピュータビジョン、VR等の情報技術を用いた各種計測の体験
授業の方法	集中講義形式で、スポーツ脳科学に関する基礎知識や研究の具体例に関する講義と、実地での計測等の体験実習とを行う。体験実習は、NTT 厚木研究開発センタ(神奈川県厚木市)で実施する(新型コロナウイルスの状況による)。
成績評価方法	平常点(出席・レポート)による評価。
教科書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	なし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-217-07	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	山本 義春、森田 賢治				
授業科目	教育生理学特殊研究				
講義題目	身体システム論Ⅱ System Analysis of Human Activity Ⅱ				

授業の目標・概要	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授業計画	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授業の方法	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時間割コード	23-217-08	単位数	2	学 期	A2
担当教員	菊地 裕絵				
授業科目	教育生理学特殊研究				
講義題目	日常生活下調査から認知・行動変容までの教育・健康科学応用 Application of ambulatory technique in education and health sciences: From assessment through cognitive and behavior modification				

授業の目標・概要	近年、行動医学・健康心理学領域を中心に、生態学的妥当性の高い調査として、携帯型コンピュータやセンサを利用して日常生活下で事象を評価記録する日常生活下調査が重要視されてきた。今日では、日常生活下で評価するだけでなく人の認知や行動を変容させていこうとする試みが行われつつある。本講義では日常生活下調査についての基礎的な知識や解析法を含む具体的な手法をまず学び、介入を含めた今後の発展可能性について考察することにより、これらの手法を教育・健康科学分野で活用していけるようになることを目指す。
授業計画	1. オリエンテーション 2. なぜ日常生活下調査なのか・EMA(1) 3. なぜ日常生活下調査なのか・EMA(2) 4. 食行動に関する日常生活下調査 5. 生理指標・身体活動に関する日常生活下調査 6. 日常生活下調査データの解析 7. 日常生活下調査の活用例 8. 日常生活下調査体験実習 9. 日常生活下調査の関連領域 10. 日常生活下調査データ解析実習 11. 今後の発展: 項目反応理論・適応型問診、介入 12. まとめ ※オンラインで実施の場合は、体験実習に関連する項目を論文抄読に振り替えるため、一部変更となる。オンライン授業内容を参照のこと。
授業の方法	講義(グループディスカッション、論文紹介を含む)および実習をおこなう。当該分野の代表的な文献に触れるため、初回の講義時に担当論文の割り当てを行うので、論文紹介の発表準備を担当回までに行うこと。講義後半では、日常生活下調査の実際について、実際に調査やデータの取り扱いを体験しながら学習し、教育・健康科学分野への応用について考える。※オンラインで実施の場合は、体験実習に関連する項目を論文抄読に振り替えるため、一部変更となる。オンライン授業内容を参照のこと。
成績評価方法	レポート(80%)に平常点(出席・授業参加態度等; 20%)を合わせて評価する。
教科書	参考図書および文献は講義の際に提示する。
履修上の注意・備考	事前の知識は多くを求めないが、講義の中で、意見や質問を出してもらおう機会を多く持ちたいと考えているので、素朴な疑問でも気後れせず発言していただきたい。また積極的な参加を期待する。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-217-09	単位数	2	学期	A1
担当教員	多賀 徹太郎				
授業科目	発達脳科学特殊研究				
講義題目	発達脳科学特論Ⅱ Developmental Brain Sciences Ⅱ				

授業の目標・概要	S1 に引き続き行う。ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、行動学、発生生物学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。文献の紹介、具体的な課題の演習、履修者による研究発表等を行う。
授業計画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授業の方法	演習と発表。参加者全員によるディスカッション。
成績評価方法	発表および平常点で評価する。
教科書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-217-10	単位数	2	学 期	A1A2
担当教員	佐々木 司、東郷 史治				
授業科目	健康教育学特殊研究				
講義題目	健康教育学の諸問題Ⅱ Topics in Health Education Ⅱ				

授業の目標・概要	健康教育学の諸問題Ⅰで学習した知識を元に、研究計画の立案を含めたさらに専門的な学習を進める。かつ英語での presentation の練習も行う。方法論や結果と考察との一貫性に関する批判的論文読解の力を養うことも大きな目標である。This course will be given in a journal-club style. Students are required to select a recent paper on mental health (especially adolescents' mental health) or related issues and give a presentation, once or twice. The presentation and discussion are recommended to be made in English in principle, which may help you practice presentations in international meetings. Development of ability for critical reading of scientific papers is also a major aim of this course.
授業計画	健康教育に関連する英文論文を各自選択し、それについての説明を行う。あるいはあるテーマについての英文文献検索を行い、テーマに関する複数の論文について review し、新たな研究遂行に役立つ仮説構築を行っても良い(ある程度習熟レベルが進んだ学生には後者をむしろ勧める)。
授業の方法	健康教育学の諸問題Ⅰと同様であるが、学習の進んだ学生で健康教育学に関する研究を志す学生については、自分の研究計画を立案・発表し、それについての意見を求める機会としても良い。なお発表および質疑応答は原則として英語で行う。ただし英語でのやりとりに慣れていない学生も多いと思われるので、どうしても分からない時は日本語の使用もOKとする。将来の英語での学会発表や論文書きの練習と思って、気楽に考えて参加してほしい。成績評価方法/Grade Evaluation 通常点(出席と発表の評価)
成績評価方法	平常点
教科書	特に指定せず
履修上の注意・備考	特になし
その他	特になし

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-11	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	野崎 大地				
授業科目	身体教育科学論文指導				
講義題目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授業の目標・概要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授業計画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授業の方法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-12	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	野崎 大地				
授業科目	身体教育科学論文指導				
講義題目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授業の目標・概要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授業計画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授業の方法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-13	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	森田 賢治				
授業科目	身体教育科学論文指導				
講義題目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授業の目標・概要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授業計画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授業の方法	履修者全員での討論などを行う
成績評価方法	平常点
教科書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-14	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	森田 賢治				
授業科目	身体教育科学論文指導				
講義題目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授業の目標・概要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授業計画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授業の方法	履修者全員での討論などを行う
成績評価方法	平常点
教科書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-15	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	柏野 牧夫				
授業科目	身体教育科学論文指導				
講義題目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授業の目標・概要	各履修者が行っている研究の内容を発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授業計画	毎回、各履修者が研究の進捗状況について報告し、参加者全員で議論する。
授業の方法	各履修者が研究の内容(目的、方法、結果、進捗上の問題点等)についてスライド等を用いて報告する。それを題材として参加者全員で議論し、内容の補強や問題点の解決を図る。必要に応じて個別指導を行う。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-16	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	柏野 牧夫				
授業科目	身体教育科学論文指導				
講義題目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授業の目標・概要	各履修者が行っている研究の内容を発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授業計画	毎回、各履修者が研究の進捗状況について報告し、参加者全員で議論する。
授業の方法	各履修者が研究の内容(目的、方法、結果、進捗上の問題点等)についてスライド等を用いて報告する。それを題材として参加者全員で議論し、内容の補強や問題点の解決を図る。必要に応じて個別指導を行う。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時間割コード	23-217-17	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	山本 義春				
授業科目	教育生理学論文指導				
講義題目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授業の目標・概要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授業計画	随時討論会を行う。
授業の方法	学生の発表に基づき討議を行う。
成績評価方法	平常点(出席)による評価。
教科書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時間割コード	23-217-18	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	山本 義春				
授業科目	教育生理学論文指導				
講義題目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授業の目標・概要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授業計画	随時討論会を行う。
授業の方法	学生の発表に基づき討議を行う。
成績評価方法	平常点(出席)による評価。
教科書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時間割コード	23-217-19	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	東郷 史治				
授業科目	教育生理学論文指導				
講義題目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授業の目標・概要	教育生理学に関する修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授業計画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授業の方法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成績評価方法	平常点
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-20	単位数	2	学 期	通年
担当教員	東郷 史治				
授業科目	教育生理学論文指導				
講義題目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授業の目標・概要	教育生理学に関する博士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授業計画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授業の方法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成績評価方法	平常点
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-21	単位数	2	学 期	通年
担当教員	菊地 裕絵				
授業科目	教育生理学論文指導				
講義題目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授業の目標・概要	教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授業計画	学生の状況に合わせて実施する。
授業の方法	学生の状況に合わせて実施する。
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-22	単位数	2	学 期	通年
担当教員	菊地 裕絵				
授業科目	教育生理学論文指導				
講義題目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授業の目標・概要	教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授業計画	学生の状況に合わせて実施する。
授業の方法	学生の状況に合わせて実施する。
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-23	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	多賀 徹太郎				
授業科目	発達脳科学論文指導				
講義題目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授業の目標・概要	発達脳科学に関する修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授業計画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授業の方法	討論を中心とする。
成績評価方法	総合的に評価する。
教科書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-24	単位数	2	学 期	通年
担当教員	多賀 徹太郎				
授業科目	発達脳科学論文指導				
講義題目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授業の目標・概要	発達脳科学に関する博士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授業計画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授業の方法	討論を中心とする。
成績評価方法	総合的に評価する。
教科書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-25	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	佐々木 司				
授業科目	健康教育学論文指導				
講義題目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授業の目標・概要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目的とする。
授業計画	各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授業の方法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する。
成績評価方法	通常点
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	年間の指導の中で、疫学と統計の基本的知識を習得していくことは必須であるので、そのもりで参加のこと。分からないこと、理解できないことは、例え基本的なことであっても遠慮せずに質問のこと。ただ座っているだけの参加は無意味であることを得ること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-217-26	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	佐々木 司				
授業科目	健康教育学論文指導				
講義題目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授業の目標・概要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目的とする。
授業計画	各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授業の方法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する。
成績評価方法	平常点
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	年間の指導の中で、疫学と統計の基本的知識を習得していくことは必須であるので、そのもりで参加のこと。分からないこと、理解できないことは、例え基本的なことであっても遠慮せずに質問のこと。ただ座っているだけの参加は無意味であることを得ること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	秋田 喜代美				
授業科目	教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)				
講義題目	授業における学習研究 Research on Learning in Classroom				

授業の目標・概要	学校における教師の学びとしての授業研究とカリキュラムデザインに関する基本文献と最近の動向を英語で当該分野の文献を読んで議論ができるようにする。
授業計画	授業研究とカリキュラムデザインを主題とし、教師の学習と授業における探究に関する基本文献と OECD のカリキュラムレポートアメリカ、シンガポール、欧米での発展を議論する。
授業の方法	グループで特定文献の論文を担当しその論文について発表するとともに協働で議論をしながら理解を深める。
成績評価方法	本演習への参加、報告や議論ならびに期末レポートによって評価
教科書	開始時に指示するが、Murata,A. & Lee,C. (eds) 2020 Stepping up lesson study: An Educators' guide to deeper learning. Routledge を読む予定である。
履修上の注意・備考	原則として隔週で1, 2時間目2コマ連続で実施する予定である。評価は平常点とレポート等の報告、最終小レポートを総括して行う
その他	初回授業ガイダンスは4月5日に9時から実施し予定。課題や次回以降の詳細をアナウンスし、次回は4月20日となります。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-02	単 位 数	2	学 期	S1
担当教員	浅井 幸子				
授業科目	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・基礎研究)				
講義題目	教育実践の歴史的研究 Historical Research on Educational Practice				

授業の目標・概要	国連で子どもの権利条約が採択されて以降、その解釈を変化させながら、教育への「権利アプローチ」がかたちづけられてきた。とくに「有能な学び手としての子ども」という子ども観は、教育のあり方の変容を促すものである。この授業では、文献購読を中心としながら、子どもの権利条約の教育へのインパクトを考察したい。主要な文献として以下を予定している。Swadener, B. B., Lundy, L., Habashi, J. and Blanchet-Cohen, N. eds., Children's Rights and Education: International Perspectives (Rethinking Childhood Book 48) Kindle version., Peter Lang.
授業計画	1・2回 オリエンテーションとテーマ設定3・4回 文献購読5・6回 文献購読7・8回 グループワークの発表9・10回 文献購読11・12・13回 グループワークの発表
授業の方法	文献購読グループワーク
成績評価方法	平常点
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-03	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	野澤 祥子				
授業科目	教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)				
講義題目	保育学研究 Studies on Early Childhood Education				

授業の目標・概要	保育者の専門性に関して、文献等での検討を行う。
授業計画	上記テーマに関する近年の研究文献を読みあう。議論を通して、理解を深める。
授業の方法	文献の講読と議論を中心に行う。
成績評価方法	演習への参加、報告・議論、期末レポート
教科書	学期当初に講読文献を指定
履修上の注意・備考	特になし
その他	原則として隔週で3、4時間目2コマ連続で実施予定日程は初回時に教示する

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-301-04	単位数	2	学 期	S1
担当教員	藤江 康彦				
授業科目	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・発展研究)				
講義題目	学校教育研究と談話分析 Research on School Education and Discourse Analysis				

授業の目標・概要	学校教育における授業、カリキュラム、教職をめぐる間接的直接的経験とその解釈をどのように表現し、学術の俎上に載せるのかを探究する。学校教育は言語的实践をその中核としている。そして、学校教育研究は言語的实践を言語化することで学術的探究を遂行する。二重の言語化ともいえる学校教育実践に関する研究において、当事者の営為をどのようにとらえ表現するか、研究者の解釈をどのように共有し、経験をどのように反省するかを問うことは学校教育研究においては重要である。談話分析やナラティブ分析に関する内外の文献を講読しながら、これらがどのような学問的背景をもち、どのように進められてきたかを理解するとともに、分析の視点や方法によって当事者の経験や出来事がどのように切り取られ、「事実」として位置づけられるのかについて考察する。とりわけ、学校教育をめぐる言語データを中心的な研究対象とする文献を購読することで、授業やカリキュラムの構造、子どもの学習、教師の実践的知識の構造、それを支える社会文化的環境のありようについてどのようにとらえ、どのように理論化しているかを議論する。
授業計画	第1回 ガイダンス第2回 談話分析の基礎①第3回 談話分析の基礎②第4回 授業研究と談話分析①第5回 授業研究と談話分析②第6回 教育研究とナラティブ分析①第7回 教育研究とナラティブ分析②
授業の方法	1. 談話の理論(背景となる理論や方法論、コミュニケーション観、授業観、学習観)や方法(方法論的基盤、分析の観点や手法)、実際の研究の在り方、について文献購読によって検討する。文献例 James Paul Gee, & Michael Handford.(Eds.) 2011 The Routledge Handbook of Discourse Analysis. Routledge.Vijay Bhatia, & Stephen Bremner.(Eds.) 2014 The Routledge Hand
成績評価方法	報告や議論への参加状況による平常点ならびに期末レポートによる。
教科書	指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	特になし。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	木村 元				
授 業 科 目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	日本の学校の歴史的形成 Historical formation of Japanese schools				

授業の目標・概要	<p>学校方式という人間形成は人類史的に特殊な文化伝達によってなされている。近代社会が学校方式を導入し、そこでの文化伝達としてのペダゴジーという視点を持ちながら日本の学校史を理解する。その際に、制度としての学校が実際にどのように生きられたのか、教える(-学ぶ)ということを成り立たせているペダゴジーの様態を示そうとする教育制度の社会史という見方で日本の学校の展開史を捉える。日本の学校の展開を4重構造で捉える見方を示してきたが、新たに「境界線の学校史」という視点も含めて理解したい。日本の社会の人間形成の転換である学校方式への移行を導入・移行期、定着期、展開期という枠のもとで捉え、今日の状態を捉えるための視点を得る。レクチャーと報告から授業は構成されるが、時間的な制約があるためどこに力点を置くかは参加者との関係で定めたい。到達目標として以下を挙げておきたい。・日本の学校の歴史的展開の概要がつかめる・日本のペダゴジー形成と学校批判の系譜がつかめる・学校制度の周辺と周縁に注目して学校史を捉えられる</p>
授 業 計 画	<p>1.授業の全体の説明 2.習俗の人間形成と人口動態 3.文化伝達の転換と学校の成立 4.近代学校の日本への移入 5.日本型近代学校の形成 6.日本の学校システムの確立 7.日本型近代学校の定着をめぐる葛藤 8. 戦時化体制下の教育と学校 9.戦後の学校:戦後教育の出発と学校制度 10.学校化社会への胎動 11.周縁の学校から 12.周辺の学校から 13. 周縁の教育領域の動向から 14. 周辺の教育領域の動向から 15. 学校化社会の新動向:まとめにかえて</p>
授 業 の 方 法	レクチャーと報告を踏まえたディスカッション
成 績 評 価 方 法	RP,報告、議論を含めた授業への貢献 60%、最終レポート 40%
教 科 書	木村元編『境界線の学校史』(東京大学出版会、2020年) 後半の講読で用いる
履修上の注意・備考	最初の授業で学習の仕方、授業の進め方等について説明します。受講者の人数や状況によってやりかたや構成を調整したいと思います。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-301-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	石黒 広昭				
授業科目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講義題目	学習と発達に対する社会歴史的アプローチ Sociohistorical approach to Learning and Development				

授業の目標・概要	この授業では、社会・文化・歴史的アプローチの立場から人の発達と学習、教授について検討する。ヴィゴツキー学派の心理学の基本的な方法論と問題意識を確認し、人間とモノなど多様なものの出会いからなる複雑な教育・保育実践の理解を深める。履修者と共に学習実践の在り方について議論したい。
授業計画	初回は授業紹介を行う。その後の授業は主に三つの内容で構成される。まず、最初の数回は、ヴィゴツキー学派の心理学における学習と発達、教授に対する基本事項を文献に基づいて解説し、確認していく。その後は、ヴィゴツキー学派の見解の拡張を試みようとする研究論文(主に英文)を履修者に報告してもらい、皆でその理論的課題や有効性を検討する。特に、学習と教授の間にある緊張関係について理解を深めたい。さらに、可能であれば、履修者が関心を持つフィールドや文献の中から具体的な事例を取り上げ、事例分析を行いたい。
授業の方法	演習形式で実施する。履修者には指定された文献と事例分析の報告が求められる。
成績評価方法	平常点(報告と討議参加、授業に関連した問いを自分で設定した最終総括レポートの提出)
教科書	購読論文は授業時に配布、または指示する。
履修上の注意・備考	指定文献を事前に読んで議論に参加すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-07	単 位 数	2	学 期	A2
担当教員	村井 尚子				
授業科目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講義題目	ヴァン・マーネンの教育学 The Pedagogy of van Manen				

授業の目標・概要	現象学的手法を用いて教育学研究を行っているカナダの教育学者マックス・ヴァン＝マーネンの教育学について、文献、論文を読みながらディスカッションを行う。また、現象学的な記述の練習を行い、読み合わせ、書き直しを重ねながら、最終的にできるかぎり生きられた経験を生きられたままに記述できるようになることをめざす。
授業計画	ヴァン＝マーネンの教育学ケアと教育のあいだ教育的の時間性と教育的タクト現象学的記述の実践(ユトレヒト学派の現象学)4日間の集中講義となるので、上記のテーマをおおよそ一日に一つ扱う。
授業の方法	あらかじめ指定した論文、資料を読んだうえで授業に臨み、毎回のトピックについてのディスカッションを行う。また、現象学的記述の実践を行い、互いに読み合いながら記述の精度を上げていく。
成績評価方法	ディスカッションへの参加、現象学的記述の提出、最終レポート
教科書	教科書は指定しないが、あらかじめ論文、資料を提示するので毎回読んだうえで授業に臨むこと。
履修上の注意・備考	オンラインになる可能性があるため、注意してください。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-08	単 位 数	2	学 期	集中
担当教員	濱田 秀行				
授業科目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講義題目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授業の目標・概要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育実践について議論ができるようになる。
授業計画	1. オリエンテーション 2-3. 研究対象としての国語科授業実践の特徴 4. 「読むこと」に関する理論 5. 読解力の定義 6. 国語科における指導方法 7-8. 「読むこと」(文学的な文章)の学習指導とその評価 9. 「指導と評価の一体化」10. 授業研究のための教材分析 11-12. 授業事例の分析演習 13. 教科「国語」を教えるための学び
授業の方法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成績評価方法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教科書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
その他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-09	単位数	2	学 期	集中
担当教員	永田 佳之				
授業科目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講義題目	地球規模課題と ESD Global Issues and ESD				

授業の目標・概要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるであろう — 環境教育や ESD の論客である David Orr が私たちにこう問いかけたのは 30 年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探求していく。上記の問いの他にも幾つかの(正答のない問い)を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキスタイルとして、縦糸として「教育開発」を、横糸として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授業計画	1 基本的な問いの共有 2 持続可能な社会と教育 3 環境教育・ESD・Efs 4 エコフォビアを超えて 5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代 6 気候変動の本質的な課題 7 不確実性の時代と学校教育 8 ESD の来し方行く末① 9 ESD の来し方行く末② 10 ESD for 2030 - SDGs と教育 - 11 世界の優良実践① 12 世界の優良実践② 13 日本の教育を捉え直す 14 人新世時代の教育学の課題 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授業の方法	〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議も適宜、取り入れていく。
成績評価方法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教科書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社、2020 年
履修上の注意・備考	事前に文献をよく読んで授業に臨むこと。
その他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.com ・BE*hive(暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・ Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-10	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	有本 真紀				
授業科目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講義題目	芸術教育の歴史社会学 Historical Sociology of Art Education				

授業の目標・概要	音楽は、個人で練習したりレッスンを受れたり、学校および学校外において集団で学習や活動を行ったり、あるいは社会の中でさまざまな機会やメディアを通して意識的にも無意識的にも学ばれている。これらの活動は、たとえば個人の身体性の面から見ても、音楽による共同体の生成といった社会との関係から見ても興味深く、感情に作用を与えやすいこと、時間芸術であるといった点をはじめとして、多くの特徴をもっている。そうした音楽教育・音楽学習を歴史社会学の視点から捉え、現代社会において音楽を学ぶことに関する考察を深めることを目標とする。考察の対象は学校教育の中に限らず、乳幼児から高齢者、障害のある人、文化的マイノリティなど、さまざまな立場の人にとっての音楽の学びとする。各回を通じ、「音楽による社会化」「個人と音楽/社会と音楽」を問い直す意識を根底に置いて進めたい。
授業計画	以下に例示するテーマの中から、履修者の問題関心に照らして文献を指定し、また関連文献を挙げて、それらについての検討と議論を行う。関連文献は、発表担当者とも相談の上、選定する。例示した他にも、「音楽による社会化」にかかわるテーマであれば、提案を取り上げたい。・人と音楽行動の根源・儀式と音楽・芸としての音楽(芸事、稽古、レッスン)・近代学校の中の音楽科教育・音楽科の教員養成・専門教育としての音楽教育・教養教育としての音楽教育、市民社会と音楽教育・社会教育と音楽・音楽教育とジェンダー・メディアと音楽教育・音楽教育におけるジャンルの問題・音楽教育と記憶、高齢化社会における音楽教育
授業の方法	講義と発表および議論を組み合わせて進める。発表担当者は関心のあるトピックを決めて指定文献・関連文献の内容の整理と論点の提示を行う。発表に関わる文献、発表資料は、授業の3日前までに ITC-LMS にアップロードできるよう、準備をお願いする。履修者は、事前に文献、資料に目を通した上で授業に参加し、グループおよび全員による議論を通して理解を深める。可能であれば、聞き取り調査などの方法を取り入れたい。履修人数やオンラインの通信状況によっては、調整や変更が生じる可能性があります。オンラインであっても極力双方向でやりと
成績評価方法	議論への貢献と担当部分の報告内容(50%)、および最終レポート(50%)による。
教科書	なし
履修上の注意・備考	履修者は、ITC-LMS にアップロードされた文献、発表資料に事前に目を通した上で、授業に参加してください。発表担当になった方は、発表に関わる文献、発表資料を授業の3日前までに ITC-LMS にアップロードできるよう、準備をしてください。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-11	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	中川 律				
授業科目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講義題目	現代教育法の課題 Contemporary Issues in Education Law				

授業の目標・概要	本授業は、教育法学の基本的な知識を土台に、現代における教育をめぐる諸課題を、法律学の視点から考察できるようになることを目標とするものである。内容は、教育裁判、教育制度、教育政策などを素材に、日本の現代的な動向を考察することに重点を置く(もちろん、比較法的な視点や歴史的な視点からの考察を排除するわけではない)。
授業計画	各回の内容は受講者と相談のうえ決定する予定だが、おおよそ次のような内容について取扱うことができると考えている。1 教育制度の憲法論 中川律「教育制度の憲法論:2006年教育基本法の下での教育制度改革に関する考察」佐々木弘通・宍戸常寿編『現代社会と憲法学』(弘文堂、2015年)2 教師の教育の自由の射程——「日の丸・君が代」裁判、七生養護学校性教育裁判 中川律「教師の教育の自由」法学セミナー712号(2014年) 中川律「教師の教育の自由の射程:旭川学力テスト事件最高裁判決再読」阪口正二郎・江島晶子・只野雅人・今野健一編『憲法の思想と発展:浦田一郎先生古稀記念』(信山社、2017年) 中川律「「日の丸・君が代」訴訟——到達点と課題」教育1089号(2012年) 3 教科書検定制度改革 中川律「改めて憲法を考える(23)教科書検定制度と政府見解」時の法令1978号(2015年) 中川律「教科書検定制度に関する考察」日本教育法学会年報44号(2015年)4 教育勅語のどこが問題なのか? 中川律「改めて憲法を考える(37)教育勅語のどこが問題なのか?: 道徳教育のあり方を考えるために」時の法令2035号(2017年) 中川律「国家の中立性概念の意味と意義: 教育を題材に」『憲法問題』29号(2018年)5 政治教育の仕組みはどうあるべきか? 中川律「改めて憲法を考える(29)学校での政治教育の仕組みは、どうあるべきか?: 18歳選挙権をめぐる1つの論点」時の法令1994号(2016年)6 高校生の政治的活動——文科省の新通知の問題点 中川律「改めて憲法を考える(32)高校生の政治的活動: 文科省の新通知の問題点」時の法令2007号(2016年)7 教育委員会制度改革 中川律「改めて憲法を考える(14)教育委員会制度と教育を受ける権利: 改正地方教育行政法を考える」時の法令1960号(2014年)8 学問の自由と大学の自治 中川律「改めて憲法を考える(17)大学の自治: 改正学校教育法・国立大学法人法を考える」時の法令1966号(2014年)9 憲法を改正すれば教育は良くなるのか? 中川律「教育の無償化は憲法改正によって実現されるべきものなのか?」阪口正二郎・愛敬浩二・青井未帆『憲法改正をよく考える: Taking Constitution Seriously』(日本評論社、2018年)10 朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える 中川律「朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える: 3つの地裁判決を素材に」法学セミナー757号(2018年) 中川律「朝鮮高校と「不当な支配」の禁止: 授業料無償化不指定裁判を考える」時の法令2067号(2019年)11 学習権の概念と内外事項区分論再考 中川律「教育法学における「原理の問題」——憲法学的視点からの批判への応答」日本教育法学会年報50号(2021年近刊)
授業の方法	基本的には、毎回受講者の一人が報告を担当し、それを受けて他の参加者も含めて議論をする演習形式を予定している。文献読解や一定のテーマに関する報告など、受講者と相談のうえ決定する。*状況によってはオンライン授業となることもあります。その場合には、下記のオンライン授業URL(オンライン授業となった場合に記載します)からエクセルワークシートに移動して、Zoomのオンライン会議に参加してください。受講にあたっての事前の質問等は、エクセルワークシートに書いておいてください。答えることができる範囲でお答えします。
成績評価方法	演習での報告、発言の内容等の受講者の平常の様子を総合的に評価する。*オンライン授業となった場合には、状況に応じて受講者に課題を提出してもらって、それを評価の素材の一つとすることもあります。
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	教育法に関心がある者。

そ の 他

オンライン授業となった場合には、ITC-LMS を通じて資料配布を行います。初回の授業前にチェックしてください。オンライン授業の方法などに関して、シラバスの内容の更新を適宜行いますので、受講希望の者は適宜チェックするようにしてください。* 履修予定であるが、何らかの理由で初回のオンライン授業に参加できないという方は下記のメールアドレスまでご連絡ください。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生

履 修 可

本 学 他 研 究 科 学 生

履 修 可

他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)

履 修 可

時間割コード	23-301-12	単位数	2	学 期	A1
担当教員	坂部 真理				
授業科目	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)				
講義題目	教育政策の比較政治学的分析 A Comparative Political Analysis of Education Policy				

授業の目標・概要	本講義では、政治学(ときに比較政治学や政治経済学)の視点から、現代の教育改革を牽引し方向づけている政治的ダイナミズムを分析する上で有益と思われる諸概念・アプローチを習得することを目標とします。近年、各国で推進されてきた教育改革には、NPM の導入や「人的資本投資」の強調など、ある一定の共通性が見られます。しかし、それら諸改革の成否や方向性については、国家間で差異も存在します。この国家間の教育改革の多様性を理解する上では、各国特有の制度構造(「制度遺制」)や、政府(政党、官僚など)―社会集団―有権者などの間に作用する政治力学を分析することが重要です。本講義の担当者(坂部)は、教育学ではなく、政治学を専門とする教員です。政治学の分野には、「下位政府」「福祉-生産レジーム」「経路依存性」「政策学習」「制度変化と再生産のダイナミズムの関係」など、教育に関わる政治力学を分析する上で有益な諸概念・アプローチが存在します。本講義を受講する上で、あらかじめ学部等で「政治学」関連の講義を履修している必要はありません(まったく初学者でも大丈夫です)。各国の教育政策の形成や変化のプロセスを、政治学の諸概念を用いて分析する手法を基礎から学び、将来的に受講生の皆さんが教育学―政治学を横断する学際的研究を発展させていくための「土台」を築くことを目標とします。
授業計画	・詳細は、初回講義で決定します。第1回 イントロダクション第2～7回 テキストの講読とディスカッション(2コマ連続の講義です)
授業の方法	・毎回、指定された文献を講読し、ディスカッションを行います(各回一人ずつ、報告を担当)。・講義の形式(オンライン／対面式のいずれか)は、コロナ等の状況に応じて、後日決定します。
成績評価方法	各自が担当する回での報告:30%、ディスカッションへの参加状況:70%として評価します。
教科書	・使用するテキストは、受講者の研究テーマや関心を考慮しつつ、初回講義で決定します。現段階では、以下の文献の中から選択する予定です。○近年の福祉国家の再編、社会的投資国家、その中での公教育の位置づけの変化などに関する文献:①Nathalie Morel, Bruno Palier and Joakim Palme (eds.), Towards A Social Investment Welfare State?., The Policy Press, 2012.②Anton Hemerijck, Chan
履修上の注意・備考	・二時間連続で受講してください。・政治学的分析に関心があれば、専攻分野・研究テーマにかかわらず受講可能です(初学者歓迎)。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-13	単位数	2	学 期	A1
担当教員	藤江 康彦				
授業科目	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)				
講義題目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授業の目標・概要	<p>授業研究をはじめとする教育実践研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究や教育実践研究の、教育学研究、教師の学習環境、教師の学習を支える研究的実践、などの多様な在り方について理解し、研究者、実践者としてどのように取り組んでいくかを考察することを目指す。研究者として、あるいは実践者としてどのように授業研究を進めていくのか、について研究手法も含めて検討する。教育実践研究において多くとられる事例研究や質的研究について、その進めかたや留意点、認識論について理解することを通して、質の高い授業研究や教育実践研究のあり方についても検討する。また、さまざまな校種や教科の授業における映像記録、逐語記録、授業記録、実践記録などの視聴や読み取りを通して、授業、子ども、教師、教材の多様性と固有性、相互関係のあり方の複雑性や相補性などについて、検討し考察する。自分や他者が記録をどう切り出してきたか、どう読み取ったかを交流することを通して、授業、子ども、教師教材などをとらえる視点をメタ的にとらえ事例への視点の多様性や固有性について気づくとともに、授業を対象として分析研究を行う際の方法を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回：授業研究、事例研究の基本的な考え方第2回：文献購読①第3回：文献購読②第4回：文献購読③第5回：事例分析①第6回：事例分析②第7回：事例分析③</p>
授業の方法	<p>文献購読については一回の授業ごとに国内外の授業研究や事例研究、質的研究に関する文献を複数選び、分担者を決めて購読する。購読ののちグループ協議、全体協議をおこなう。事例分析については、①全員で①単位時間の授業事例をみて検討、②同一授業記録をグループで検討、の形をとる予定である。授業の実施形態がオンラインか対面かによって記録の共有や検討する協議などの方法が異なるので、授業の初回時に説明する。</p>
成績評価方法	<p>演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。</p>
教科書	<p>使用しない</p>
履修上の注意・備考	<p>文献購読や授業映像の文字起こしや分析作業は、授業時間外での作業やグループワークが発生する場合がある。このことを了承のうえで参加されたい。</p>
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-14	単 位 数	2	学 期	S2
担当教員	浅井 幸子				
授業科目	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)				
講義題目	教職の事例研究 Case Studies of Lessons				

授業の目標・概要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授業計画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の記録や授業研究の論文を読む。コロナウイルスの流行状況によっては、授業の参観は行わない。
授業の方法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成績評価方法	参加と課題レポートによる。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	特になし。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-15	単位数	2	学期	S1S2
担当教員	斎藤 兆史				
授業科目	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)				
講義題目	言語教育の事例研究 Case Studies on Language Education				

授業の目標・概要	言語教育の実践を、個々の指導現場での事例に即して分析することにより、言語教育についての理解を深め、よりよい言語教育の理論と方法論を研究する。まず言語教育および事例研究の理念と方法論について概観したのち、主にビデオやDVD資料を用いて、さまざまな言語教育の実践を個々の事例に即して見ていく。
授業計画	第1回: ガイダンス第2回: 日本の初等教育における外国語活動の事例(小学校)第3回: 日本の中等教育における英語教育の事例(中学校)第4回: 日本の中等教育における英語教育の事例(高等学校)第5回: 日本の高等教育における英語教育の事例(大学)第6回: 日本における国語教育の事例第7回: 日本における外国人に対する日本語教育の事例第8回: 英語圏における英語話者に対する英語教育の事例第9回: 英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(初級)第10回: 英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(中・上級)第11回: 日本における英語以外の外国語教育の事例第12回: 外国における英語以外の外国語教育の事例第13回: 日本における特殊な英語教育の事例(早期教育、イマージョンなど)第14回: その他の事例第15回: まとめ
授業の方法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注意すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。
成績評価方法	発表、授業への取り組み、レポートを総合的に評価する。
教科書	プリント使用。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析し、問題意識を持って授業に臨むこと。なお、当面オンラインで授業を進めるので、本授業の履修を希望する学生は、初回の授業時まで「言語教育の事例研究履修希望」の件名をつけ、氏名、所属、学年、専門などを明記し、本授業のメーリングリストで用いるアドレスの eigojirei2021@googlegroups.com(本授業の履修上のやり取り以外の用途には使用しない)に、メーリングリストに載せてもいい自身のアドレスから送信すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-301-16	単位数	2	学 期	A2
担当教員	藤村 宣之				
授業科目	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)				
講義題目	教科教育の心理学的事例研究 Psychological Case Studies on Learning in Subject Areas				

授業の目標・概要	各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。中等教育を中心とした各教科の授業について、授業記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し、その方法に熟達することを目標とする。中等教育における各教科(数学科, 理科, 国語科)の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について、発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い、心理学の視点から考察を行う。
授業計画	1: イントロダクション2: 授業の心理学的分析の方法3: 中学校数学科授業の事例研究①(個別探究)4: 中学校数学科授業の事例研究②(協同探究)5: 高校数学科授業の事例研究①(個別探究)6: 高校数学科授業の事例研究②(協同探究)7: 中学校理科授業の事例研究①(個別探究)8: 中学校理科授業の事例研究②(協同探究)9: 高校理科授業の事例研究①(個別探究)10: 高校理科授業の事例研究②(協同探究)11: 中学校国語科授業の事例研究①(個別探究)12: 中学校国語科授業の事例研究②(協同探究)13: 高校国語科授業の事例研究(個別探究・協同探究)
授業の方法	各教科の授業についての指導案, ワークシート等の資料にもとづいて、個別に検討を行い(個別探究), 集団での発表・検討・討論(協同探究)を行った後, さらに個別に考察を深める。基本的にオンラインで授業を行う。
成績評価方法	授業時の発表・小レポートおよび最終レポートによる。
教科書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018年)
履修上の注意・備考	各回の授業およびそこでの討論への参加, 個別探究時の小レポート, および最終レポートの提出が必要である。(重要)教育内容開発コース所属の大学院生は, 本授業ではなく, 時間割コード 23-302-14 の「教科教育の心理学的事例研究」を履修登録すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	浅井 幸子				
授業科目	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)				
講義題目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授業の目標・概要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授業計画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。コロナウイルスの流行状況によっては、フィールドワーク期間の短縮や中止等、授業内容の変更を行う。
授業の方法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学付属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会への参加がもとめられる。
成績評価方法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教科書	必要に応じて支持する。
履修上の注意・備考	フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを15時間以上実施することが必要である。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-301-18	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	北村 友人				
授業科目	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)				
講義題目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授業の目標・概要	学校におけるフィールドワーク(授業観察・調査など)のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。
授業計画	最初2時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。
授業の方法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低2単位は東京大学附属中等学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。
成績評価方法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	フィールドワークを実施する際には、15 時間以上実施することが必要である。本講義の履修にあたっては、すでに事例研究を履修していることが条件となる。また、東京大学教育学部附属中等教育学校で開催される公開研究会への参加を、基本的に必須とする(研究会は、2022 年 2 月中旬に開催予定)。もしこの研究会への参加が難しいと予想される場合は、事前に担当教員に相談をすること。
その他	基本的に、対面での講義ならびに現地でのフィールドワークを行う予定だが、新型コロナウイルス感染の状況次第では、オンラインを活用する可能性もあることに留意されたい。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-19	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	秋田 喜代美				
授業科目	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)				
講義題目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授業の目標・概要	授業研究や保育研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授業計画	保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授業の方法	個人指導および集団での論文指導を行う。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく形をとる。また研究室MLへの参加によって日々検討を行う。
成績評価方法	本演習およびMLでの論文コメントへの参加、個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	コロナの感染拡大状況によって判断するが、現在の所、前期に関しては、オンライン ZOOM を使用しての実施予定である。
その他	隔週とあるが開講日は追って授業開始日にアナウンスをする。初回は4月 7 日17時よりオンラインで開催します。必要な方はいかの秋田の個人メールアドレスまでコンタクトをお願いします。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-20	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	秋田 喜代美				
授業科目	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)				
講義題目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授業の目標・概要	授業研究や保育研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授業計画	保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授業の方法	個人指導および集団での論文指導を行う。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく形をとる。また研究室MLへの参加によって日々検討を行う。
成績評価方法	本演習およびMLでの論文コメントへの参加、個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。
教科書	指定なし
履修上の注意・備考	客員教授 秋田の論文指導を本年度希望される方を対象に実施いたします。コロナ感染の上記用によりオンラインか対面かを確定しますが前期に関しては基本 ZOOM での指導を予定しております。
その他	隔週とあるが開講日は追って授業開始日にアナウンスをする。本年は4月7日17時よりオンラインで論文指導を行います。今後必要な場合は、以下の秋田個人メールアドレスまでご連絡ください。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-21	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	藤江 康彦				
授業科目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講義題目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授業の目標・概要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授業計画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエストを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエストから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授業の方法	1. 集団指導:参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成績評価方法	授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教科書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。修士課程の学生向けの論文指導ゼミである。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-22	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	藤江 康彦				
授業科目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講義題目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授業の目標・概要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授業計画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエストを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエストから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授業の方法	1. 集団指導:参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成績評価方法	授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教科書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。博士課程の学生向けの論文指導ゼミである。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-23	単位数	2	学 期	通年
担当教員	浅井 幸子				
授業科目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講義題目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Teacher Professional Development				

授業の目標・概要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授業計画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授業の方法	個別指導とグループ指導を予定している。
成績評価方法	研究の成果によって評価を行う。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-301-24	単位数	2	学 期	通年
担当教員	浅井 幸子				
授業科目	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)				
講義題目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Teacher Professional Development				

授業の目標・概要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授業計画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授業の方法	個別指導とグループ指導を予定している。
成績評価方法	研究の成果によって評価を行う。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-01	単 位 数	2	学 期	集中
担当教員	濱田 秀行				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)				
講義題目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授業の目標・概要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育実践について議論ができるようになる。
授業計画	1. オリエンテーション 2-3. 研究対象としての国語科授業実践の特徴 4. 「読むこと」に関する理論 5. 読解力の定義 6. 国語科における指導方法 7-8. 「読むこと」(文学的な文章)の学習指導とその評価 9. 「指導と評価の一体化」10. 授業研究のための教材分析 11-12. 授業事例の分析演習 13. 教科「国語」を教えるための学び
授業の方法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成績評価方法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教科書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
その他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-302-02	単 位 数	2	学 期	集中
担当教員	永田 佳之				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)				
講義題目	地球規模課題と ESD Global Issues and ESD				

授業の目標・概要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるであろう — 環境教育や ESD の論客である David Orr が私たちにこう問いかけたのは 30 年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかの(正答のない問い)を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキスタイルとして、縦糸として「教育開発」を、横糸として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授業計画	1 基本的な問いの共有 2 持続可能な社会と教育 3 環境教育・ESD・Efs 4 エコフォビアを超えて 5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代 6 気候変動の本質的な課題 7 不確実性の時代と学校教育 8 ESD の来し方行く末① 9 ESD の来し方行く末② 10 ESD for 2030 - SDGs と教育 - 11 世界の優良実践① 12 世界の優良実践② 13 日本の教育を捉え直す 14 人新世時代の教育学の課題 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授業の方法	〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議も適宜、取り入れていく。
成績評価方法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教科書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社、2020 年
履修上の注意・備考	事前に文献をよく読んで授業に臨むこと。
その他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.com ・BE*hive(暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・ Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-302-03	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	有本 真紀				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (芸術教育・基礎研究)				
講義題目	芸術教育の歴史社会学 Historical Sociology of Art Education				

授業の目標・概要	音楽は、個人で練習したりレッスンを受れたり、学校および学校外において集団で学習や活動を行ったり、あるいは社会の中でさまざまな機会やメディアを通して意識的にも無意識的にも学ばれている。これらの活動は、たとえば個人の身体性の面から見ても、音楽による共同体の生成といった社会との関係から見ても興味深く、感情に作用を与えやすいこと、時間芸術であるといった点をはじめとして、多くの特徴をもっている。そうした音楽教育・音楽学習を歴史社会学の視点から捉え、現代社会において音楽を学ぶことに関する考察を深めることを目標とする。考察の対象は学校教育の中に限らず、乳幼児から高齢者、障害のある人、文化的マイノリティなど、さまざまな立場の人にとっての音楽の学びとする。各回を通じ、「音楽による社会化」「個人と音楽/社会と音楽」を問い直す意識を根底に置いて進めたい。
授業計画	以下に例示するテーマの中から、履修者の問題関心に照らして文献を指定し、また関連文献を挙げて、それらについての検討と議論を行う。関連文献は、発表担当者とも相談の上、選定する。例示した他にも、「音楽による社会化」にかかわるテーマであれば、提案を取り上げたい。・人と音楽行動の根源・儀式と音楽・芸としての音楽(芸事、稽古、レッスン)・近代学校の中の音楽科教育・音楽科の教員養成・専門教育としての音楽教育・教養教育としての音楽教育、市民社会と音楽教育・社会教育と音楽・音楽教育とジェンダー・メディアと音楽教育・音楽教育におけるジャンルの問題・音楽教育と記憶、高齢化社会における音楽教育
授業の方法	講義と発表および議論を組み合わせて進める。発表担当者は関心のあるトピックを決めて指定文献・関連文献の内容の整理と論点の提示を行う。発表に関わる文献、発表資料は、授業の3日前までに ITC-LMS にアップロードできるよう、準備をお願いする。履修者は、事前に文献、資料に目を通した上で授業に参加し、グループおよび全員による議論を通して理解を深める。可能であれば、聞き取り調査などの方法を取り入れたい。履修人数やオンラインの通信状況によっては、調整や変更が生じる可能性があります。オンラインであっても極力双方向でやりと
成績評価方法	議論への貢献と担当部分の報告内容(50%)、および最終レポート(50%)による。
教科書	なし
履修上の注意・備考	履修者は、ITC-LMS にアップロードされた文献、発表資料に事前に目を通した上で、授業に参加してください。発表担当になった方は、発表に関わる文献、発表資料を授業の3日前までに ITC-LMS にアップロードできるよう、準備をしてください。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-302-04	単位数	2	学期	A2
担当教員	荒木 啓史				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)				
講義題目	Research Methods in Education Research Methods in Education				

授業の目標・概要	Are you a quantitative researcher or a qualitative researcher (or a mixed methodologist)? This is a frequently asked question in academia. However, what do “quantitative” and “qualitative” mean in educational research? Aren’t there any risks by adopting this dichotomous perspective when you investigate your research question? Understanding the advantages and limitations of various research methods, ranging from classical approaches to state-of-the-art ones, is essential for students to conduct quality independent research whilst critically assessing prior academic work. This course aims to develop students’ knowledge and skills concerning research methods in education via lectures, discussions, and presentations. Having successfully completed the course, students will be able to:- understand and explain the basic concept, advantages, and limitations of research methods in education;- critically assess previous educational research in terms of research methods;- design and use appropriate research methods in accordance with their own research interests/questions.
授業計画	■Day 11. Introduction to research methods in education 2. Research questions 3. Literature review ■Day 24. Qualitative research 1: Scope and basic concepts 5. Qualitative research 2: Application and further development 6. Quantitative research 1: Scope and basic concepts 7. Quantitative research 2: Application and further development ■Day 38. Mixed methods 1: Scope and basic concepts 9. Mixed methods 2: Application and further development 10. Research writing ■Day 411. Presentation by students 112. Presentation by students 213. Summary and feedback
授業の方法	I will give an introductory lecture at the beginning of each class, followed by discussions around the advantages and limitations of existing research methods in education. Students are encouraged to read the relevant literature (see “Reference” below) be
成績評価方法	Term paper (30%); Presentation (20%); Minute papers (30%); Contribution to discussions in classes (20%).
教科書	There is no textbook for this course. I will prepare presentations for each class and share them with students. In the meantime, students are encouraged to read the literature as indicated below.
履修上の注意・備考	Although the primary language of instruction will be English, all students regardless of English proficiency are welcome to take this course. If you are interested in this course but foresee a clash with other courses and/or assignments, please feel free
その他	Classes might be held via Zoom.

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-302-05	単位数	2	学 期	S1
担当教員	藤村 宣之				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・発展研究)				
講義題目	数学的・科学的思考の発達と授業過程 Development of Mathematical and Scientific Thinking and Instructional Processes				

授業の目標・概要	子どもの数学的思考・科学的思考の発達と授業過程について、教育心理学や発達心理学領域の領域で、どのような知見が得られているか、またどのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能かについて、教科書や国内外の学術誌掲載論文等の実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。数学的思考、科学的思考の発達については、問題解決(problem solving)、概念変化(conceptual change)、概念的理解(conceptual understanding)と手続き的知識(procedural knowledge)の関係性、他者との社会的相互作用(social interaction)などに焦点をあて、認知発達研究や個別・協同介入研究の知見やそれを導く心理学的方法論について、解説と検討を行う。数学、科学に関する授業過程については、探究や協同を含む教科学習の認知プロセスに焦点をあて、その知見と方法論について解説と検討を行う。
授業計画	1: 数学的思考・科学的思考をめぐる状況と教育心理学・発達心理学研究2: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点①手続き的知識3: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点②概念的理解4: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点③定型的問題解決5: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点④非定型的問題解決6: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点①概念変化7: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点②探究過程8: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点③社会的相互作用9: 教科学習の認知プロセス①授業を通じた言語的思考の高まり10: 教科学習の認知プロセス②授業を通じた数学的思考の高まり11: 教科学習の認知プロセス③授業を通じた科学的思考の高まり12: 教科学習の認知プロセス④思考・理解の時間的・空間的広がり13: 教科教育の心理学の展開: 発達と学習の相互関係を探る
授業の方法	授業の内容について、教科書や参考書を用いて教員が解説を行い、参加者全体で質疑、討論を行う。また指定した文献について、各参加者はレポートとコメントを行い、参加者全体で討論を行う。基本的にオンラインで授業を行う。
成績評価方法	期末レポート、授業時のレポート、および授業への参加状況を総合して評価する。
教科書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018年)
履修上の注意・備考	授業におけるレポートに加えて、他の参加者のレポートや教員による解説に関する討論への積極的な参加が望まれる。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-302-06	単位数	2	学期	A1A2
担当教員	斎藤 兆史				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)				
講義題目	英語教授法 English Language Teaching Methodologies				

授業の目標・概要	外国語教授法、特に英語教授法に関する諸理論を細かく検討し、それらが日本の学校英語教育に応用可能なものかどうかを議論する。
授業計画	第1回: Grammar-Translation Method 第2回: 訳読第3回: Oral Method 第4回: Audio-Lingual Method 第5回: Total Physical Response 第6回: Suggestopedia 第7回: Silent Method 第8回: Oral Introduction 第9回: Communicative Approach 第10回: Task-Based Language Teaching 第11回: Focus on Form 第12回: Content and Language Integrated Learning 第13回: 多読第14回: その他の教授法 第15回: まとめ
授業の方法	毎回の発表担当者がそれぞれの教授法の歴史、理論、実践などについて調査し、それを授業で発表する。その発表に基づいて議論をし、それぞれの教授法についての理解を深めるとともに、それらが現在の日本の英語教育の現場に応用可能なものかを検討する。
成績評価方法	授業への貢献度、発表、授業への取り組み、最終レポートを総合的に評価する。
教科書	使用しない。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても授業で扱う教授法を勉強し、問題意識を持って授業に臨むこと。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-302-07	単位数	2	学期	A1
担当教員	北村 友人				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)				
講義題目	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts Education in the Era of Globalization: Asian Contexts				

授業の目標・概要	This course aims at helping students better understand current situations of education in Asia, particularly under the influence of globalization. We will discuss theoretical, institutional and practical dimensions of education, with particular interests of how education could contribute to the promotion and realization of more sustainable society.
授業計画	1. Introduction to the course 2. Globalization and education 3. Global education networks and discourses 4. Global model of education and international agencies 5. Education for Sustainable Development (ESD) 6. Local contexts of education and global mobility of the people 7. Concluding session
授業の方法	Each student will assign one of the reading materials and make presentation on it in the class. Based on the presentation, we will discuss various issues raised in the reading material. Also, students will write a short essay for each reading material to
成績評価方法	Final term paper (30%), In-class presentation (30%), Short essays for reading materials (20%), Participation and contribution to discussion in classes (20%)
教科書	Joel Spring (2015) Globalization of Education: An Introduction (2nd Edition). New York and London: Routledge.
履修上の注意・備考	Active participation in the discussion is expected.
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-302-08	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	木村 元				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	日本の学校の歴史的形成 Historical formation of Japanese schools				

授業の目標・概要	<p>学校方式という人間形成は人類史的に特殊な文化伝達によってなされている。近代社会が学校方式を導入し、そこでの文化伝達としてのペダゴジーという視点を持ちながら日本の学校史を理解する。その際に、制度としての学校が実際にどのように生きられたのか、教える(-学ぶ)ということを成り立たせているペダゴジーの様態を示そうとする教育制度の社会史という見方で日本の学校の展開史を捉える。日本の学校の展開を4重構造で捉える見方を示してきたが、新たに「境界線の学校史」という視点も含めて理解したい。日本の社会の人間形成の転換である学校方式への移行を導入・移行期、定着期、展開期という枠のもとで捉え、今日の状態を捉えるための視点を得る。レクチャーと報告から授業は構成されるが、時間的な制約があるためどこに力点を置くかは参加者との関係で定めたい。到達目標として以下を挙げておきたい。・日本の学校の歴史的展開の概要がつかめる・日本のペダゴジー形成と学校批判の系譜がつかめる・学校制度の周辺と周縁に注目して学校史を捉えられる</p>
授 業 計 画	<p>1.授業の全体の説明 2.習俗の人間形成と人口動態 3.文化伝達の転換と学校の成立 4.近代学校の日本への移入 5.日本型近代学校の形成 6.日本の学校システムの確立 7.日本型近代学校の定着をめぐる葛藤 8. 戦時化体制下の教育と学校 9.戦後の学校:戦後教育の出発と学校制度 10.学校化社会への胎動 11.周縁の学校から 12.周辺の学校から 13. 周縁の教育領域の動向から 14. 周辺の教育領域の動向から 15. 学校化社会の新動向:まとめにかえて</p>
授 業 の 方 法	レクチャーと報告を踏まえたディスカッション
成 績 評 価 方 法	RP,報告、議論を含めた授業への貢献 60%、最終レポート 40%
教 科 書	木村元編『境界線の学校史』(東京大学出版会、2020年) 後半の講読で用いる
履修上の注意・備考	最初の授業で学習の仕方、授業の進め方等について説明します。受講者の人数や状況によってやりかたや構成を調整したいと思います。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-302-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	石黒 広昭				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講義題目	学習と発達に対する社会歴史的アプローチ Sociohistorical approach to Learning and Development				

授業の目標・概要	この授業では、社会・文化・歴史的アプローチの立場から人の発達と学習、教授について検討する。ヴィゴツキー学派の心理学の基本的な方法論と問題意識を確認し、人間とモノなど多様なものの出会いからなる複雑な教育・保育実践の理解を深める。履修者と共に学習実践の在り方について議論したい。
授業計画	初回は授業紹介を行う。その後の授業は主に三つの内容で構成される。まず、最初の数回は、ヴィゴツキー学派の心理学における学習と発達、教授に対する基本事項を文献に基づいて解説し、確認していく。その後は、ヴィゴツキー学派の見解の拡張を試みようとする研究論文(主に英文)を履修者に報告してもらい、皆でその理論的課題や有効性を検討する。特に、学習と教授の間にある緊張関係について理解を深めたい。さらに、可能であれば、履修者が関心を持つフィールドや文献の中から具体的な事例を取り上げ、事例分析を行いたい。
授業の方法	演習形式で実施する。履修者には指定された文献と事例分析の報告が求められる。
成績評価方法	平常点(報告と討議参加、授業に関連した問いを自分で設定した最終総括レポートの提出)
教科書	購読論文は授業時に配布、または指示する。
履修上の注意・備考	指定文献を事前に読んで議論に参加すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-302-10	単 位 数	2	学 期	A2
担当教員	村井 尚子				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講義題目	ヴァン・マーネンの教育学 The Pedagogy of van Manen				

授業の目標・概要	現象学的手法を用いて教育学研究を行っているカナダの教育学者マックス・ヴァン＝マーネンの教育学について、文献、論文を読みながらディスカッションを行う。また、現象学的な記述の練習を行い、読み合わせ、書き直しを重ねながら、最終的にできるかぎり生きられた経験を生きられたままに記述できるようになることをめざす。
授業計画	ヴァン＝マーネンの教育学ケアと教育のあいだ教育的の時間性と教育的タクト現象学的記述の実践(ユトレヒト学派の現象学)4日間の集中講義となるので、上記のテーマをおおよそ一日に一つ扱う。
授業の方法	あらかじめ指定した論文、資料を読んだうえで授業に臨み、毎回のトピックについてのディスカッションを行う。また、現象学的記述の実践を行い、互いに読み合いながら記述の精度を上げていく。
成績評価方法	ディスカッションへの参加、現象学的記述の提出、最終レポート
教科書	教科書は指定しないが、あらかじめ論文、資料を提示するので毎回読んだうえで授業に臨むこと。
履修上の注意・備考	オンラインになる可能性があるため、注意してください。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-302-11	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	中川 律				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講義題目	現代教育法の課題 Contemporary Issues in Education Law				

授業の目標・概要	本授業は、教育法学の基本的な知識を土台に、現代における教育をめぐる諸課題を、法律学の視点から考察できるようになることを目標とするものである。内容は、教育裁判、教育制度、教育政策などを素材に、日本の現代的な動向を考察することに重点を置く(もちろん、比較法的な視点や歴史的な視点からの考察を排除するわけではない)。
授業計画	各回の内容は受講者と相談のうえ決定する予定だが、おおよそ次のような内容について取扱うことができると考えている。1 教育制度の憲法論 中川律「教育制度の憲法論:2006年教育基本法の下での教育制度改革に関する考察」佐々木弘通・宍戸常寿編『現代社会と憲法学』(弘文堂、2015年)2 教師の教育の自由の射程——「日の丸・君が代」裁判、七生養護学校性教育裁判 中川律「教師の教育の自由」法学セミナー712号(2014年) 中川律「教師の教育の自由の射程:旭川学力テスト事件最高裁判決再読」阪口正二郎・江島晶子・只野雅人・今野健一編『憲法の思想と発展:浦田一郎先生古稀記念』(信山社、2017年) 中川律「『日の丸・君が代』訴訟——到達点と課題」教育1089号(2012年) 3 教科書検定制度改革 中川律「改めて憲法を考える(23)教科書検定制度と政府見解」時の法令1978号(2015年) 中川律「教科書検定制度に関する考察」日本教育法学会年報44号(2015年)4 教育勅語のどこが問題なのか? 中川律「改めて憲法を考える(37)教育勅語のどこが問題なのか?: 道徳教育のあり方を考えるために」時の法令2035号(2017年) 中川律「国家の中立性概念の意味と意義: 教育を題材に」『憲法問題』29号(2018年)5 政治教育の仕組みはどうあるべきか? 中川律「改めて憲法を考える(29)学校での政治教育の仕組みは、どうあるべきか?: 18歳選挙権をめぐる1つの論点」時の法令1994号(2016年)6 高校生の政治的活動——文科省の新通知の問題点 中川律「改めて憲法を考える(32)高校生の政治的活動: 文科省の新通知の問題点」時の法令2007号(2016年)7 教育委員会制度改革 中川律「改めて憲法を考える(14)教育委員会制度と教育を受ける権利: 改正地方教育行政法を考える」時の法令1960号(2014年)8 学問の自由と大学の自治 中川律「改めて憲法を考える(17)大学の自治: 改正学校教育法・国立大学法人法を考える」時の法令1966号(2014年)9 憲法を改正すれば教育は良くなるのか? 中川律「教育の無償化は憲法改正によって実現されるべきものなのか?」阪口正二郎・愛敬浩二・青井未帆『憲法改正をよく考える: Taking Constitution Seriously』(日本評論社、2018年)10 朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える 中川律「朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える: 3つの地裁判決を素材に」法学セミナー757号(2018年) 中川律「朝鮮高校と「不当な支配」の禁止: 授業料無償化不指定裁判を考える」時の法令2067号(2019年)11 学習権の概念と内外事項区分論再考 中川律「教育法学における「原理の問題」——憲法学的視点からの批判への応答」日本教育法学会年報50号(2021年近刊)
授業の方法	基本的には、毎回受講者の一人が報告を担当し、それを受けて他の参加者も含めて議論をする演習形式を予定している。文献読解や一定のテーマに関する報告など、受講者と相談のうえ決定する。*状況によってはオンライン授業となることもあります。その場合には、下記のオンライン授業URL(オンライン授業となった場合に記載します)からエクセルワークシートに移動して、Zoomのオンライン会議に参加してください。受講にあたっての事前の質問等は、エクセルワークシートに書いておいてください。答えることができる範囲でお答えします。
成績評価方法	演習での報告、発言の内容等の受講者の平常の様子を総合的に評価する。*オンライン授業となった場合には、状況に応じて受講者に課題を提出してもらって、それを評価の素材の一つとすることもあります。
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	教育法に関心がある者。

そ の 他	<p>オンライン授業となった場合には、ITC-LMS を通じて資料配布を行います。初回の授業前にチェックしてください。オンライン授業の方法などに関して、シラバスの内容の更新を適宜行いますので、受講希望の者は適宜チェックするようにしてください。* 履修予定であるが、何らかの理由で初回のオンライン授業に参加できないという方は下記のメールアドレスまでご連絡ください。</p>
--------------	---

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-302-12	単位数	2	学 期	A1
担当教員	坂部 真理				
授業科目	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)				
講義題目	教育政策の比較政治学的分析 A Comparative Political Analysis of Education Policy				

授業の目標・概要	<p>本講義では、政治学(ときに比較政治学や政治経済学)の視点から、現代の教育改革を牽引し方向づけている政治的ダイナミズムを分析する上で有益と思われる諸概念・アプローチを習得することを目標とします。近年、各国で推進されてきた教育改革には、NPM の導入や「人的資本投資」の強調など、ある一定の共通性が見られます。しかし、それら諸改革の成否や方向性については、国家間で差異も存在します。この国家間の教育改革の多様性を理解する上では、各国特有の制度構造(「制度遺制」)や、政府(政党、官僚など)―社会集団―有権者などの間に作用する政治力学を分析することが重要です。本講義の担当者(坂部)は、教育学ではなく、政治学を専門とする教員です。政治学の分野には、「下位政府」「福祉-生産レジーム」「経路依存性」「政策学習」「制度変化と再生産のダイナミズムの関係」など、教育に関わる政治力学を分析する上で有益な諸概念・アプローチが存在します。本講義を受講する上で、あらかじめ学部等で「政治学」関連の講義を履修している必要はありません(まったく初学者でも大丈夫です)。各国の教育政策の形成や変化のプロセスを、政治学の諸概念を用いて分析する手法を基礎から学び、将来的に受講生の皆さんが教育学―政治学を横断する学際的研究を発展させていくための「土台」を築くことを目標とします。</p>
授業計画	<p>・詳細は、初回講義で決定します。第1回 イントロダクション第2～7回 テキストの講読とディスカッション(2コマ連続の講義です)</p>
授業の方法	<p>・毎回、指定された文献を講読し、ディスカッションを行います(各回一人ずつ、報告を担当)。・講義の形式(オンライン／対面式のいずれか)は、コロナ等の状況に応じて、後日決定します。</p>
成績評価方法	<p>各自が担当する回での報告:30%、ディスカッションへの参加状況:70%として評価します。</p>
教科書	<p>・使用するテキストは、受講者の研究テーマや関心を考慮しつつ、初回講義で決定します。現段階では、以下の文献の中から選択する予定です。【近年の福祉国家の再編、社会的投資国家、その中での公教育の位置づけの変化などに関する文献】①Nathalie Morel, Bruno Palier and Joakim Palme (eds.), Towards A Social Investment Welfare State?., The Policy Press, 2012.②Anton Hemerijck, Chan</p>
履修上の注意・備考	<p>・二時間連続で受講してください。・政治学的分析に関心があれば、専攻分野・研究テーマにかかわらず受講可能です(初学者歓迎)。</p>
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-13	単位数	2	学期	S1S2
担当教員	斎藤 兆史				
授業科目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)				
講義題目	言語教育の事例研究 Case Studies on Language Education				

授業の目標・概要	言語教育の実践を、個々の指導現場での事例に即して分析することにより、言語教育についての理解を深め、よりよい言語教育の理論と方法論を研究する。まず言語教育および事例研究の理念と方法論について概観したのち、主にビデオやDVD資料を用いて、さまざまな言語教育の実践を個々の事例に即して見ていく。
授業計画	第1回: ガイダンス第2回: 日本の初等教育における外国語活動の事例(小学校)第3回: 日本の中等教育における英語教育の事例(中学校)第4回: 日本の中等教育における英語教育の事例(高等学校)第5回: 日本の高等教育における英語教育の事例(大学)第6回: 日本における国語教育の事例第7回: 日本における外国人に対する日本語教育の事例第8回: 英語圏における英語話者に対する英語教育の事例第9回: 英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(初級)第10回: 英語圏における非英語話者に対する英語教育の事例(中・上級)第11回: 日本における英語以外の外国語教育の事例第12回: 外国における英語以外の外国語教育の事例第13回: 日本における特殊な英語教育の事例(早期教育、イマージョンなど)第14回: その他の事例第15回: まとめ
授業の方法	毎回一つの事例を取り上げ、発表担当者がそれについて概説し、問題点や注目すべき点を指摘したのち、履修者全員でその事例についての討論を行う。
成績評価方法	発表、授業への取り組み、レポートを総合的に評価する。
教科書	プリント使用。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても事例を細かく分析し、問題意識を持って授業に臨むこと。なお、当面オンラインで授業を進めるので、本授業の履修を希望する学生は、初回の授業時まで「言語教育の事例研究履修希望」の件名をつけ、氏名、所属、学年、専門などを明記し、本授業のメーリングリストで用いるアドレスの eigojirei2021@googlegroups.com(本授業の履修上のやり取り以外の用途には使用しない)に、メーリングリストに載せてもいい自身のアドレスから送信すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-302-14	単 位 数	2	学 期	A2
担当教員	藤村 宣之				
授業科目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)				
講義題目	教科教育の心理学的事例研究 Psychological Case Studies on Learning in Subject Areas				

授業の目標・概要	各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。中等教育を中心とした各教科の授業について、授業記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し、その方法に熟達することを目標とする。中等教育における各教科(数学科, 理科, 国語科)の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について、発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い、心理学の視点から考察を行う。
授業計画	1: イントロダクション2: 授業の心理学的分析の方法3: 中学校数学科授業の事例研究①(個別探究)4: 中学校数学科授業の事例研究②(協同探究)5: 高校数学科授業の事例研究①(個別探究)6: 高校数学科授業の事例研究②(協同探究)7: 中学校理科授業の事例研究①(個別探究)8: 中学校理科授業の事例研究②(協同探究)9: 高校理科授業の事例研究①(個別探究)10: 高校理科授業の事例研究②(協同探究)11: 中学校国語科授業の事例研究①(個別探究)12: 中学校国語科授業の事例研究②(協同探究)13: 高校国語科授業の事例研究(個別探究・協同探究)
授業の方法	各教科の授業についての指導案, ワークシート等の資料にもとづいて, 個別に検討を行い(個別探究), 集団での発表・検討・討論(協同探究)を行った後, さらに個別に考察を深める。基本的にオンラインで授業を行う。
成績評価方法	授業時の発表・小レポートおよび最終レポートによる。
教科書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018年)
履修上の注意・備考	各回の授業およびそこでの討論への参加, 個別探究時の小レポート, および最終レポートの提出が必要である。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-302-15	単位数	2	学期	A1
担当教員	藤江 康彦				
授業科目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)				
講義題目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授業の目標・概要	<p>授業研究をはじめとする教育実践研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究や教育実践研究の、教育学研究、教師の学習環境、教師の学習を支える研究的実践、などの多様な在り方について理解し、研究者、実践者としてどのように取り組んでいくかを考察することを目指す。研究者として、あるいは実践者としてどのように授業研究を進めていくのか、について研究手法も含めて検討する。教育実践研究において多くとられる事例研究や質的研究について、その進めかたや留意点、認識論について理解することを通して、質の高い授業研究や教育実践研究のあり方についても検討する。また、さまざまな校種や教科の授業における映像記録、逐語記録、授業記録、実践記録などの視聴や読み取りを通して、授業、子ども、教師、教材の多様性と固有性、相互関係のあり方の複雑性や相補性などについて、検討し考察する。自分や他者が記録をどう切り出してきたか、どう読み取ったかを交流することを通して、授業、子ども、教師教材などをとらえる視点をメタ的にとらえ事例への視点の多様性や固有性について気づくとともに、授業を対象として分析研究を行う際の方法を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回: 授業研究、事例研究の基本的な考え方 第2回: 文献購読① 第3回: 文献購読② 第4回: 文献購読③ 第5回: 事例分析① 第6回: 事例分析② 第7回: 事例分析③</p>
授業の方法	<p>文献購読については一回の授業ごとに国内外の授業研究や事例研究、質的研究に関する文献を複数選び、分担者を決めて購読する。購読ののちグループ協議、全体協議をおこなう。事例分析については、①全員で①単位時間の授業事例をみて検討、②同一授業記録をグループで検討、の形をとる予定である。授業の実施形態がオンラインか対面かによって記録の共有や検討する協議などの方法が異なるので、授業の初回時に説明する。</p>
成績評価方法	<p>演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。</p>
教科書	<p>使用しない</p>
履修上の注意・備考	<p>文献購読や授業映像の文字起こしや分析作業は、授業時間外での作業やグループワークが発生する場合がある。このことを了承のうえで参加されたい。</p>
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-302-16	単位数	2	学期	S2
担当教員	浅井 幸子				
授業科目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)				
講義題目	教職の事例研究 Case Studies of Lessons				

授業の目標・概要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授業計画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の記録や授業研究の論文を読む。コロナウイルスの流行状況によっては、授業の参観は行わない。
授業の方法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成績評価方法	参加と課題レポートによる。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	特になし。

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時間割コード	23-302-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)				
講 義 題 目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授業の目標・概要	学校におけるフィールドワーク(授業観察・調査など)のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低2単位は東京大学附属中等学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。
成績評価方法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	フィールドワークを実施する際には、15 時間以上実施することが必要である。本講義の履修にあたっては、すでに事例研究を履修していることが条件となる。また、東京大学教育学部附属中等教育学校で開催される公開研究会への参加を、基本的に必須とする(研究会は、2022 年 2 月中旬に開催予定)。もしこの研究会への参加が難しいと予想される場合は、事前に担当教員に相談をすること。
そ の 他	基本的に、対面での講義ならびに現地でのフィールドワークを行う予定だが、新型コロナウイルス感染の状況次第では、オンラインを活用する可能性もあることに留意されたい。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-18	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	浅井 幸子				
授業科目	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)				
講義題目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授業の目標・概要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授業計画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。コロナウイルスの流行状況によっては、フィールドワーク期間の短縮や中止等、授業内容の変更を行う。
授業の方法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学付属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会への参加がもとめられる。
成績評価方法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教科書	必要に応じて支持する。
履修上の注意・備考	フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを15時間以上実施することが必要である。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-302-19	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	斎藤 兆史				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)				
講義題目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授業の目標・概要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授業計画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授業の方法	基本的に面談指導を行う。
成績評価方法	論文執筆に向けての計画、資料収集の状況、執筆の進度、論文の内容、面談への取り組みなどを総合的に評価する。
教科書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時間割コード	23-302-20	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	斎藤 兆史				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)				
講義題目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授業の目標・概要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授業計画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授業の方法	基本的に面談指導を行う。
成績評価方法	論文執筆に向けての計画、資料収集の状況、執筆の進度、論文の内容、面談への取り組みなどを総合的に評価する。
教科書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
その他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時間割コード	23-302-21	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	藤村 宣之				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)				
講義題目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授業の目標・概要	教科教育(算数・数学教育, 科学教育など)に関連する研究について, 修士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に, 研究の進め方, 論文の書き方などに関する指導を行う。
授業計画	各参加者の研究テーマに関して, 先行研究の検討, 研究目的・研究計画の設定, 実証的研究の実施, 研究結果の心理学的分析, 分析結果にもとづく考察について, 研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授業の方法	参加者は, 一人ずつ自身の研究テーマについてのプレゼンテーションを行い, その発表内容について, 参加者全員で集団的に検討を行う。基本的にオンラインで授業を行う。
成績評価方法	授業におけるプレゼンテーションの内容, および授業への参加度にもとづいて評価する。
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	原則として, 自身が研究発表を行うだけでなく, 他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-22	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	藤村 宣之				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)				
講義題目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授業の目標・概要	教科教育(算数・数学教育, 科学教育など)に関連する研究について, 博士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に, 研究の進め方, 論文の書き方などに関する指導を行う。
授業計画	各参加者の研究テーマに関して, 研究の全体構想, 先行研究の検討, 研究目的・研究計画の設定, 実証的研究の実施, 研究結果の心理学的分析, 分析結果にもとづく考察について, 研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授業の方法	参加者は, 一人ずつ自身の研究テーマについてのプレゼンテーションを行い, その発表内容について, 参加者全員で集団的に検討を行う。基本的にオンラインで授業を行う。
成績評価方法	授業におけるプレゼンテーションの内容, および授業への参加度にもとづいて評価する。
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	原則として, 自身が研究発表を行うだけでなく, 他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-23	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	北村 友人				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)				
講義題目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授業の目標・概要	修士論文ならびに博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授業計画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授業の方法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導を中心とするが、必要に応じて集団での討論なども行うことがある。
成績評価方法	学位論文の執筆へ向けて、個別にどの程度達成できているかを評価する。
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-24	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	北村 友人				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)				
講義題目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授業の目標・概要	修士論文ならびに博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授業計画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授業の方法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導を中心とするが、必要に応じて集団での討論なども行うことがある。
成績評価方法	学位論文の執筆へ向けて、個別にどの程度達成できているかを評価する。
教科書	とくになし
履修上の注意・備考	とくになし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-25	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	有本 真紀				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)				
講義題目	芸術教育論文指導 Dissertation Research in Art Education				

授業の目標・概要	主に音楽教育にかかわるテーマで研究論文を執筆するための指導を行う。
授業計画	初回に、履修者個別の研究関心と研究計画を聞いたうえで、その後の執筆計画を立てる。論文執筆を進める中で、問題関心と研究の目的、先行研究のレビュー、研究の理論的枠組み、研究方法、史資料やデータの分析、などについての理解を深める。
授業の方法	年度の初めに履修者との面談を行い、それぞれの研究関心に沿って論文執筆のための指導を行う。状況に応じて、個別指導とグループでの討論や検討を組み合わせる。
成績評価方法	それぞれの研究への取り組みを総合的に判断して評価する。
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	履修を考えている方は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-302-26	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	有本 真紀				
授業科目	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)				
講義題目	芸術教育論文指導 Dissertation Research in Art Education				

授業の目標・概要	主に音楽教育にかかわるテーマで研究論文を執筆するための指導を行う。
授業計画	初回に、履修者個別の研究関心と研究計画を聞いたうえで、その後の執筆計画を立てる。論文執筆を進める中で、問題関心と研究の目的、先行研究のレビュー、研究の理論的枠組み、研究方法、史資料やデータの分析、などについての理解を深める。
授業の方法	年度の初めに履修者との面談を行い、それぞれの研究関心に沿って論文執筆のための指導を行う。状況に応じて、個別指導とグループでの討論や検討を組み合わせる。
成績評価方法	それぞれの研究への取り組みを総合的に判断して評価する。
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	履修を考えている方は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	勝野 正章				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・基礎研究)				
講義題目	現代学校改革の諸問題 Issues in Contemporary School Reforms				

授業の目標・概要	現代日本(及び諸外国)の学校改革に関する政策や制度改革、及びその学校教育に及ぼす影響について、考察を深めることを目的とし、そのために必要な理論や概念の獲得を目指す。授業は、その週でとりあげる理論・概念や課題について、指定された文献の内容を基に議論を行い、理解を深める形で進める。参加者は、指定された文献を読んで、内容に関する意見・疑問を整理して授業に臨み、議論に参加することが求められる。
授業計画	文献リスト及びスケジュールは3月末までにITC-LMSに掲示するので確認すること。
授業の方法	予め指定された文献を読んで、感想・意見・疑問点などをA4で1枚程度にまとめ、授業日の3日前(月曜日)午後9時までにITC-LMSを通じて提出すること。授業日には、感想・意見・疑問点を基に議論を行う。
成績評価方法	課題の提出、及び授業での議論への参加を総合して評価する。
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	なし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-303-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担当教員	村上 祐介、橋野 晶寛				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)				
講義題目	教育政策基礎論 Foundation of Education Policy				

授業の目標・概要	この授業の目的は、教育政策・行政の研究に関する理論的視点や知識を習得することにある。単に教育に関する法制度や政策について知るだけでなく、教育政策・行政に関する理念・価値や考え方としてどのような類型や対立軸があるのかを理解し、教育政策・行政を考えるうえでの分析視角を獲得することが目標である。
授業計画	※受講者の状況により、順序は変更することがある。※前半を橋野、後半を村上が担当する。1 授業に関するガイダンス 2 教育政策・財政の基礎Ⅰ 3 教育政策・財政の基礎Ⅱ 4 教育政策・財政の基礎Ⅲ 5 教育政策・財政における諸問題Ⅰ 6 教育政策・財政における諸問題Ⅱ 7 教育政策・財政における諸問題Ⅲ 8 事前統制と事後統制 9 権力の集中と分散 10 集権と分権 11 統合と分立 12 民主性と専門性 13 個別行政と総合行政
授業の方法	内容について討議を行いながら授業を進める。事前に課題文献を読んでおくことを前提とする。発表者を設定する場合は、事前または授業時に発表資料を提出する。前半については、教科書の内容をふまえて教育政策・財政に関する洋図書について輪読する(文献は複数の候補の中から 1 冊を選択)。後半については、教科書の該当章及び各回ごとに指定する文献を講読する。
成績評価方法	平常点(授業への参加)とレポートによる。
教科書	村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣
履修上の注意・備考	・事前に文献に目を通す時間を確保することが求められる。・教育政策・行政に関して学部レベルの知識を有していることを前提に授業を進めるため、教育政策・行政をはじめて学ぶ場合は、早い段階で学部レベルのテキスト(参考書に挙げている文献など)に目を通しておくことが望ましい。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-03	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	中川 律				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)				
講義題目	現代教育法の課題 Contemporary Issues in Education Law				

授業の目標・概要	本授業は、教育法学の基本的な知識を土台に、現代における教育をめぐる諸課題を、法律学の視点から考察できるようになることを目標とするものである。内容は、教育裁判、教育制度、教育政策などを素材に、日本の現代的な動向を考察することに重点を置く(もちろん、比較法的な視点や歴史的な視点からの考察を排除するわけではない)。
授業計画	各回の内容は受講者と相談のうえ決定する予定だが、おおよそ次のような内容について取扱うことができると考えている。1 教育制度の憲法論 中川律「教育制度の憲法論:2006年教育基本法の下での教育制度改革に関する考察」佐々木弘通・宍戸常寿編『現代社会と憲法学』(弘文堂、2015年)2 教師の教育の自由の射程——「日の丸・君が代」裁判、七生養護学校性教育裁判 中川律「教師の教育の自由」法学セミナー712号(2014年) 中川律「教師の教育の自由の射程:旭川学力テスト事件最高裁判決再読」阪口正二郎・江島晶子・只野雅人・今野健一編『憲法の思想と発展:浦田一郎先生古稀記念』(信山社、2017年) 中川律「「日の丸・君が代」訴訟——到達点と課題」教育1089号(2012年) 3 教科書検定制度改革 中川律「改めて憲法を考える(23)教科書検定制度と政府見解」時の法令1978号(2015年) 中川律「教科書検定制度に関する考察」日本教育法学会年報44号(2015年)4 教育勅語のどこが問題なのか? 中川律「改めて憲法を考える(37)教育勅語のどこが問題なのか?: 道徳教育のあり方を考えるために」時の法令2035号(2017年) 中川律「国家の中立性概念の意味と意義: 教育を題材に」『憲法問題』29号(2018年)5 政治教育の仕組みはどうあるべきか? 中川律「改めて憲法を考える(29)学校での政治教育の仕組みは、どうあるべきか?: 18歳選挙権をめぐる1つの論点」時の法令1994号(2016年)6 高校生の政治的活動——文科省の新通知の問題点 中川律「改めて憲法を考える(32)高校生の政治的活動: 文科省の新通知の問題点」時の法令2007号(2016年)7 教育委員会制度改革 中川律「改めて憲法を考える(14)教育委員会制度と教育を受ける権利: 改正地方教育行政法を考える」時の法令1960号(2014年)8 学問の自由と大学の自治 中川律「改めて憲法を考える(17)大学の自治: 改正学校教育法・国立大学法人法を考える」時の法令1966号(2014年)9 憲法を改正すれば教育は良くなるのか? 中川律「教育の無償化は憲法改正によって実現されるべきものなのか?」阪口正二郎・愛敬浩二・青井未帆『憲法改正をよく考える: Taking Constitution Seriously』(日本評論社、2018年)10 朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える 中川律「朝鮮高校就学支援金不指定事件を考える: 3つの地裁判決を素材に」法学セミナー757号(2018年) 中川律「朝鮮高校と「不当な支配」の禁止: 授業料無償化不指定裁判を考える」時の法令2067号(2019年)11 学習権の概念と内外事項区分論再考 中川律「教育法学における「原理の問題」——憲法学的視点からの批判への応答」日本教育法学会年報50号(2021年近刊)
授業の方法	基本的には、毎回受講者の一人が報告を担当し、それを受けて他の参加者も含めて議論をする演習形式を予定している。文献読解や一定のテーマに関する報告など、受講者と相談のうえ決定する。*状況によってはオンライン授業となることもあります。その場合には、下記のオンライン授業URL(オンライン授業となった場合に記載します)からエクセルワークシートに移動して、Zoomのオンライン会議に参加してください。受講にあたっての事前の質問等は、エクセルワークシートに書いておいてください。答えることができる範囲でお答えします。
成績評価方法	演習での報告、発言の内容等の受講者の平常の様子を総合的に評価する。*オンライン授業となった場合には、状況に応じて受講者に課題を提出してもらって、それを評価の素材の一つとすることもあります。
教科書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	教育法に関心がある者。

そ の 他

オンライン授業となった場合には、ITC-LMS を通じて資料配布を行います。初回の授業前にチェックしてください。オンライン授業の方法などに関して、シラバスの内容の更新を適宜行いますので、受講希望の者は適宜チェックするようにしてください。* 履修予定であるが、何らかの理由で初回のオンライン授業に参加できないという方は下記のメールアドレスまでご連絡ください。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生

履 修 可

本 学 他 研 究 科 学 生

履 修 可

他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)

履 修 可

時間割コード	23-303-04	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	橋野 晶寛				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)				
講義題目	教育政策研究方法論 Research Design and Methods of Education Policy Studies				

授業の目標・概要	この授業では、教育政策分野における「エビデンスに基づく政策立案」および政策研究において必要とされる方法について学ぶ。教育行財政・学校経営分野での適用を念頭において、社会科学一般での因果推論の諸手法、教育政策研究で用いられる機会の多い手法について基本的な考え方を理解することを目指す。また、そうした手法の適用が対象である教育政策に関する知見の課題設定・前提・含意に具体的に何をもたらすか、という点を考察する。
授業計画	前半は「エビデンスに基づく政策立案」の核となる統計的因果推論の基本的な考え方および諸手法を学び、それをふまえて後半では受講者の問題意識に応じたトピックに関する文献を輪読する。後半は、1)統計的因果推論に基づいた教育行財政・経営分野における実証分析の検討、2)計量分析と事例分析における「因果」の考え方の相違の検討、のいずれかを扱う。1. 近年の教育政策研究の動向と課題 2. 線形回帰モデルの復習 3. 統計的因果推論の考え方 4. 因果推論の諸手法Ⅰ：RCT 5. 因果推論の諸手法Ⅱ：差分の差分法 6. 因果推論の諸手法Ⅲ：回帰不連続デザイン 7. 因果推論の諸手法Ⅳ：操作変数法 8~13. 選択したトピック
授業の方法	文献輪読(発表・議論)による。
成績評価方法	平常点(発表および授業中の発言)に基づいて評価する。
教科書	特に指定しない。都度関連資料を配布する。
履修上の注意・備考	・データ分析の入門的事項(線形回帰モデル)および R の初歩的操作を理解していることが望ましい。
その他	扱うトピックおよび検討文献の詳細は、第 1 回授業資料(事前に LMS「教材」にアップロードしておく)を参照すること。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-05	単位数	2	学 期	A1
担当教員	坂部 真理				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)				
講義題目	教育政策の比較政治学的分析 A Comparative Political Analysis of Education Policy				

授業の目標・概要	本講義では、政治学(ときに比較政治学や政治経済学)の視点から、現代の教育改革を牽引し方向づけている政治的ダイナミズムを分析する上で有益と思われる諸概念・アプローチを習得することを目標とします。近年、各国で推進されてきた教育改革には、NPM の導入や「人的資本投資」の強調など、ある一定の共通性が見られます。しかし、それら諸改革の成否や方向性については、国家間で差異も存在します。この国家間の教育改革の多様性を理解する上では、各国特有の制度構造(「制度遺制」)や、政府(政党、官僚など)―社会集団―有権者などの間に作用する政治力学を分析することが重要です。本講義の担当者(坂部)は、教育学ではなく、政治学を専門とする教員です。政治学の分野には、「下位政府」「福祉-生産レジーム」「経路依存性」「政策学習」「制度変化と再生産のダイナミズムの関係」など、教育に関わる政治力学を分析する上で有益な諸概念・アプローチが存在します。本講義を受講する上で、あらかじめ学部等で「政治学」関連の講義を履修している必要はありません(まったく初学者でも大丈夫です)。各国の教育政策の形成や変化のプロセスを、政治学の諸概念を用いて分析する手法を基礎から学び、将来的に受講生の皆さんが教育学―政治学を横断する学際的研究を発展させていくための「土台」を築くことを目標とします。
授業計画	・詳細は、初回講義で決定します。第1回 イントロダクション第2～7回 テキストの講読とディスカッション(2コマ連続の講義です)
授業の方法	・毎回、指定された文献を講読し、ディスカッションを行います(各回一人ずつ、報告を担当)。・講義の形式(オンライン／対面式のいずれか)は、コロナ等の状況に応じて、後日決定します。
成績評価方法	各自が担当する回での報告:30%、ディスカッションへの参加状況:70%として評価します。
教科書	・使用するテキストは、受講者の研究テーマや関心を考慮しつつ、初回講義で決定します。現段階では、以下の文献の中から選択する予定です。【近年の福祉国家の再編、社会的投資国家、その中での公教育の位置づけの変化などに関する文献】①Nathalie Morel, Bruno Palier and Joakim Palme (eds.), Towards A Social Investment Welfare State?., The Policy Press, 2012.②Anton Hemerijck, Chan
履修上の注意・備考	・二時間連続で受講してください。・政治学的分析に関心があれば、専攻分野・研究テーマにかかわらず受講可能です(初学者歓迎)。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	木村 元				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	日本の学校の歴史的形成 Historical formation of Japanese schools				

授業の目標・概要	<p>学校方式という人間形成は人類史的に特殊な文化伝達によってなされている。近代社会が学校方式を導入し、そこでの文化伝達としてのペダゴジーという視点を持ちながら日本の学校史を理解する。その際に、制度としての学校が実際にどのように生きられたのか、教える(-学ぶ)ということを成り立たせているペダゴジーの様態を示そうとする教育制度の社会史という見方で日本の学校の展開史を捉える。日本の学校の展開を4重構造で捉える見方を示してきたが、新たに「境界線の学校史」という視点も含めて理解したい。日本の社会の人間形成の転換である学校方式への移行を導入・移行期、定着期、展開期という枠のもとで捉え、今日の状態を捉えるための視点を得る。レクチャーと報告から授業は構成されるが、時間的な制約があるためどこに力点を置くかは参加者との関係で定めたい。到達目標として以下を挙げておきたい。・日本の学校の歴史的展開の概要がつかめる・日本のペダゴジー形成と学校批判の系譜がつかめる・学校制度の周辺と周縁に注目して学校史を捉えられる</p>
授 業 計 画	<p>1.授業の全体の説明 2.習俗の人間形成と人口動態 3.文化伝達の転換と学校の成立 4.近代学校の日本への移入 5.日本型近代学校の形成 6.日本の学校システムの確立 7.日本型近代学校の定着をめぐる葛藤 8. 戦時化体制下の教育と学校 9.戦後の学校:戦後教育の出発と学校制度 10.学校化社会への胎動 11.周縁の学校から 12.周辺の学校から 13. 周縁の教育領域の動向から 14. 周辺の教育領域の動向から 15. 学校化社会の新動向:まとめにかえて</p>
授 業 の 方 法	レクチャーと報告を踏まえたディスカッション
成 績 評 価 方 法	RP,報告、議論を含めた授業への貢献 60%、最終レポート 40%
教 科 書	木村元編『境界線の学校史』(東京大学出版会、2020年) 後半の講読で用いる
履修上の注意・備考	最初の授業で学習の仕方、授業の進め方等について説明します。受講者の人数や状況によってやりかたや構成を調整したいと思います。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時間割コード	23-303-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	石黒 広昭				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講義題目	学習と発達に対する社会歴史的アプローチ Sociohistorical approach to Learning and Development				

授業の目標・概要	この授業では、社会・文化・歴史的アプローチの立場から人の発達と学習、教授について検討する。ヴィゴツキー学派の心理学の基本的な方法論と問題意識を確認し、人間とモノなど多様なものの出会いからなる複雑な教育・保育実践の理解を深める。履修者と共に学習実践の在り方について議論したい。
授業計画	初回は授業紹介を行う。その後の授業は主に三つの内容で構成される。まず、最初の数回は、ヴィゴツキー学派の心理学における学習と発達、教授に対する基本事項を文献に基づいて解説し、確認していく。その後は、ヴィゴツキー学派の見解の拡張を試みようとする研究論文(主に英文)を履修者に報告してもらい、皆でその理論的課題や有効性を検討する。特に、学習と教授の間にある緊張関係について理解を深めたい。さらに、可能であれば、履修者が関心を持つフィールドや文献の中から具体的な事例を取り上げ、事例分析を行いたい。
授業の方法	演習形式で実施する。履修者には指定された文献と事例分析の報告が求められる。
成績評価方法	平常点(報告と討議参加、授業に関連した問いを自分で設定した最終総括レポートの提出)
教科書	購読論文は授業時に配布、または指示する。
履修上の注意・備考	指定文献を事前に読んで議論に参加すること。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-08	単 位 数	2	学 期	A2
担当教員	村井 尚子				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講義題目	ヴァン・マーネンの教育学 The Pedagogy of van Manen				

授業の目標・概要	現象学的手法を用いて教育学研究を行っているカナダの教育学者マックス・ヴァン＝マーネンの教育学について、文献、論文を読みながらディスカッションを行う。また、現象学的な記述の練習を行い、読み合わせ、書き直しを重ねながら、最終的にできるかぎり生きられた経験を生きられたままに記述できるようになることをめざす。
授業計画	ヴァン＝マーネンの教育学ケアと教育のあいだ教育的の時間性と教育的タクト現象学的記述の実践(ユトレヒト学派の現象学)4日間の集中講義となるので、上記のテーマをおおよそ一日に一つ扱う。
授業の方法	あらかじめ指定した論文、資料を読んだうえで授業に臨み、毎回のトピックについてのディスカッションを行う。また、現象学的記述の実践を行い、互いに読み合いながら記述の精度を上げていく。
成績評価方法	ディスカッションへの参加、現象学的記述の提出、最終レポート
教科書	教科書は指定しないが、あらかじめ論文、資料を提示するので毎回読んだうえで授業に臨むこと。
履修上の注意・備考	オンラインになる可能性があるため、注意してください。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-09	単 位 数	2	学 期	集中
担当教員	濱田 秀行				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講義題目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授業の目標・概要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公的な枠組みである「学習指導要領」の学力観・学習観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育実践について議論ができるようになる。
授業計画	1. オリエンテーション 2-3. 研究対象としての国語科授業実践の特徴 4. 「読むこと」に関する理論 5. 読解力の定義 6. 国語科における指導方法 7-8. 「読むこと」(文学的な文章)の学習指導とその評価 9. 「指導と評価の一体化」10. 授業研究のための教材分析 11-12. 授業事例の分析演習 13. 教科「国語」を教えるための学び
授業の方法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成績評価方法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教科書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
その他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-10	単位数	2	学 期	集中
担当教員	永田 佳之				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講義題目	地球規模課題と ESD Global Issues and ESD				

授業の目標・概要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるであろう — 環境教育や ESD の論客である David Orr が私たちにこう問いかけたのは 30 年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかの(正答のない問い)を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキスタイルとして、縦糸として「教育開発」を、横糸として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授業計画	1 基本的な問いの共有 2 持続可能な社会と教育 3 環境教育・ESD・Efs 4 エコフォビアを超えて 5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代 6 気候変動の本質的な課題 7 不確実性の時代と学校教育 8 ESD の来し方行く末① 9 ESD の来し方行く末② 10 ESD for 2030 - SDGs と教育 - 11 世界の優良実践① 12 世界の優良実践② 13 日本の教育を捉え直す 14 人新世時代の教育学の課題 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授業の方法	〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議も適宜、取り入れていく。
成績評価方法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教科書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社、2020 年
履修上の注意・備考	事前に文献をよく読んで授業に臨むこと。
その他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.com ・BE*hive(暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・ Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-11	単位数	2	学 期	S1S2
担当教員	有本 真紀				
授業科目	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)				
講義題目	芸術教育の歴史社会学 Historical Sociology of Art Education				

授業の目標・概要	音楽は、個人で練習したりレッスンを受れたり、学校および学校外において集団で学習や活動を行ったり、あるいは社会の中でさまざまな機会やメディアを通して意識的にも無意識的にも学ばれている。これらの活動は、たとえば個人の身体性の面から見ても、音楽による共同体の生成といった社会との関係から見ても興味深く、感情に作用を与えやすいこと、時間芸術であるといった点をはじめとして、多くの特徴をもっている。そうした音楽教育・音楽学習を歴史社会学の視点から捉え、現代社会において音楽を学ぶことに関する考察を深めることを目標とする。考察の対象は学校教育の中に限らず、乳幼児から高齢者、障害のある人、文化的マイノリティなど、さまざまな立場の人にとっての音楽の学びとする。各回を通じ、「音楽による社会化」「個人と音楽/社会と音楽」を問い直す意識を根底に置いて進めたい。
授業計画	以下に例示するテーマの中から、履修者の問題関心に照らして文献を指定し、また関連文献を挙げて、それらについての検討と議論を行う。関連文献は、発表担当者とも相談の上、選定する。例示した他にも、「音楽による社会化」にかかわるテーマであれば、提案を取り上げたい。・人と音楽行動の根源・儀式と音楽・芸としての音楽(芸事、稽古、レッスン)・近代学校の中の音楽科教育・音楽科の教員養成・専門教育としての音楽教育・教養教育としての音楽教育、市民社会と音楽教育・社会教育と音楽・音楽教育とジェンダー・メディアと音楽教育・音楽教育におけるジャンルの問題・音楽教育と記憶、高齢化社会における音楽教育
授業の方法	講義と発表および議論を組み合わせる。発表担当者は関心のあるトピックを決めて指定文献・関連文献の内容の整理と論点の提示を行う。発表に関わる文献、発表資料は、授業の3日前までに ITC-LMS にアップロードできるよう、準備をお願いする。履修者は、事前に文献、資料に目を通した上で授業に参加し、グループおよび全員による議論を通して理解を深める。可能であれば、聞き取り調査などの方法を取り入れたい。履修人数やオンラインの通信状況によっては、調整や変更が生じる可能性があります。オンラインであっても極力双方向でやりと
成績評価方法	議論への貢献と担当部分の報告内容(50%)、および最終レポート(50%)による。
教科書	なし
履修上の注意・備考	履修者は、ITC-LMS にアップロードされた文献、発表資料に事前に目を通した上で、授業に参加してください。発表担当になった方は、発表に関わる文献、発表資料を授業の3日前までに ITC-LMS にアップロードできるよう、準備をしてください。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	村上 祐介				
授業科目	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)				
講義題目	教育行政事例研究 I Case Study in Educational Administration I				

授業の目標・概要	この授業は、教育行政学に関する理論的な研究や事例研究を講読し、この分野における論点や課題を理解することが主な目的である。前半は、教育行政の理論的側面を論じた基本文献を扱い、後半は(日本の)教育行政学において重要と思われるトピックの基本文献を取り上げる。
授業計画	授業に関するガイダンス第 I 部 教育行政学の理論教育行政の展開、理論、構造、課題について、基本文献を検討する(下記の参考書を参照)。第 II 部 教育行政学における事例研究文部科学省、教育委員会、中央地方関係、教育財政などについて、基本文献を検討する(下記の参考書を参照)。
授業の方法	各回ごとに報告者を定め、報告者は当該文献の要点や論点などをまとめた資料を作成する。報告者以外の受講者は、当該文献に関する簡単なメモ(意義や疑問点など)を作成する。上記の資料やメモを基に議論を行う。
成績評価方法	授業への参加度と提出された資料・メモの内容により評価を行う。試験は行わない。
教科書	開講時までに指示する(履修上の注意を参照)
履修上の注意・備考	詳しい予定と取り上げる文献については、開講時までに LMS に掲載する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-13	単 位 数	2	学 期	A1
担当教員	勝野 正章				
授業科目	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・事例研究)				
講義題目	学校経営実践の開発 I Developmental Study of School Management I				

授業の目標・概要	日本と外国の学校改革を社会的・政治的文脈に位置付けるとともに、学校の組織や教育活動の性質に即して分析する。そのために必要な基礎理論や分析概念を習得することを目標とする。
授業計画	学校組織やリーダーシップの動的な理解を目的として、邦文及び英文文献を輪読するとともに、日本の学校経営・リーダーシップに関する小規模な調査を実施し、その結果を検討したい。文献リストは ITC-LMS に掲示する。
授業の方法	文献研究に加えて、日本の学校経営に関する調査研究を実施し、その結果を検討する。
成績評価方法	平常点で評価する。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時間割コード	23-303-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	勝野 正章				
授業科目	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・実地研究)				
講義題目	学校経営実地研究 Fieldwork in School Management				

授業の目標・概要	学校経営の現場におけるフィールドワーク(観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む)を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。
授業計画	最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。
授業の方法	受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。
成績評価方法	中間報告、最終報告(レポート)によって評価する。
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	なし

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	村上 祐介				
授業科目	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)				
講義題目	教育行政実地研究 Fieldwork in Educational Administration				

授業の目標・概要	教育行政・政策の現場におけるフィールドワーク(観察、調査、実習など)を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探求し、自らの問題意識と調査研究の構想を深めることを目標とする。受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。
授業計画	初回の授業時にガイダンスを行い、実地研究の方法と進め方について説明する。その後、受講生各自が研究計画書を作成し、それについて議論を進めながら各自で研究を進める。適宜、中間報告と最終報告を行い、期末レポートを作成する。
授業の方法	受講生による研究報告と討論によって授業を進める。
成績評価方法	中間報告と最終報告、期末レポートによって評価を行う。
教科書	特になし
履修上の注意・備考	受講生の研究計画や状況に合わせてながら授業を実施する。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担当教員	橋野 晶寛				
授業科目	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)				
講義題目	教育政策実地研究 Fieldwork in Education Policy				

授業の目標・概要	教育政策に関する調査を通して、研究の構想および調査の設計を深めることを目標とする。受講生それぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、調査を進める。
授業計画	初回授業時に、実地研究の方法と進め方について説明する。受講生各自が研究計画書を作成し、それについて議論を進めながら各自で研究を進めた上で、中間報告と最終報告を行う。
授業の方法	受講生による研究報告と討論による。
成績評価方法	中間報告、最終報告(レポート)によって評価する。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。
その他	

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-17	単位数	2	学 期	通年
担当教員	勝野 正章				
授業科目	学校開発政策・論文指導				
講義題目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授業の目標・概要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授業計画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授業の方法	教育行政研究論文指導(村上准教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成績評価方法	平常点
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	なし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-18	単位数	2	学 期	通年
担当教員	勝野 正章				
授業科目	学校開発政策・論文指導				
講義題目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授業の目標・概要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授業計画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授業の方法	教育行政研究論文指導(村上准教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成績評価方法	平常点
教科書	なし
履修上の注意・備考	なし
その他	なし

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-19	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	村上 祐介				
授業科目	学校開発政策・論文指導				
講義題目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授業の目標・概要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授業計画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授業の方法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。当面オンラインで授業を行う予定であるが、対面で授業を実施する可能性がある。
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-20	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	村上 祐介				
授業科目	学校開発政策・論文指導				
講義題目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授業の目標・概要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの博士論文の作成・執筆に役立てる。
授業計画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授業の方法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。当面オンラインで授業を行う予定であるが、対面で授業を実施する可能性がある。
成績評価方法	平常点
教科書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-21	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	橋野 晶寛				
授業科目	学校開発政策・論文指導				
講義題目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授業の目標・概要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授業計画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授業の方法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育行政研究論文指導(村上准教授)との共同の論文指導として実施する。
成績評価方法	平常点による
教科書	特になし
履修上の注意・備考	・受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。・オンラインで実施するが、初回もしくは4月のいずれかの回において対面で授業実施する回を設けるようにする。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時間割コード	23-303-22	単 位 数	2	学 期	通年
担当教員	橋野 晶寛				
授業科目	学校開発政策・論文指導				
講義題目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授業の目標・概要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授業計画	受講者と相談し、決定する。
授業の方法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育行政研究論文指導(村上准教授)との共同の論文指導として実施する。
成績評価方法	平常点による。
教科書	特になし。
履修上の注意・備考	・受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。・オンラインで実施するが、初回もしくは4月のいずれかの回において対面で授業実施する回を設けるようにする。
その他	

本研究科他コース学生	履修 不可
本学他研究科学生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

- vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧 削除
- viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧 削除
- ix. 地図 削除